第５章　自然科学的分析の成果

第１節　仲戸東遺跡、仲戸遺跡出土木製品の樹種同定及び放射性炭素年代測定

文化財調査コンサルタント株式会社

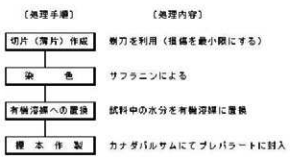
１．はじめに

仲戸東遺跡、仲戸遺跡は香川県東かがわ市川東に所在する。本報告では、同遺跡から出土した、木質遺物 109 試料の樹種同定結果について述べる。

２．試料と方法

(1) 樹種同定

香川県埋蔵文化財センターから提供を受けた 109 試料（第１・２表）を対象に、樹種同定を行った。



第 101 図　樹種鑑定用プレパラート作製フローチャート

顕微鏡観察用永久プレパラートは、第 101 図に示すフローチャートに従い作成した。

顕微鏡観察は、光学顕微鏡下で４～ 600 倍の倍率で行った。同定した分類群ごとに最も特徴的な試料について、３断面の顕微鏡写真撮影を行うとともに、記載を行った。

また、同定に利用した永久プレパラートは、香川県埋蔵文化財センターに納品した。

(2)AMS 年代測定

第２表中の試料番号：105(報文番号：2) について、AMS 年代測定を実施した。

測定試料に対して 1.2N 塩酸→ 1N 水酸化ナトリウム→ 1.2N 塩酸の順で洗浄を行った後、二酸化炭素を生成、精製し、グラファイトに調整した。14C 濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568 年で年代計算を行った。暦年代較正には OxCal ver. 4.23（Bronk Ramsey,2009）を用い、INTCAL13（Reimer et al.,2013）を利用した。

３．樹種記載

分類群ごとに代表的な試料（下線）の記載を行うとともに、３断面の顕微鏡写真撮影を行い、図版に示した。国内での分布域は北村・村田（1982a, 1982b）を引用した。また、第１・２表に全試料の同定結果を示している。

(1) カヤ　Torrea nucifera (Linn.) Sieb. et Zucc.

①試料No.(報文番号)：31(238),107(42)

②記載:構成細胞は仮道管、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材の幅は狭い。仮道管にはらせん肥厚があり、２本のらせんが対になる傾向がある。分野壁孔はヒノキ型で、２～４個存在する。以上の組織上の特徴から、カヤと同定した。

③分布：カヤ：暖帯から温帯下部：本州（宮城県以南）・四国・九州

(2) モミ属　Abies sp.

①試料№（報文№）：3(104),5(106),14(8),16(108),17(103),45(271),48(250),53(269),56(248),92(267)

②記載：構成細胞は仮道管、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材の幅は広い。放射柔細胞の細胞高は高い。分野壁孔は小型のスギ型で3～4個存在し、放射柔細胞の末端壁はじゅず状を示す。以上の組織上の特徴から、モミ属と同定した。また、モミ属はモミ、ウラジロモミ、シラベ、トドマツ、アオモリトドマツから成る。

③分布：モミ：暖帯から温帯下部：本州（秋田県から南）・四国・九州（屋久島まで）　ウラジロモミ：温帯上部：本州（栃木県那須山から紀伊半島）・四国　シラベ：温帯上部：本州（福島県から和歌山県）・四国　トドマツ：温帯上部：北海道（石狩から北部と日高から東部）・南千島（国後、色丹、択捉）

アオモリトドマツ：温帯上部：本州（中部以北）

(3) マツ属　複維管束亜属 Pinus sub. Diploxlon sp.

①試料№（報文№）：13(136),23(237),25(232),27(366),30(261),60(105),61(109),93(268),94(245),98(259)

②記載：構成細胞は仮道管、放射仮道管、放射柔細胞、垂直樹脂道及び水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞からなる。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材の幅は広い。放射仮道管には鋸歯状肥厚が認められる。放射組織は単列

試料№	報告番号	樹種	器種	遺跡名	地区名	遺構名	層位
1	138	クワ属	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
2	134	クスノキ科類似	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
3	104	モミ属	板材	仲戸東	I区	SR03	下層
4	110	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SR03	下層
5	106	モミ属	板材	仲戸東	I区	SR03	下層
6	112	ヒノキ属類似	加工木	仲戸東	I区	SR03	上層
7	129	コナラ属アカガシ亜属	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
8	125	コナラ属アカガシ亜属	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
9	121	クリ	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
10	128	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
11	126	トチノキ	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
12	118	サカキ	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
13	136	マツ属（複維管束亜属）	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
14	8	モミ属	板材	仲戸東	I区	SR03	
15	367	ヒノキ属類似	角材	仲戸東	I区	SR04	下層
16	108	モミ属	板材	仲戸東	I区	SR03	下層
17	103	モミ属	部材	仲戸東	I区	SR03	下層
18	13	コナラ属アカガシ亜属	杭	仲戸東	I区	SR04	上層
19	12	コナラ属コナラ亜属	杭	仲戸東	I区	SR04	下層
20	266	ヒノキ属類似	角材	仲戸東	I区	SD02	下層
21	273	ヒノキ属	加工木	仲戸東	I区	SD02	下層
22	287	スダジイ	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
23	237	マツ属（複維管束亜属）	角材	仲戸東	I区	SD02	下層
24	251	ヒノキ属類似	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
25	232	マツ属（複維管束亜属）	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
26	113	ヒノキ属類似	棒状	仲戸東	I区	SR03	上層
27	366	マツ属（複維管束亜属）	板材	仲戸東	I区	SR04	下層
28	247	ヒノキ属類似	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
29	262	ヒノキ属類似	加工木	仲戸東	I区	SD02	下層
30	261	マツ属（複維管束亜属）	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
31	238	カヤ	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
32	274	サカキ類似	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
33	288	サカキ類似	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
34	285	サカキ	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
35	279	クスノキ科類似	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
36	277	クスノキ科類似	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
37	283	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
38	278	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
39	228	ヒサカキ類似	編み錘	仲戸東	I区	SD02	下層
40	265	ヒノキ属類似	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
41	117	ヒノキ属類似	板材	仲戸東	I区	SR03	下層
42	141	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
43	231	ヒノキ属類似	曲物底板	仲戸東	I区	SD02	下層
44	229	サカキ	編み錘	仲戸東	I区	SD02	下層
45	271	モミ属	加工木	仲戸東	I区	SD02	下層
46	240	ヒノキ属類似	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
47	243	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
48	250	モミ属	建築部材	仲戸東	I区	SD02	下層
49	270	ヒノキ属	加工木	仲戸東	I区	SD02	下層
50	234	ヒノキ属	加工木	仲戸東	I区	SD02	下層
51	282	サカキ	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
52	36	サワグルミ類似	楯	仲戸東	I区	SD02	下層
53	269	モミ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
54	276	サカキ類似	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
55	230	コナラ属アカガシ亜属	柄状	仲戸東	I区	SD02	下層
56	248	モミ属	建築部材？	仲戸東	I区	SD02	下層
57	116	サカラ属	加工木	仲戸東	I区	SR03	下層
58	137	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
59	120	コナラ属コナラ節	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
60	105	マツ属（複維管束亜属）	板材	仲戸東	I区	SR03	下層
61	109	マツ属（複維管束亜属）	板材	仲戸東	I区	SR03	下層
62	122	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
63	119	クリ	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
64	101	サカキ	編み錘	仲戸東	I区	SR03	下層
65	139	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	下層

第1表　樹種同定結果表1

66	140	コナラ属コナラ節	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
67	111	コナラ属アカガシ亜属	加工木	仲戸東	I区	SR03	下層
68	130	クスノキ科類似	杭	仲戸東	I区	SR03	下層
69	132	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	最下層
70	114	ヒノキ属類似	板材	仲戸東	I区	SR03	最下層
71	115	ヒノキ属類似	角材	仲戸東	I区	SR03	最下層
72	135	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	最下層
73	133	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	最下層
74	127	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	最下層
75	124	トチノキ	杭	仲戸東	I区	SR03	
76	102	コナラ属アカガシ亜属	柄状	仲戸東	I区	SR03	最下層
77	123	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SR03	最下層
78	131	コナラ属コナラ節	杭	仲戸東	I区	SR03	
79	49	コナラ属コナラ節	杭	仲戸東	I区	SK33	
80	50	サワグルミ	加工木	仲戸東	I区	SK33	
81	51	サワグルミ	加工木	仲戸東	I区	SK33	
82	289	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SD02	砂直上
83	275	コナラ属コナラ節	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
84	272	クスノキ科類似	加工木	仲戸東	I区	SD02	下層
85	227	ヒサカキ	編み師	仲戸東	I区	SD02	下層
86	258	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
87	239	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
88	233	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
89	281	ヒサカキ	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
90	286	ヒサカキ	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
91	246	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
92	267	モミ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
93	268	マツ属（複維管束亜属）	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
94	245	マツ属（複維管束亜属）	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
95	242	ヒノキ属	角材	仲戸東	I区	SD02	下層
96	264	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
97	244	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
98	259	マツ属（複維管束亜属）	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
99	280	ヒサカキ	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
100	241	ヒノキ属	角材	仲戸東	I区	SD02	下層
101	284	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸東	I区	SD02	下層
102	249	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SD02	下層
103	30	ヒノキ属	板材	仲戸東	I区	SK27	
104	235	ヒノキ属	槽	仲戸東	I区	SD02	下層
105	2	ヒノキ属類似	柱材	仲戸東	II区	SP17	
106	53	コナラ属クヌギ節	杭	仲戸	IV区	SD02	下層
107	42	カヤ	板材	仲戸	I区	SR06	上層
108	20	ヒノキ属	板材	仲戸	I区	SR06	最下層
109	21	ヒノキ属	板材	仲戸	I区	SR06	最下層

第2表　樹種同定結果表2

であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を示す。エピセリウム細胞は薄壁である。垂直樹脂道は早、晩材部ともに分布し、チロソイドが見られる。分野壁孔は窓状である。以上の組織上の特徴から、マツ属（複維管束亜属）と同定した。また、マツ属複維管束亜属はアカマツ、クロマツから成る。

③分布：アカマツ：暖帯から温帯下部：北海道南部・本州・四国・九州　クロマツ：暖帯：本州・四国・九州

(4) ヒノキ属 Chamaecyparis sp.

①試料№（報文№）：4(110),21(254),47(243),49(270),50(234),86(258),87(239),88(233),91(246),95(242),96(264),97(244),100(241),102(249),103(30),104(235),108(20),109(21)

②記載：仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行は急で、晩材幅は狭い。樹脂細胞は早・晩材の移行部から晩材にかけて分布している。放射組織は単列、大部分は10細胞高以下で低い。分野壁孔はヒノキ型で、2～4個存在する。以上の組織上の特徴から、ヒノキ属と推定できる。また、ヒノキ属はヒノキとサワラから成る。

③分布：ヒノキ：暖帯：本州（福島県以南の主として太平洋側）・四国・九州（屋久島まで）　サワラ：温帯：本州（岩手県以西）・四国・九州

(5) ヒノキ属類似 cf.Chamaecyparis sp.

①試料№（報文№）：6(112),15(367),20(266),24(251),26(113),28(247),29(262),40(265),41(117),43(231),46(240),70(114),71(115),105(2)

②記載：分野壁孔以外の特徴はヒノキ属と一致するが、ヒノキ型分野壁孔が確認できなかった試料を、一括して「ヒノキ属類似」とした。試料№（報文№）105（2）は、仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材幅はやや狭い。樹脂細胞の多くは早・晩材の移行部から晩材にかけて分布している。放射組織は単列、大部分は数細胞高で低い。分野壁孔のほとんどは、放射柔細胞を充填する物質によって隠されるか、壁孔縁に沿って抜けることなどによって確認できない。壁

孔縁に沿って抜けた痕跡から、2～4個存在したことが分かる。また、ヒノキ属はヒノキとサワラから成る。

③分布：ヒノキ：暖帯：本州（福島県以南の主として太平洋側）・四国・九州（屋久島まで）　サワラ：温帯：本州（岩手県以西）・四国・九州

(6) サワグルミ　Pterocarpa rhoifolia Sieb. et Zucc.

①試料№（報文№）：80(50),81(51)

②記載：「中庸」から「小さい」道管が単独ないし2～3個放射方向に複合し、年輪内に均等に分布する散孔材である。道管せん孔は単せん孔である。すべての道管内腔にチロースがよく発達している。軸方向柔組織は周囲状、散在状のほか、短接線状も認められる。放射組織のほとんどが平伏細胞からなる同性で、1～2(3) 細胞幅であるが、まれに辺縁に方形細胞が認められる。以上の組織上の特徴から、サワグルミと同定した。

③分布：サワグルミ：温帯：北海道・本州・四国・九州

(7) サワグルミ類似　cf. Pterocarpa rhoifolia Sieb. et Zucc.

①試料№（報文№）：52(236)

②記載：「中庸」から「小さい」道管が、ほとんど単独で年輪内に分布する散孔材である。道管せん孔は単せん孔で、道管内腔にチロースが顕著である。試料劣化のため、軸方向柔組織が十分に観察できなかった。放射組織のほとんどが平伏細胞からなる同性で、1～2細胞幅である。以上の組織上の特徴から、サワグルミの可能性が指摘できるが、軸方向柔組織の分布が十分に観察できなかったことから、「サワグルミ類似」に止めた。

③分布：サワグルミ：温帯：北海道・本州・四国・九州

(8) コナラ属 アカガシ亜属 Quercus sub. Cyclobalanopsis sp.

①試料№（報文№）：7(129),8(125),18(13),55(230),67(111),76(102)

②記載：「中庸」で楕円形の道管が単独で放射方向に配列する放射孔材である。道管せん孔は単せん孔である。また、道管にはチロースが非常によく発達し、周囲仮道管が存在する。軸方向柔組織は接線方向に1ないし2細胞幅の独立帯状柔組織を形成している。放射組織は同性で、低い単列放射組織と極めて幅の広い広放射組織がある。更に道管放射組織壁孔は典型的な柵状を示す。以上の特徴から、コナラ属アカガシ亜属と同定した。アカガシ亜属は、イチイガシ、アカガシ、ハナカガシ、ツクバネガシ、アラカシ、シラカシ、ウラジロガシ、オキナワウラジロガシから成る。

③分布：イチイガシ：暖帯南部：本州（関東南部以西）・四国・九州　アカガシ：暖帯：本州（宮城県、新潟県以南）・四国・九州　ツクバネガシ：暖帯：本州（宮城県南部以南、富山県以西）・四国・九州　アラカシ：暖帯：本州（宮城県以南）・四国・九州・沖縄　シラカシ：暖帯：本州（福島県以南）・四国・九州　ウラジロガシ：暖帯：本州（宮城県南部、新潟県以南）・四国・九州　オキナワウラジロガシ：亜熱帯：九州（奄美大島、徳之島）・沖縄

(9) コナラ属 コナラ亜属　Quercus sub. Lepidobalanus sp.

①試料№（報文№）：19(12)

②記載：試料は芯持ちで、直径が25×23mmと細く枝材と考えられ、組織が未発達であった。更に劣化が激しく、放射断面が得られなかった。「小さい」円形ないし楕円形の道管が単独で1列に配列する環孔材である。孔圏外では道管の径を減じ、「小さい」から「非常に小さい」道管が放射状に配列する。

道管せん孔は単せん孔である。道管内腔にチロースが発達している。孔圏道管の周りには、周囲仮道管が存在している。軸方向柔組織は不鮮明である。放射組織は同性で、単列放射組織と幅の広い広放射組織からなる、典型的な複合型放射組織である。以上の特徴から、コナラ亜属と同定できるが、孔圏外道管の形状や、導管放射組織間壁孔が観察できなかったことから、コナラ節、クヌギ節の区別はできなかった。コナラ亜属は、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワ、クヌギ、アベマキから成る。

③分布：　カシワ：温帯、暖帯：北海道・南千島・本州・四国・九州　ミズナラ：温帯：北海道・南千島・本州・四国・九州　コナラ：温帯下部、暖帯：北海道・本州・四国・九州　ナラガシワ：暖帯：本州（岩手県、秋田県以西）・四国・九州　クヌギ：暖帯：本州（岩手県、山形県以南）・四国・九州・沖縄　アベマキ：暖帯：本州（山形県以西南）・四国・九州

(10) コナラ属 コナラ亜属 コナラ節 Quercus sub. Lepidobalanus Sect. Prinus sp.

①試料No.(報文No.)：59(120),66(140),78(131),79(49),83(274)

②記載：「小さい」楕円形の道管が単独で１列に配列する環孔材である。孔圏外では急に道管の径を減じ、「非常に小さい」から「極めて小さい」道管が集合して火炎状に配列する。小道管は薄壁で角張っている。道管せん孔は単せん孔である。導管放射組織間壁孔は見かけ上単壁孔で、幾つかの形状のものが認められる。道管内腔にチロースがよく発達している。孔圏道管の周りに周囲仮道管が存在している。軸方向柔組織は周囲状の外に、短接線状のものが顕著に見られる。放射組織は同性で、単列放射組織と幅の広い広放射組織からなり、典型的な複合型放射組織である。以上の特徴から、コナラ亜属コナラ節と同定した。コナラ節は、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワから成る。

③分布：カシワ：温帯、暖帯：北海道・南千島・本州・四国・九州　ミズナラ：温帯：北海道・南千島・本州・四国・九州　コナラ：温帯下部、暖帯：北海道・本州・四国・九州　ナラガシワ：暖帯：本州（岩手県、秋田県以西）・四国・九州

(11) コナラ属 コナラ亜属 クヌギ節 Quercus sub. Lepidobalanus Sect. Cerris sp.

①試料No.(報文No.)：10(128),37(283),38(278),42(141),58(137),62(122),65(139),69(132),72(135),73(133),74(127),77(123),82(289),101(284),106(53)

②記載：年輪幅は狭い。「中庸」で円形から楕円形の道管が単独で１から２列に配列する環孔材である。孔圏外では徐々に道管の大きさを減じ、単独で放射方向に配列している。小道管は厚壁であり、円形を示す。道管せん孔は単せん孔である。道管放射組織間壁孔は柵状を示す。孔圏道管にチロースが発達している。孔圏道管の周りに周囲仮道管が存在している。軸方向柔組織は孔圏外で短接線状が目立つ。放射組織は同性で、多数の単列放射組織と極めて幅の広い広放射組織からなり、典型的な複合型放射組織である。以上の特徴から、コナラ亜属クヌギ節と同定した。クヌギ節はクヌギ、アベマキから成る。

③分布：クヌギ：暖帯：本州（岩手県、山形県以南）・四国・九州・沖縄　アベマキ：暖帯：本州（山形県以西南）・四国・九州

(12) クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.

①試料No.(報文No.)：9(121),63(119)

②記載：「中庸」で楕円形の道管がほとんど単独で多列（２～３かそれ以上）に配列する環孔材である。孔圏部の幅はかなり広く、２～３列目以降は道管の分布がやや疎になっている。孔圏外の小道管は単独あるいは２～３個集合して放射状に配列している。道管せん孔は単せんである。道管内腔にチロースが非常に発達している。孔圏道管の周りに周囲仮道管が存在している。軸方向柔組織は周囲状の他に短接

線状が特に孔圏外でよく発達している。放射組織は単列同性である。以上の特徴から、クリと同定した。
③分布：温帯下部、暖帯：北海道（西南部）・本州・四国・九州

(13) スダジイ　Castanopssis　cuspidata var. sieboldii (Makino) Nakai

①試料№(報文№)：22(287)

②記載：「小さい」楕円形の道管がほとんど単独で放射方向に並ぶ、放射孔材である。孔圏外の道管は「非常に小さい」から「極めて小さい」で、火炎状に配列する。道管せん孔は単せん孔で、道管中にはチロースが認められる。孔圏道管の周りには周囲仮道管が存在する。軸方向柔細胞は接線状に配列する。放射組織はすべて単列同性であり、肉眼観察でも広放射組織がないことを確認した。更に道管放射組織壁孔は典型的な柵状を示す。以上の組織上の特徴からスダジイと同定した。
③分布：スダジイ：本州（福島県、新潟県佐渡以南）・四国・九州・沖縄

(14) クワ属　Morus sp.

①試料№(報文№)：1(138)

②記載：孔圏部では「中庸」で楕円形ないし円形の道管が、単独ないし２～３個接合して２（3）列に配列する環孔材である。孔圏外では小道管が２～３個複合あるいは小塊状に数個集合して、散在状に分布している。道管せん孔は単せん孔である。道管内腔にチロースが非常によく発達している。軸方向柔組織は周囲状である。放射組織は異性で、１～８細胞幅でほとんど平伏細胞からなるが、上下縁辺に１～２個の直立細胞が存在する。５～８細胞幅の紡錘形放射組織が目立つ。以上の組織上の特徴から、クワ属と同定した。クワ属はヤマグワ、ケグワから成る。
③分布：ヤマグワ：温帯から亜熱帯：北海道・日本全土　ケグワ：暖帯：本州（和歌山、中国地方）・四国・九州

(15) クスノキ科類似 cf. Lauraceae

①試料№(報文№)：2(134),35(279),36(277),68(130),84(275)

②記載：劣化が激しく、良好な切片が得られなかった。年輪幅は狭く、「小さい」から「非常に小さい」道管が単独ないし２～４個放射方向に複合して、年輪内に均等に分布する散孔材である。道管せん孔は単せん孔である。道管内腔にチロースがよく発達している。軸方向柔組織は周囲状で、道管の周囲をさや状に包んでいる。放射組織は異性で、１～２細胞幅である。以上の組織上の特徴から、クスノキ科の可能性がある。クスノキ科は多くの種から成り、代表的な種はシロダモ、ハマビワ、クロモジ、タブノキ、クスノキ、シナクスモドキ、スナヅルである。
③分布：シロダモ：暖帯：本州（宮城県、富山県以南）・四国・九州・沖縄・小笠原　ハマビワ：暖帯、亜熱帯：本州（山口県、島根県）・四国・九州・沖縄　クロモジ：温帯下部、暖帯：本州、四国、九州　タブノキ：暖帯：本州（日本海側は青森県から太平洋側は岩手県中部から南）・四国・九州・沖縄　クスノキ：暖帯、亜熱帯：本州（関東地方以西）・四国・九州　シナクスモドキ：暖帯、亜熱帯：九州（宮崎県、種子島）　スナズル：亜熱帯、熱帯：九州（鹿児島県佐多岬と屋久島以南）

(16) ヤマザクラ型　cf. Prunus jamazakura Sieb. ex Koids

①試料№(報文№)：57(116)

②記載：「非常に小さい」道管が、単独ないし数個、放射方向あるいは斜方向に接合して年輪内に均等に分布する散孔材である。道管せん孔は単せん孔である。道管内腔に濃色の着色物質を充填しているのが、散見される。軸方向柔組織は散在状で、余り目立たない。放射組織はほとんど平伏細胞からなる同

性で、1～3細胞幅であり、分布数はやや密となっている。以上の組織上の特徴から、サクラ属のヤマザクラ型と同定した。ヤマザクラ型にはヤマザクラのほか、シウリザクラなどが含まれている。
③分布：ヤマザクラ：温帯、暖帯：本州（関東地方以西）・四国・九州　シウリザクラ：温帯上部：本州（隠岐島、中部以北）、北海道

(17) トチノキ　Aesculus turbinata Blume（トチノキ科）
①試料No.（報文No.）：11(126),75(124)
②記載：「小さい」から「非常に小さい」道管が、単独ないし放射方向に2～3個複合し、年輪内に均等に分布する散孔材である。道管せん孔は単せん孔である。軸方向柔組織は1細胞幅でターミナル状に分布する。放射組織は単列同性で、多くは20細胞高以下であるが、層階状配列は顕著ではない。以上の組織上の特徴から、トチノキと同定した。
③分布：トチノキ：温帯：北海道・本州・四国・九州

(18) サカキ　Cleyera japonica Thunb.
①試料No.（報文No.）：12(118),34(285),44(229),51(282),64(101)
②記載：「非常に小さい」道管が単独ないし2個接合して年輪内に均等に分布する散孔材である。道管せん孔は階段せん孔で、barの数は多い。木部繊維は非常に厚壁である。軸方向柔組織は散在状である。放射組織は異性で、1～2細胞幅である。放射柔細胞は平伏細胞、直立細胞、方形細胞の3種類がすべてが存在する異性で、細胞壁は厚壁である。以上の特徴から、サカキと同定した。
③分布：亜熱帯、暖帯：本州（茨城、石川県以西南）・四国・九州

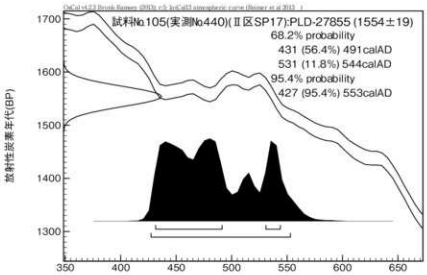
(19) サカキ類似　cf. Cleyera japonica Thunb.
①試料No.（報文No.）：32(273),33(288),54(276)
②記載：試料の劣化が激しく、「サカキ」と同定するに必要かつ十分な特徴が観察できなかった試料を、一括して「サカキ類似」とした。試料No.（報文No.）：32(273)では、「非常に小さい」道管がほとんど単独（まれに2個接合）して年輪内に均等に分布する散孔材である。木部繊維は非常に厚壁である。軸方向柔組織が不顕著である。放射組織は異性で、1～2細胞幅である。放射柔細胞は平伏細胞、直立細胞、方形細胞の3種類がすべてが存在する異性で、細胞壁は厚壁である。以上の特徴から、サカキの可能性が指摘できるが、道管せん孔が観察できなかったことから、「サカキ類似」に止めた。
③分布：亜熱帯、暖帯：本州（茨城、石川県以西南）・四国・九州

(20) ヒサカキ　Eurya japonica Thunb.
①試料No.（報文No.）：85(227),89(281),90(286),99(280)
②記載：「非常に小さい」道管が単独ないし数個複合して年輪内に均等に分布する散孔材である。道管せん孔は階段せん孔で、barの数は多い。木部繊維は非常に厚壁である。軸方向柔組織は多く、散在状となっている。放射組織は平伏細胞、直立細胞、方形細胞の3種類がすべてが存在する異性で、1～3細胞幅で、3細胞幅のものが多い。以上の組織上の特徴から、ヒサカキと同定した。
③分布：本州（岩手県、秋田県以南）・四国・九州・沖縄

(21) ヒサカキ類似　cf. Eurya japonica Thunb.
①試料No.（報文No.）：39(228)
②記載：試料の劣化が激しく、良好な断面が得られなかった。「非常に小さい」道管が単独ないし数個複合して年輪内に均等に分布する散孔材である。道管せん孔は階段せん孔で、barの数は多い。放射組

試料					前処理	測定年代＊1 (yrBP ± 1 σ)	δ 13 C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	補正年代＊2 (yrBP ± 1 σ)	暦年較正年代		測定番号 (PLD-)
試料No.	実測No.	種類	出土地点	重量 (g)						1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲	
105	440	木片	Ⅱ区 SP17	0.004	超音波洗浄 / 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1.0N, 塩酸 1.2N)	1562 ± 19	25.44 ± 0.23	1554 ± 19	1555 ± 20	AD431-491(56.4%) AD531-544(11.8%)	AD427-553(95.4%)	27855

第３表　年代測定結果



第 102 図　暦年較正結果

織は異性で、１～３細胞幅のものが確認できるが、３細胞幅のものの頻度が分からなかった。以上の組織上の特徴から、ヒサカキの可能性が高いが、サカキの可能性も残り、「ヒサカキ類似」に止めた。

③分布：本州（岩手県、秋田県以南）・四国・九州・沖縄

３．AMS 年代測定結果

第３表に、試料の詳細及び、年代測定結果を示した。更に、第 102 図に Oxcal ver. 4.23 による暦年較正結果を示した。

５．年代測定結果について

測定試料は出土遺物などとの関連から、古代以前の柱材とされていた。年代測定結果は 1,555 ± 20yrBP で、AD427 ～ 553 年 (2 σ) の暦年較正年代が得られた。得られる最も外側の年輪を測定試料として採取したことから、およそ５世紀前半から６世紀中頃（古墳時代中期から後期）以降に伐採されたヒノキ材と考えられる。このことは、「古代以前」という推定年代と矛盾しない結果であった。

引用文献

Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
北村四郎・村田　源（1982a）原色日本植物図鑑木本編〔Ⅰ〕改訂 17 刷．保育社，p.453，大阪．
北村四郎・村田　源（1982b）原色日本植物図鑑木本編〔Ⅱ〕改訂 8 刷．保育社，p.545，大阪．
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

図版1　木製品の顕微鏡写真1

カヤ属 *Torrea* sp.:試料№107(133)(W14122915)

横断面

接線断面

放射断面

モミ属 *Abies* sp.:試料(実測)№14(15)(W14121914)

横断面

接線断面

放射断面

マツ属 (複維管束亜属) *Pinus* sub. *Diploxlon* sp. : 試料 (実測)№98(123)(W14122906)

横断面

接線断面

放射断面

図版２　木製品の顕微鏡写真２

ヒノキ属 *Chamaecyparis* sp.:試料№50(62)(W14122414)

横断面

接線断面

放射断面

ヒノキ属類似 cf.*Chamaecyparis* sp.:試料№105(440)(W14122913)

横断面

接線断面

放射断面

サワグルミ *Pterocarpa rhoifolia* Sieb. et Zucc. :試料№80(97)(W14122612)

横断面

接線断面

放射断面

図版３　木製品の顕微鏡写真３

サワグルミ類似 cf.*Pterocarpa rhoifolia* Sieb. et Zucc.:試料(実測)№52(64)(W14122416)

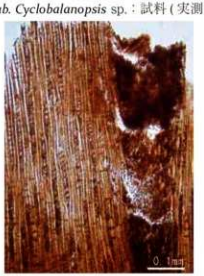
横断面

接線断面

放射断面

コナラ属アカガシ亜属 *Quercus sub. Cyclobalanopsis* sp.：試料 (実測)№55(67)(W14122419)

横断面



接線断面

放射断面

コナラ亜属 cf.*Castanopsis* sp.:試料(実測)№19(21)(W14122204)

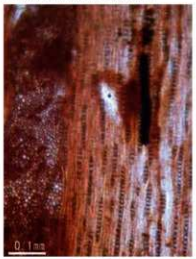
横断面

接線断面

図版４　木製品の顕微鏡写真４

コナラ属コナラ節 *Quercus* sp.:試料(実測)№78(94)(W14122610)

横断面



接線断面

放射断面

コナラ属クヌギ節 *Quercus* (sect. Aegilops) sp.:試料(実測)№82(99)(W14122614)

横断面

接線断面

放射断面

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.:試料(実測)№9(10)(W14121909)

横断面

接線断面

放射断面

図版5　木製品の顕微鏡写真5

スダジイ *Castanopssis cuspidata var. sieboldii* (Makino) Nakai:試料(実測)№22(25)(W14122207)

横断面

放射断面

クワ属 *Morus* sp.:試料(実測)№1(1)(W14121901)

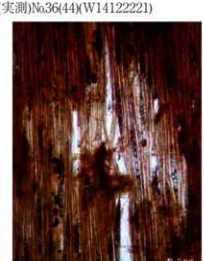
横断面

接線断面

放射断面

クスノキ科類似 cf.Lauraceae:試料(実測)№36(44)(W14122221)

横断面



接線断面

放射断面

図版６　木製品の顕微鏡写真６

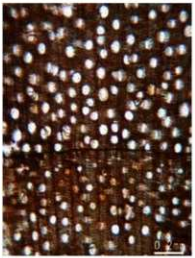
サクラ属 *Prunus* sp.:試料(実測)№57(70)(W14122501)

横断面

接線断面

放射断面

トチノキ･*Aesculus turbinata.* Blume.:試料(実測)№11(12)(W14121911)

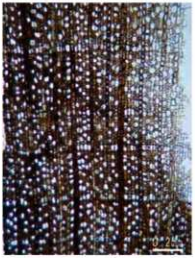


横断面

接線断面

放射断面

サカキ･*Cleyera japonica* Thunb.:試料(実測)№12(13)(W14121912)



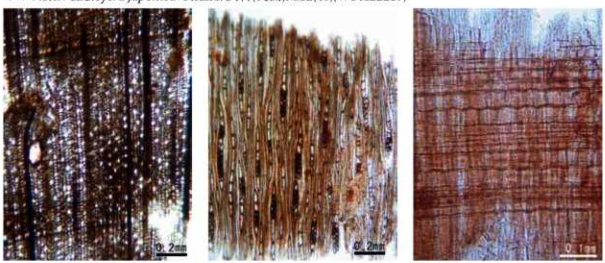
横断面

接線断面

放射断面

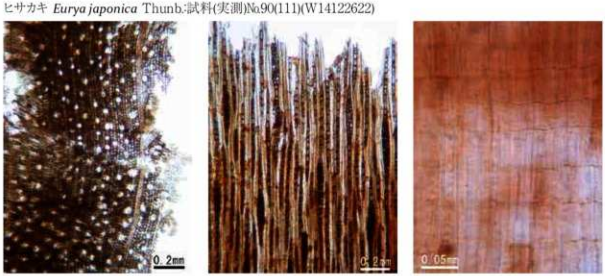
図版7　木製品の顕微鏡写真7

サカキ類似 cf.*Cleyera japonica* Thunb.:試料(実測)№32(40)(W14122217)



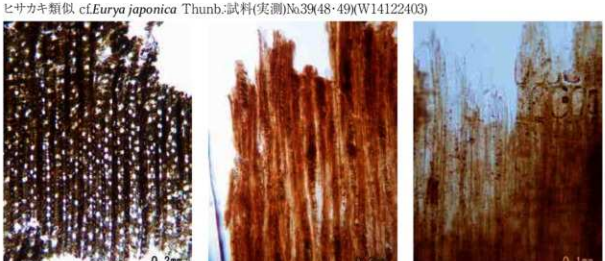
横断面　　接線断面　　放射断面

ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb.:試料(実測)№90(111)(W14122622)



横断面　　接線断面　　放射断面

ヒサカキ類似 cf.*Eurya japonica* Thunb.:試料(実測)№39(48・49)(W14122403)



横断面　　接線断面　　放射断面

第２節　仲戸遺跡・仲戸東遺跡から出土した木材・炭化材の樹種

（株）加速器分析研究所

はじめに

仲戸遺跡および仲戸東遺跡は、与田川および古川下流の沖積低地上に立地する。今回の発掘調査により、検出された旧河道 SR03 からは、時代時期不明の木株や炭化材が出土している。本報告では、これらの木株や炭化材の樹種同定を実施し、古植生や木材利用に関する資料を得る。

1. 試料

試料は、仲戸遺跡Ⅱ区の SR04 Ａ下層から出土した木株１点 (試料番号 5) と、仲戸東遺跡Ⅰ区の SR03 中層（灰層）から出土した炭化材４点 (試料番号１～４) である。

2. 分析方法

木株 (試料番号 5) は、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材 (試料番号１～４) は、自然乾燥させた後、３断面の割断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地･伊東 (1982) や Wheeler 他 (1998) を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を第４表に示す。試料は、木材・炭化材とも落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定されたが､試料番号１については木材組織が観察できず､種類不明である。解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Quercus sect. Cerris）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１～３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～ 20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

4. 考察

仲戸東遺跡Ⅰ区の SR03 中層から出土した炭化材は、炭化していることから何からの理由により火を受けていることが推定されるが、詳細は不明である。クヌギ節は、河畔林等に生育する落葉広葉樹であり、木材は重硬で強度が高い材質を有する。香川県内の事例では、下川津遺跡の古代とされる柱材、木錘、鎌柄、横槌、井出東Ⅰ遺跡の弥生時代中期とされる舟形木製品や分割材、小山・南谷遺跡Ⅰの古代とされる環構築材、岡清水遺跡の中世以降の炭窯出土炭化材等にクヌギ節が利用された例があり、古くから様々な用途に利用されていたことが推定される (島地・林 ,1990; 能城・鈴木 ,1990,1995; パリノ・サー

試料番号	遺跡名	調査区	遺構	層位	取上番号	性状	樹種
1	仲戸東遺跡	Ⅰａ区	SR03	中層	W189	炭化材	不明
2	仲戸東遺跡	Ⅰａ区	SR03	中層	W190	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
3	仲戸東遺跡	Ⅰａ区	SR03	中層	W191	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
4	仲戸東遺跡	Ⅰａ区	SR03	中層	W192	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
5	仲戸遺跡	Ⅱａ区	SR03	下層	W2	木株（生木）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節

第４表　樹種同定結果

ヴェイ株式会社,1997,2001)。

仲戸遺跡から出土した木株もクヌギ節であることから、クヌギ節がSR04 Aの河畔に生育しており、木材の入手は容易であったことが推定される。

引用文献

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.

伊東　隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ,木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東　隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ,木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.

伊東　隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ,木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東　隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ,木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東　隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ,木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

能城　修一・鈴木　三男,1990,昭和63年度調査の分析委託結果,「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　下川津遺跡－第２分冊」,(財)香川県埋蔵文化財センター,533-567.

能城　修一・鈴木　三男,1995,井手東Ⅰ遺跡出土の木製品の樹種,「井手東Ⅰ遺跡　一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第四冊（自然科学分析・考察編）」,高松市教育委員会・建設四国地方建設局,1-28.

パリノ・サーヴェイ株式会社,1997,小山・南谷遺跡から出土した木質遺物の樹種,「県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　小山・南谷遺跡Ⅰ」,香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター,67-73.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2001,岡清水遺跡から出土した炭化材の樹種,「岡清水遺跡　国道193号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」,香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター,145-148.

島地　謙・林　昭三,1990,昭和61年度調査の分析委託結果,「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　下川津遺跡　－第２分冊」,(財)香川県埋蔵文化財センター,520-532.

島地　謙・伊東　隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト,伊東　隆夫・藤井　智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

※）本測定は、当社協力会社・パリノ・サーヴェイ（株）にて実施した。

図版８　木材・炭化材の顕微鏡写真

1a　1b　1c

2a　2b　2c

1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節（試料番号5
2. コナラ属コナラ亜属クヌギ節（試料番号3
a:木口,b:柾目,c:板目

300μm:1a
200μm:1b,c
200μm:2a
200μm:2b,c

第3節　仲戸東・仲戸遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

仲戸東遺跡は、香川県東かがわ市川東 692-1（北緯 34° 14′ 32″東経 134° 19′ 54″）に所在する。仲戸遺跡は、東かがわ市川東 543（北緯 34° 14′ 33″東経 134° 19′ 46″）に所在する。測定対象試料は、仲戸東遺跡Ⅰ区 SR03 灰層（中層）から出土した炭化材 4 点（1 ～ 4：IAAA-82286 ～ 82289）、仲戸遺跡Ⅱ区 SR04 A下層から出土した木株（5：IAAA-82290）、合計 5 点である。

2　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

（2）酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

（3）試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で 2 時間加熱する。

（4）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO2）を精製する。

（5）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。

（6）グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

3　測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4　算出方法

（1）年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。

（2）14C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、δ 13C によって補正された値である。14C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の 14C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

（3）δ 13C は、試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により 13C/12C を測定した場合には表中に（AMS）と注記する。

（4）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の 14C 濃度の割合である。

（5）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ = 68.2%）あるいは 2 標準偏差（2 σ = 95.4%）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない 14C 年代値である。

なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース（Reimer et al 2004）を用い、OxCalv4.0 較正プログラム（Bronk Ramsey 1995　Bronk Ramsey 2001　Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001）を使用した。

5　測定結果

仲戸東遺跡Ⅰ区 SR03 灰層（中層）から出土した炭化材 4 点の 14C 年代は、1560 ± 30yrBP、1620 ± 30yrBP、1620 ± 30yrBP、1650 ± 30yrBP である。仲戸遺跡Ⅱ区 SR04 A 下層から出土した木株の 14C 年代は、3550 ± 40yrBP である。

試料形態から判断すると、No.1 ～ 4 は中央に木片の外面が土管状に残り、その内側に土壌や砂が入ったものである。おそらく表面のみが炭化して残存し、炭化していない内側が腐食したと予想される。確認された部分の中で最も外側の年輪から測定試料を採取した。樹皮や最外年輪部は確認されておらず、試料の帰属する年輪に応じた「古木効果」による年代差を考慮する必要がある。No.5 に関しては、樹皮が残り、その年代は樹木の枯死年代を示すと考えられる。

試料の炭素含有率はすべての試料が 60% 以上であり、十分な値であった。化学処理および測定内容にも問題が無く、妥当な年代を示すと判断される。

暦年較正年代（1 σ）は、No.1 ～ 4 が 347 ～ 543AD に含まれるが、その中でも 5 世紀から 6 世紀初

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-82286	No. 1	遺構：SR03　層位：炭層（中層）	炭化材	AAA	-29.46 ± 0.6	1,560 ± 30	82.35 ± 0.32
IAAA-82287	No. 2	遺構：SR03　層位：炭層（中層）	炭化材	AAA	-25.21 ± 0.92	1,620 ± 30	81.71 ± 0.34
IAAA-82288	No. 3	遺構：SR03　層位：炭層（中層）	炭化材	AAA	-30.14 ± 0.57	1,620 ± 30	81.71 ± 0.31
IAAA-82289	No. 4	遺構：SR03　層位：炭層（中層）	炭化材	AAA	-26.69 ± 0.7	1,650 ± 30	81.4 ± 0.32
IAAA-82290	No. 5	遺構：SR03　層位：下層	木株	AAA	-27.93 ± 0.76	3,550 ± 40	64.31 ± 0.28

[#3637-3638]

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82286	1,630 ± 30	81.6 ± 0.3	1,559 ± 31	434AD - 493AD (45.9%) 507AD - 521AD (9.7%) 527AD - 543AD (12.5%)	423AD - 568AD (95.4%)
IAAA-82287	1,630 ± 30	81.68 ± 0.3	1,622 ± 33	393AD - 440AD (38.2%) 485AD - 532AD (30.0%)	350AD - 368AD (3.1%) 380AD - 539AD (92.3%)
IAAA-82288	1,710 ± 30	80.85 ± 0.29	1,622 ± 30	396AD - 439AD (29.1%) 487AD - 531AD (29.　%)	356AD - 365AD (1.5%) 382AD - 538AD (93.9%)
IAAA-82289	1,680 ± 30	81.15 ± 0.29	1,653 ± 31	347AD - 370AD (15.3%) 378AD - 427AD (52.9%)	261AD - 282AD (3.8%) 324AD - 441AD (83.3%) 455AD - 460AD (0.4%) 485AD - 532AD (7.9%)
IAAA-82290	3,590 ± 30	63.92 ± 0.26	3,546 ± 35	1942BC - 1877BC (48.6%) 1842BC - 1821BC (11.5%) 1797BC - 1781BC (8.2%)	2010BC - 2001BC (1.1%) 1977BC - 1768BC (94.3%)

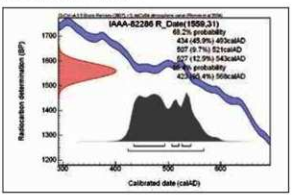
[参考値]

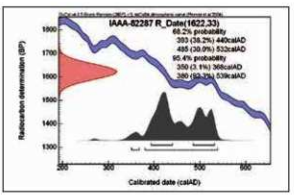
頭が中心である。No.5 は縄文時代後期中葉に相当する。

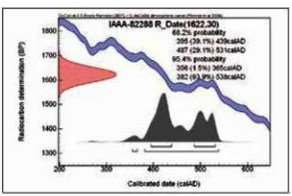
参考文献

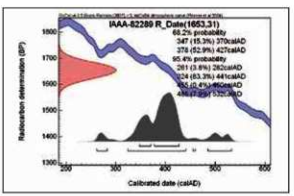
Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19, 355-363
Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430
Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389
Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

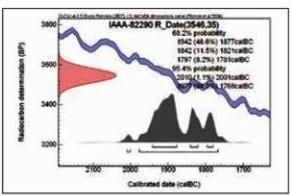
[参考] 暦年較正年代グラフ











第４節　仲戸遺跡における花粉、植物珪酸体分析

文化財調査コンサルタント株式会社

１．はじめに

仲戸遺跡は、香川県東かがわ市川東に所在する。本報告は、香川県埋蔵文化財センターの委託により、同遺跡内Ⅰ区において検出されたSR06内の堆積物（縄文時代晩期）、Ⅳ区において検出されたSR02内の堆積物（縄文時代後期）及びSD01（古代）、SD02（弥生時代終末期）内の堆積物を対象に、埋積時における遺跡内及び周辺の古植生を推定する目的で行った花粉分析・植物珪酸体分析の調査報告書である。

２．試料について

Ⅰ区２試料、Ⅳ区６試料の合計８試料の提供を受けた。各試料の採取位置は、第12･16･24図に図示した。

３．分析方法及び分析結果

(1) 微化石概査（残存状況）

花粉分析用プレパラート、及び花粉分析処理残渣を用いた微化石の概査結果（残存状況の記載）を、表１に示す（植物片、炭は花粉分析用プレパラートを観察した。珪藻、火山ガラス、植物珪酸体（プラント・オパール）は、花粉分析処理の残渣を観察した）。

(2) 花粉分析

分析処理の工程を第103図のフローチャートに示した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡下で400倍を用いて実施した。また、イネ属（Oryza）の同定は、位相差顕微鏡下で1000倍を用いて実施した。

花粉分析では原則的に木本花粉総数が200粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また、光学顕微鏡による検鏡（同定・計数）の後、中村（1977）にしたがって位相差顕微鏡によってイネ属（Oryza）の同定を行い、イネ科をイネ属型、イネ科（不能）、イネ科（その他）に細分した。ここではイネ科100粒を基準としたが、イネ科の花粉の検出量が少なく、基準量に達していない試料、細分を行えなかった試料もある。

分析結果を第105図の花粉ダイアグラムと第７表に示す。「花粉ダイアグラム」の作成に当たり、木本花粉総数を基数として分類群ごとに百分率を算出し、木本花粉、草本・藤本花粉、胞子に分けてハッチを入れている。「総合ダイアグラム」では木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草

地点	地層	時代	試料No.	花　粉	炭	植物片	珪　藻	火山ｶﾞﾗｽ	ﾌﾟﾗﾝﾄ・ｵﾊﾟｰﾙ
SR01		縄文後期？	1	◎	△×	○	△	◎	◎
		縄文後期？	2	◎	△×	○	△	◎	○
SR06	第12図７層	縄文晩期	3	◎	△×	○	△	○	◎
	第12図９層	縄文晩期	4	◎	△	○	△	△	◎
SD02	第16図５層	弥生終末期	5	◎	○	◎	△	○	○
	第16図８層	弥生終末期	6	◎	△×	○	△	○	○
SD01	第24図１層	古代	7	◎	△×	○	△	○	◎
	第24図２層	古代	8	◎	△×	○	△	○	◎

凡例　◎：十分な数量が検出できる　○：少ないが検出できる　△：非常に少ない　△×：極めてまれに検出できる　×：検出できない

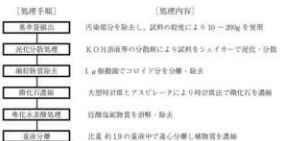
第５表　微化石概査結果（残存状況）

本・藤本花粉、胞子の総数を加えたものを基数として、分類群ごとに累積百分率として示した。「含有量」では、1g当たりの換算重量を算出して示した。「イネ科花粉の細分」では、それぞれの分類群の割合を累積グラフで示した。

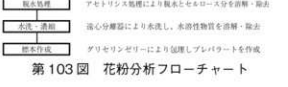
(3) 植物珪酸体（プラント・オパール）分析

分析処理の工程を第104図のフローチャートに示した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡下で400倍を用いて実施した。同定は第6表に示す「栽培植物との対応が明らかな分類群」：当社分析レベル4について行い、計数は、ガラスビーズ個数が300以上になるまで行った。

分析結果を第106図の植物珪酸体ダイアグラムと第8表に示す。ダイアグラムでは、検出密度（試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めたもの。）をスペクトルで示している。



第103図　花粉分析フローチャート



第104図　植物珪酸体分析フローチャート

4．花粉分帯

花粉分析結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に、各局地花粉帯の記載を行う。また、時間経過を明解にするために、下位から上位に向かって記載を行った。

(1) Ⅳ帯（Ⅳ区試料2）

ムクノキ属-エノキ属が33%、アカガシ亜属が31%と他の木本花粉に比べ高く、マツ属（複維管束亜属）、ヒノキ属、ニレ属-ケヤキ属がこれらに次ぐが、5%程度と低率である。

(2) Ⅲ帯（Ⅳ区試料1）

アカガシ亜属が66%と卓越する。ツガ属、マツ属（複維管束亜属）、ニレ属-ケヤキ属がこれらに次ぐが、7%程度と低率である。

(3) Ⅱ帯（Ⅰ区試料4、3）

下位の試料4ではアカガシ亜属が75%、試料№3でも65%と卓越する。スギ属が2～7%と増加し、その他の種類は2～3%と低率である。

(4) Ⅰ帯（Ⅳ区試料6、5、8、7）

マツ属（複維管束亜属）が25～43%、アカガシ亜属が23～43%と他の木本花粉に比べ、高率を示す。その他ツガ属が10%程度、スギ属が5～7%、コナラ亜属が4～7%とその他の木本花粉に比べやや高い出現率を示す。

5．古植生推定

設定した局地花粉帯ごとに、調査地近辺の古植生を推定する。

(1) Ⅳ帯（Ⅳ区試料2）

①堆積時期

出土遺物から、縄文時代後期の植生を示していると考えられる。

②堆積環境について

分析試料は、分布域は広い、やや薄い層厚の砂泥互層から採取されていた。この砂泥互層は、層相から、時折砂粒が流入するものの比較的安定した環境で堆積したと考えられる。また花粉・胞子含有量がおよそ6000粒/gとやや少なく、褐灰色を呈し、酸化鉄が染み出すこと、腐植物の含有が多くないことから、堆積後に酸化環境にあり、花粉粒が破損・消滅した可能性も指摘できる。

③近辺の低地植生

草本・藤本花粉は3%と低率で、河川の周辺にはイネ科、カヤツリグサ科やゴキズルなどが僅かに生育していたと考えられる。一方、SR01が形成していた自然堤防（近辺の微高地）にはエノキ類（あるいはムクノキ類）やアラカシにクルミ類、ニレ類（あるいはケヤキ類）などを混淆する河畔林（自然堤防林）を成していたと考えられる。また、エノキ類が、調査地のかなり近くに生育していた可能性もある。

同定レベル	コード	分類群	対応する現存植物
1	1	イネ	イネ
3	3	イネ科型（籾の表皮細胞）	イネ
現存植物との対応が容易な分類群	21	ムギ型（籾の表皮細胞）	コムギ・オオムギ
	41	オヒシバ属（シコクビエ型）	シコクビエ
	61	キビ属型	ヒエ・アワ・キビ
	62	キビ属型	キビ
	64	ヒエ属型	ヒエ
	66	エノコログサ属型	アワ
	84	ウシクサ族B	ホトウキビ
	91	モロコシ属型	モロコシ
	93	ジュズダマ属型	ハトムギ
4	11	ヤヤヌカグサ属	ヤヤヌカグサ・アシカキ
母植物との対応が困難な分類群	13	マコモ属	マコモ
	31	ヨシ属	ヨシ
	33	ダンチク属	ダンチク
	35	ヌマガヤ属型	ヌマガヤ
	51	シバ属	シバ属
	71	トダシバ属	トダシバ属
	81	ススキ属型	ススキ属
	83	ウシクサ族A	チガヤ属など
	205	メダケ節型	メダケ節
	206	ネザサ節型	ネザサ節
	266	チマキザサ節型	チマキザサ節・チシマザサ節
	267	ミヤコザサ節型	ミヤコザサ節
	269	マダケ属型	マダケ属
	300	カヤツリグサ科（スゲ属など）	スゲ属
	390	シダ型	シダ類
	501	ブナ科（シイ属）	シイ類
	503	ブナ科（アカガシ亜属）	カシ類
	510	クスノキ科	バリバリノキなど（クスノキ以外）
	529	マンサク科（イスノキ属）	イスノキ属
	530	アワブキ科	アワブキ科
	540	モクレン属型	モクレン属
	570	マツ科型	マツ科
	580	マツ属型	マツ属

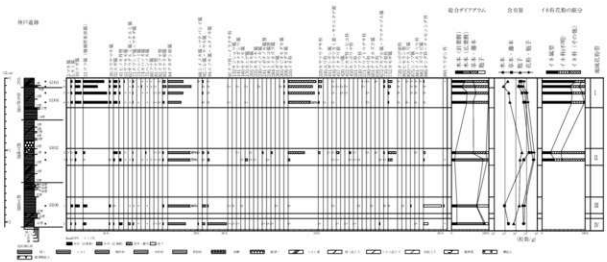
第6表　同定・検鏡対象分類群
（同定分類群と推定母植物の関係）

④丘陵の植生

現存植生では、低地から山地にかけてアカガシ亜属などの常緑広葉樹を主とする照葉樹林（暖温帯林）が分布する。また山地高所では、針葉樹を主として、カシ類やブナ類を混淆する温帯針葉樹林（中間温帯林）が生育する傾向にある。更に高所では、ブナ、ミズナラを主とする落葉樹林（冷温帯林）へと移り変わっていく。

現存植生と得られた木本花粉化石群集から、調査地南方の讃岐山脈にはモミ、ツガ、アカマツ類、コウヤマキ、ヒノキなどを主要素とする温帯針葉樹林が広く分布したと考えられる。また、高所にはブナ林も分布したと考えられる。さらに、カシ類を主要素とする照葉樹林が調査地東部の丘陵に、所によってシデ類やナラ類を混淆して分布していたと考えられる。また、局所的にシデ類、ナラ類を主要素とする林が分布した可能性もある。

温帯針葉樹林は照葉樹林より高所に位置するのが一般的であるが、しばしば暖温帯林中に混淆することが知られている。さらに、和歌山県新宮市「浮島」のスギ林のように、暖温帯林域の海岸近くに天然のスギ林が残る事象もある。このような事象と、現存植生が人為的撹乱による残存植生と捉えると、温帯針葉樹林が必ずしも冷涼な気候を示すとは考えにくい。また多くの針葉樹種は、カシ類などの極相林要素の樹種に比べ、地形・土壌条件が劣悪な環境でも生育している。このように土地条件を加味して植生を推定すると、ツガ、コウヤマキ、アカマツなどを主とする温帯針葉樹林は、讃岐山脈のみではなく、



第 105 図　花粉ダイアグラム

調査地周辺の丘陵で照葉樹林に混淆していた可能性がある。

(2) Ⅲ帯（Ⅳ区試料 1）

①堆積時期

出土遺物から、縄文時代後期の植生を示していると考えられる。

②堆積環境について

Ⅳ帯同様に SR02 内で堆積した、シルト層から得られている。広く分布し層厚が厚いことから、安定した状態で堆積したものと考えられる。一方で花粉・胞子含有量はおよそ 7000 粒 /g とやや少なく、腐植物の含有が多くなく、地層の色調が灰白色で酸化鉄の検出が認められることから、短期間で堆積したか、堆積後に酸化環境、花粉粒が破損・消滅した可能性も指摘できる。

③近辺の低地植生

木本花粉化石群集では、Ⅳ帯に比べエノキ属 - ムクノキ属が低率になり、アカガシ亜属が急増する。このことから、河畔林（自然堤防林）ではアラカシ？が主な構成要素となったと考えられる。ただしエノキ属を除くと、その他の樹種（クルミ類、ニレ類（あるいはケヤキ類）については大きな変化がなく。前述したように近隣に生育していたエノキ属が枯死しただけの可能性もある。草本・藤本花粉の割合は僅か 1%だが、胞子は 31%を占める。胞子の多くがオシダ科 - チャセンシダ科である。オシダ科 - チャセンシダ科の多くは林床に生育するが、日当たりの良い所を好む種も僅かに存在する。林床や林縁近くにオシダやイノデが生育していた可能性がある。

④丘陵の植生

前述のように、木本花粉化石群集でアカガシ亜属の花粉が高率を示す。花粉粒の給源として、近くの河畔林から多くがもたらされたと考えられるが、周辺の丘陵を給源とする花粉粒も少なくなかったと考えられる。Ⅳ帯の時期同様に、調査地東方の丘陵には、カシ類を主要素とする照葉樹林が所によってシデ類やナラ類を混淆して分布していたと考えられる。また、局所的にシデ類、ナラ類を主要素とする林が分布した可能性もある。調査地南方の讃岐山脈にはモミ、ツガ、アカマツ類、コウヤマキ、ヒノキなどを主要素とする温帯針葉樹林が広く分布したと考えられる。針葉樹、特にツガ属花粉の出現率（含有量も）がやや増加しており、夏季雨量がやや増加した可能性も指摘できる。ブナ属花粉が検出されなか

たものの、高所にはブナ林も分布したと考えられる。

(3) Ⅱ帯（Ⅰ区試料4、3）

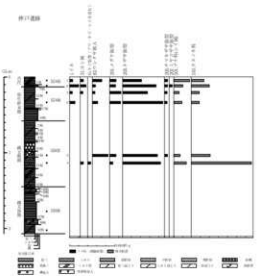
①堆積時期

出土遺物から、縄文時代晩期の植生を示していると考えられる。

②堆積環境について

いずれの試料も河川内での堆積であるが、層相から試料4（9層）、試料3（7層）共に、安定した環境で堆積したものと考えられる。また、徐々に水深が浅くなっていったと考えられる。

③近辺の低地植生



第106図　植物珪酸体ダイアグラム

草本・籐本花粉の割合が11％～34％と増加し、イネ科花粉の増加が顕著である。また、イネ科の多くはその他（あるいは不明）に分類されるが、イネ属型も少なからず検出され、含有量で考えると上位のⅠ帯の各試料より多い。このことから、イネの植物珪酸体は検出されないものの、近辺で稲作が行われていた可能性が指摘できる。一方植物珪酸体分析ではヨシ、ウシクサ族A（チガヤを含む）が検出される。検出された湿性植物の花粉と合わせると、岸部近くにはヨシが繁茂し、所によってカヤツリグサ類やセリ類も生育していたと考えられる。さらに、これらの背後（陸域）にはチガヤやササ類、ヨモギ類が草地を成していたと考えられる。上部の試料3（7層）では水深が浅くなり、植物珪酸体は検出されていないものの、イネ科（その他）花粉が多く検出されることから、水域全体にヨシが繁茂した可能性がある。また、背後の陸域ではチガヤやササ類が繁茂したものと考えられる。

Ⅲ帯の時期同様に、河畔林（自然堤防林）ではアラカシが主体となっていたと考えられる。一方、植物珪酸体ではシイ属やクスノキ科が検出されており、これらも近くに生育していたと考えられる。

④丘陵の植生

Ⅲ帯同様に本本花粉化石群集でアカガシ亜属の花粉が高率を示す。花粉粒の給源として、やはり近くの河畔林から多くがもたらされたと考えられるが、周辺の丘陵を給源とする花粉粒も少なくなかったと考えられる。Ⅳ帯の時期同様に、調査地東方の丘陵には、カシ類を主要素とする照葉樹林が所によってシデ類やナラ類を混淆して分布していたと考えられる。また、局所的にシデ類、ナラ類を主要素とする林が分布した可能性もある。調査地南方の讃岐山脈にはモミ、ツガ、アカマツ類、コウヤマキ、ヒノキなどを主要素とする温帯針葉樹林が広く分布し、高所にはブナ林も分布したと考えられる。ここではスギ属花粉がやや増加しており、夏季雨量が更に増加したとともに、気温低下の可能性も指摘できる。

(4) Ⅰ帯（Ⅳ区試料6、5、8、7）

①堆積時期

出土遺物から、弥生時代終末期から古代の植生を示していると考えられる。

②堆積環境について

いずれの試料も溝状遺構内での堆積である。層相からSD02内の試料6（8層）、試料5（5層）は淘

汰が悪いことからやや不安定な、SD01 の試料 8(2 層)、試料 7（1 層）にはラミナが認められるなど、流れのある環境で堆積したものと考えられる。いずれの試料も花粉含有量がやや少なく、堆積速度がやや速かったと考えられる。堆積物の色調から、堆積後の酸化環境のために消滅した花粉粒が存在した可能性も指摘できる。

		地点	Ⅳ区SR02				Ⅰ区SR06				Ⅳ区SD02				Ⅳ区SD01			
		試料No.	1		2		3		4		5		6		7		8	
		堆層					第12図7層		第12図9層		第16図5層		第16図8層		第24図1層		第24図2層	
3	Podocarpus	マキ属					2	(1)	4	(1)	2	(0)	1	(0)				
5	Abies	モミ属	18	(4)	3	(1)	2	(1)	2	(1)	11	(2)	18	(3)	10	(3)	7	(2)
10	Tsuga	ツガ属	38	(8)	3	(1)	8	(3)	6	(2)	60	(11)	57	(11)	34	(10)	34	(9)
21	Pinus (Diploxylon)	マツ属（複維管束亜属）	35	(7)	12	(5)	9	(3)	2	(1)	218	(41)	232	(43)	129	(37)	101	(25)
30	Sciadopitys	コウヤマキ属	13	(3)	3	(1)			1	(0)	10	(2)	19	(4)	9	(3)	9	(2)
32	Cryptomeria	スギ属	3	(1)	3	(1)	19	(7)	9	(2)	24	(5)	37	(7)	24	(7)	24	(6)
41	Cupressaceae type	ヒノキ科型			13	(6)	7	(3)	15	(4)	11	(2)	8	(1)	5	(1)	8	(2)
52	Myrica	ヤマモモ属					2	(1)	1	(0)	1	(0)	2	(0)	4	(1)		
62	Pterocarya-Juglans	サワグルミ属－クルミ属	1	(0)	9	(4)			2	(1)	4	(1)	2	(0)	2	(1)	1	(0)
71	Carpinus-Ostrya	クマシデ属－アサダ属	4	(1)	5	(2)	3	(1)	5	(1)	6	(1)	6	(1)	7	(2)	6	(2)
73	Corylus	ハシバミ属	1	(0)	1	(0)							1	(0)			1	(0)
74	Betula	カバノキ属							1	(0)	2	(0)			2	(1)	5	(1)
75	Alnus	ハンノキ属	1	(0)	1	(0)	4	(2)	1	(0)	1	(0)	3	(1)	3	(1)	3	(1)
80	Fagus	ブナ属							1	(0)					1	(0)	2	(1)
81	Fagus crenata type	ブナ型			1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)			1	(0)
82	Fagus japonica type	イヌブナ型			1	(0)	1	(0)	2	(1)	2	(0)	2	(0)	1	(0)		
83	Quercus	コナラ亜属	12	(2)	4	(2)	5	(2)	6	(2)	22	(4)	17	(3)	17	(5)	26	(7)
84	Cyclobalanopsis	アカガシ亜属	332	(86)	70	(31)	170	(65)	292	(75)	141	(27)	127	(23)	95	(27)	163	(41)
88	Castanopsis-Pasania	シイノキ属－マテバシイ属			3	(1)	2	(1)							1	(0)		
92	Ulmus-Zelkova	ニレ属－ケヤキ属	33	(7)	11	(5)	7	(3)	3	(1)	8	(2)	5	(1)	7	(2)	2	(1)
94	Celtis-Aphananthe	エノキ属－ムクノキ属	8	(2)	74	(33)	6	(2)	13	(3)	3	(1)	1	(0)	1	(0)	2	(1)
97	Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科	3	(1)	1	(0)							2	(0)			1	(0)
132	Zanthoxylum	サンショウ属	1	(0)	2	(1)												
141	Mallotus	アカメガシワ属			1	(0)	1	(0)									1	(0)
160	Ilex	モチノキ属	1	(0)					1	(0)								
170	Acer	カエデ属							17	(4)			1	(0)			1	(0)
205	Aucuba	アオキ属					1	(0)	2	(1)								
225	Diospyros	カキノキ属							1	(0)								
230	Symplocos	ハイノキ属															1	(0)
241	Ligustrum type	イボタノキ属型			1	(0)	5	(2)										
246	Fraxinus type	トネリコ属型			2	(1)			1	(0)								
284	Lonicera	スイカズラ属			1	(0)	7	(3)										
301	Typha	ガマ属	1	(0)														
305	Alisma	サジオモダカ属															2	(1)
306	Sagittaria	オモダカ属									6	(1)	7	(1)	4	(1)	4	(1)
310	Gramineae	イネ科	1	(0)	2	(1)	75	(29)	12	(3)	242	(46)	338	(62)	172	(49)	170	(43)
320	Cyperaceae	カヤツリグサ科			1	(0)	8	(3)			8	(2)	9	(2)	22	(6)	22	(6)
345	Liliaceae	ユリ科											1	(0)				
411	Rumex	ギシギシ属					1	(0)										
416	Echinocaulon-Persicaria	ウナギツカミ節－サナエタデ節	1	(0)			2	(1)	1	(0)	4	(1)	1	(0)	1	(0)	1	(0)
417	Reynoutria	イタドリ節			1	(0)	13	(5)	1	(0)							1	(0)
420	Fagopyrum	ソバ属									1	(0)					1	(0)
422	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科			1	(0)					1	(0)					1	(0)
450	Ranunculaceae	キンポウゲ科					7	(3)	2	(1)								
501	Leguminosae	マメ科			1	(0)	1	(0)	1	(0)								
530	Vitaceae	ブドウ科	3	(1)					3	(1)								
571	Haloragaceae	アリノトウグサ科													1	(0)	1	(0)
580	Umbelliferae	セリ科					2	(1)			2	(0)	2	(0)	1	(0)		
601	Trachelospermum	テイカカズラ属	1	(0)														
616	Solanaceae	ナス科					1	(0)							1	(0)		
672	Actinostemma-Gynostemma	ゴキヅル属－アマチャヅル属			3	(1)			1	(0)								
710	Carduoideae	キク亜科	1	(0)			4	(2)	3	(1)					8	(2)	7	(2)
712	Artemisia	ヨモギ属	2	(0)			37	(14)	29	(7)	10	(2)	9	(2)	25	(7)	19	(5)
720	Cichorioideae	タンポポ亜科									1	(0)	1	(0)	3	(1)	3	(1)
802	Urostachys sieboldii type	ヒモラン型	1	(0)														
850	Ophioglossum	ハナヤスリ属											1	(0)	1	(0)		
875	Davallia	シノブ属	7	(1)							3	(1)			1	(0)	1	(0)
881	Pteridaceae	イノモトソウ科			1	(0)	1	(0)			1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)
882	Ceratopteris	ミズワラビ属													1	(0)		
886	Aspid.-Asple.	オシダ科－チャセンシダ科	159	(32)	19	(8)	9	(3)	7	(2)	2	(0)	5	(1)	4	(1)	2	(1)
891	Polypodiaceae	ウラボシ科	12	(2)	2	(1)			1	(0)					1	(0)		
898	MONOLATE-TYPE-SPORE	単条溝胞子	33	(7)	3	(1)	2	(1)	11	(3)	4	(1)	2	(0)	2	(1)	3	(1)
899	TRILATE-TYPE-SPORE	三条溝胞子	21	(4)	3	(1)	21	(8)	4	(1)	6	(1)	10	(2)	7	(2)	2	(1)
	木本（針葉樹）		107	(14)	37	(14)	47	(11)	39	(8)	336	(41)	372	(40)	211	(35)	183	(29)
	木本（広葉樹）		397	(53)	188	(72)	215	(48)	350	(75)	191	(23)	170	(18)	141	(23)	216	(34)
	草本・藤本		10	(1)	9	(3)	151	(34)	53	(11)	275	(34)	368	(40)	238	(39)	232	(36)
	胞子		233	(31)	28	(11)	33	(7)	23	(5)	16	(2)	19	(2)	18	(3)	9	(1)
	総数		747		262		446		465		818		929		608		640	
312	Oryza type	イネ属型	－		－		22	(21)	15	(28)	77	(70)	82	(68)	92	(75)	70	(66)
313	Gramineae (indistinct)	イネ科（不明）	－		－		25	(24)	10	(19)	26	(24)	35	(29)	18	(15)	23	(22)
314	Gramineae (others)	イネ科（その他）	－		－		59	(56)	29	(54)	7	(6)	3	(3)	12	(10)	13	(12)
	イネ科総数		0		0		106		54		110		120		122		106	
	含有量（粒数/g）		6,655		5,960		50,524		50,175		11,417		13,821		6,082		5,048	

第７表　花粉組成表

③近辺の低地植生

いずれの試料も、草本・藤本花粉、胞子の割合が40%程度と高いことから、調査地近辺で溝の周辺に森林が存在した可能性は低く、草地（田畑を含む）が広がっていたと考えられる（ただし、植物珪酸体ではシイ属やクスノキ科が検出されており、近くに生育していた可能性があるが、詳細は分からない。）。また、イネ科花粉が40%ほどの出現率で検出されているほか、イネ型の割合も高い。ただし花粉含有量がさほど高くないことから、含有量も多くない。更にイネの植物珪酸体は少ないが検出されている。耕作に関連すると考えられる溝から試料が採取されていることを踏まえると、SD02、SD01共に流路近辺で稲作が行われていた可能性が指摘できる。また、試料6、8からはソバ属花粉が検出され、流路近辺でソバも栽培されていた。花粉、植物珪酸体が検出されることから、溝内部にはオモダカ類やヨシ、カヤツリグサ類、セリ類が生育していたと考えられる。溝と耕作地の間、耕作地周辺や、耕作雑草として、チガヤ、ササ類や、タデ類、ヨモギ類、アカザ類（ヒユ類）などが生育していたと考えられる。タデ類やアカザ類（ヒユ類）には、歴史的に栽培植物が含まれており、これらについては、栽培されていた可能性も僅かにある。

	地点	1区 SI006 周溝		2区 SD02 周溝		3区 SD01	
	試料No.	3	4	5	6	7	8
	地層	11	13	13	15	1	2
1	イネ	-	-	1	2	1	3
		-	-	6	12	7	20
		-	-	0.16	0.35	0.2	0.59
33	ヨシ属	-	1	1	-	1	2
		-	7	6	-	7	13
		-	0.44	0.39	-	0.44	0.85
61	キビ族型	-	1	-	-	-	-
		-	7	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-
63	ウシクサ族 A	5	-	1	2	3	1
		35	-	6	12	23	7
		-	-	-	-	-	-
201	メダケ節型	2	1	4	4	2	2
		14	7	25	24	14	13
		0.91	0.08	0.29	0.27	0.16	0.15
203	ネザサ節型	11	12	9	15	6	11
		77	84	55	89	42	74
		0.37	0.4	0.27	0.42	0.2	0.36
205	チマキザサ節型	1	-	1	1	1	1
		7	-	6	6	7	7
		0.05	-	0.05	0.04	0.05	0.05
207	ミヤコザサ節型	-	-	-	-	-	1
		-	-	-	-	-	7
		-	-	-	-	-	0.05
501	ブナ科（シイ属）	2	4	2	3	3	3
		14	28	12	18	35	20
510	クスノキ科	6	10	3	3	4	6
		42	133	18	18	28	40
プラント・オパール総数		27	38	22	30	23	30
カウントガラスビーズ数		432	429	400	510	437	449
カウント総数		459	467	512	540	460	479
試料採量（× 0.0001g）		7031	7022	6983	7019	7003	7025
ガラスビーズ採量（× 0.0001g）		134	133	133	134	134	134

上段　検出総数
中段　検出密度（単位：× 100 粒 /g）
下段　推定生産量（単位：kg / ㎡ / cm）

第８表　植物珪酸体組成表

④丘陵の植生

木本花粉化石群集では、Ⅱ帯からアカガシ亜属が減少し、マツ属（複維管束亜属）が増加する。同時に木本花粉の含有量は減少し、更にⅠ帯の間でも減少傾向を示す。Ⅱ帯（縄文時代晩期）からⅠ帯（弥生時代終末期から古代）の間に、周辺の丘陵に分布していたカシ類を主要素とする照葉樹林やシデ類、ナラ類の林も伐採され、局所的にアカマツ林が広がった可能性が指摘できる。マツ属（複維管束亜属）を除く針葉樹種の増加も相対的なもので、実際には従来の分布域と変わらないか、縮小した可能性もある。森林伐採による照葉樹林の縮小、アカマツ林の相対的拡大は、香川県中央部の元塚遺跡や上東原遺跡では、認められない事柄である。また森林の伐採は、調査地南方の讃岐山脈に分布したモミ、ツガ、コウヤマキ、ヒノキなどを主要素とする温帯針葉樹林も及んだ可能性がある。ただし、より高所に分布したブナ林に対する影響は不明である。

6．まとめ

(1) 仲戸遺跡発掘調査に係る花粉分析の結果、Ⅳ～Ⅰ帯の局地花粉帯を設定した。各花粉帯と堆積時期の関係は、以下の通りである。

Ⅳ帯：縄文時代後期　Ⅲ帯：縄文時代後期

Ⅱ帯：縄文時代晩期　Ⅰ帯：弥生時代終末期から古代

各試料採取層準の層相記載、花粉・胞子の含有状況、微化石概査結果から、上記の局地花粉帯毎に、堆積環境を推定した。

(2) 局地花粉帯毎に、花粉分析結果及び植物珪酸体分析結果を基に古植生を考察した。特筆すべき点は、以下の事柄である。

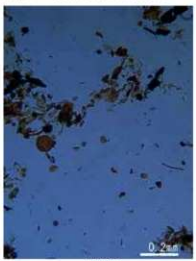
① 縄文時代晩期（Ⅱ帯）以降、遺跡近辺で稲作が行われた。弥生時代終末期、古代にはソバも栽培されていた。このほかタデ科、アカザ科-ヒユ科の植物が栽培されていた可能性もあるが、断定できない。

② アカマツ林の相対的拡大が、弥生時代終末期以降（Ⅰ帯）に認められた。このことは、香川県中央部の遺跡では認められず、遺跡周辺（あるいは香川県東部）での特徴的な植生である。

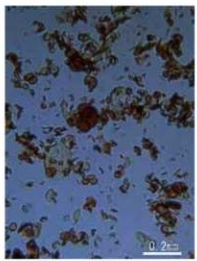
7．引用文献

中村　純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，10，21-29．

図版9　花粉化石顕微鏡写真



試料5

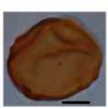


試料6

試料8

花粉化石検出(残存)状況

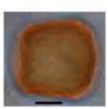
スギ属



クマシデ属
-アサダ属

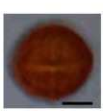
コナラ亜属

アカガシ亜属



ニレ属-ケヤキ属

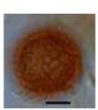
エノキ属
-ムクノキ属



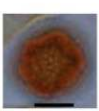
アカメガシワ属

アオキ属

ハイノキ属

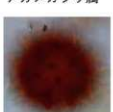


イボタノキ属型



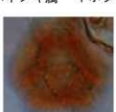
オモダカ属

ギシギシ属



キク亜科

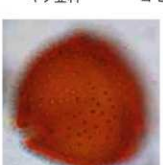
ヨモギ属



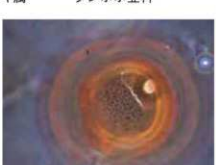
タンポポ亜科

シノブ属

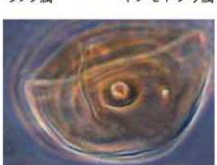
イノモトソウ属



スイカズラ属
スケールはすべて 0.01 mm



イネ科(その他)
:位相差顕微鏡写真



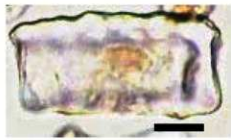
イネ属型
:位相差顕微鏡写真

図版 10　植物珪酸体化石顕微鏡写真

イネ

イネ

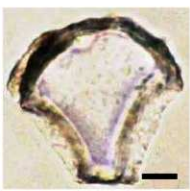
イネ（側面）

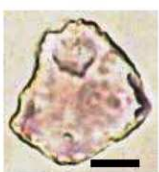

キビ族型

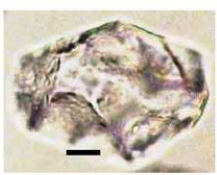
ヨシ属

メダケ節型

メダケ節型


ネザサ節型


ミヤコザサ節型


ブナ科（シイ属）

ブナ科（シイ属）

チマキザサ節型

クスノキ科

スケールはすべて 0.01 ㎜

第５節　仲戸東遺跡出土勾玉の蛍光Ｘ線分析

藤根　久・竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

仲戸東遺跡より出土した勾玉について、岩石学的特徴と蛍光Ｘ線分析による石材の特徴について検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、仲戸東遺跡Ⅰ区SK30より出土した勾玉１点である（第９表、図版11-1a）。想定される遺物の年代は弥生時代終末期～古墳時代前期初頭で、重量は1.31 gである。

分析は、実体顕微鏡による石材の特徴観察、非破壊によるエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析および元素マッピング分析である。

蛍光Ｘ線分析は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、Ｘ線管が最大50kV、1000 μ Aのロジウム（Rh）ターゲット、Ｘ線照射径が8mmまたは1mm、Ｘ線検出器はSDD検出器である。この装置は、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）であるが、軽元素の感度は蛍光Ｘ線分析装置の性質上若干低く、特に定量分析におけるナトリウムの精度は低い。測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが15kV（一次フィルタ無し）・50kV（一次フィルタPb測定用・Cd測定用）の計３条件で、測定時間は各条件500～1000s、管電流自動設定、照射径8mm（平均的な化学組成を調べるため）、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。

出土した勾玉は不均質石材であるため、Ｘ線分析顕微鏡（株式会社堀場製作所製XGT-5000Type Ⅱ）を用いて元素マッピング分析を行った。元素マッピングの測定条件は、Ｘ線導管径100 μ m、電圧50kV、電流1mA、測定時間10,000secである。

また、各試料の空気中重量と水中重量を測定し、下記の式に基いて比重を算出した。

比重＝空気中重量／（空気中重量－水中重量）

3. 結果および考察

以下、製品勾玉について材質の肉眼的特徴や化学組成を述べる。

第９表に勾玉の半定量分析結果を示す。また、第108図に蛍光Ｘ線スペクトル図を示す。図版11に勾玉の元素マッピング図を示す。

試料	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3	MnO	Fe_2O_3	NiO	CuO	ZnO	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2	BaO	石材
1	3.1	3.73	4.98	16.79	57.28	0.82	0.96	0.63	10.55	0.41	0.09	0.05	2.98	0.07	-	0.02	-	0.53	-	0.12	-	含クロム白雲母岩

第９表　半定量分析結果（重量％）

［勾玉（試料 No.1）］

この勾玉は、白色部と緑色部が交互に縞状構造を呈する不均質で軟質様の石材である。一部には銀色部が脈状に分布する。蛍光X線分析では、酸化ケイ素（SiO2）が最も多く57.28%、次いで酸化アルミニウム（Al2O3）が16.79%、酸化カルシウム（CaO）が10.55%、酸化マグネシウム（MgO）が4.98%、酸化鉄（Fe2O3）が2.98%などであった。元素マッピング分析では、全体的にケイ素（Si）の輝度が高く、緑色部に対応してクロム（Cr）の輝度が若干高い。その他では、銀色部に対応して鉄（Fe）の輝度が高く、カルシウム（Ca）とチタン（Ti）が共に塊状に輝度が高い（図版 11-1a ～ 1f）。石材は、含クロム白雲母岩と考えられる。

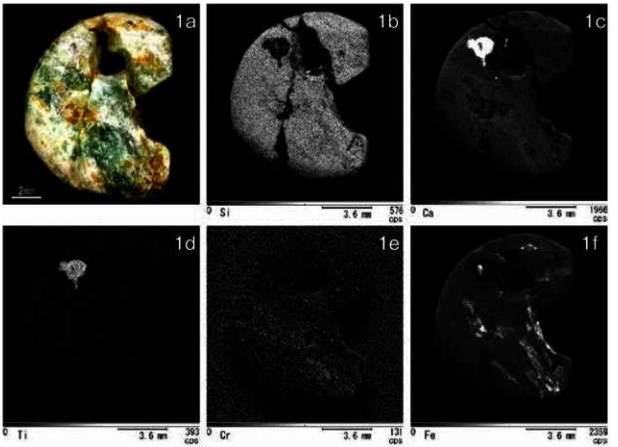
第 107 図　四国地方の中央構造線

（日本の地質「四国地方」編集委員会編（1991）より引用）

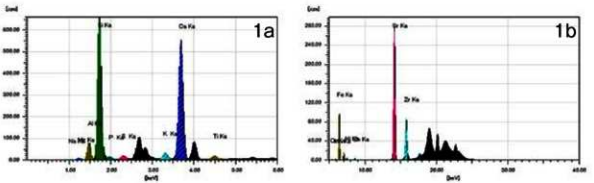
この勾玉は、従来蛇紋岩あるいはヒスイと呼ばれてきた石材であるが、九州の多くの遺跡においても出土していることが知られている（大坪，2007）。これらの岩石は、蛇紋岩類に伴って産する岩石であることから、四国を東西に貫く三波川帯や秩父累帯あるいは境界部の御荷鉾緑色岩類に見られる蛇紋岩類中に産すると考えられる（第 107 図）。

引用・参考文献

地学団体研究会・新編地学辞典編集委員会（2003）地学辞典．平凡社，1443p.
黒田吉益・諏訪兼位（1989）偏光顕微鏡と岩石鉱物［第2版］．共立出版，343p.
中井　泉編（2005）蛍光X線分析の実際．242p.，朝倉書店．
日本の地質「四国地方」編集委員会編（1991）日本の地質 8「四国地方」．共立出版，266p.
大坪　志子（2007）九州地方の石製装身具―後晩期の玉類を中心とした石材同定―．石川県埋蔵文化財情報，第 17 号，財団法人石川県埋蔵文化財センター，18-20.
藁科哲男（2005）第 4 節南原千軒遺跡出土碧玉・ヒスイ製玉材の産地分析．鳥取県教育文化財団調査報告書 100「一般国道 9 号（東伯・中山道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 X Ⅱ、南原千軒遺跡」．財団法人鳥取県教育文化財団・国土交通省倉吉河川国道事務所，105-119.



図版 11　仲戸東遺跡出土勾玉とその元素マッピング図
１ａ－ｆ．勾玉（試料No.１）



第 108 図　蛍光Ｘ線分析スペクトル図
１ａ－ｂ．勾玉（試料No.１）

第6節　埋蔵文化財整理業務（仲戸東遺跡）に係る埴輪胎土分析業務

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

東かがわ市に所在する仲戸東遺跡の発掘調査では、調査区北部において浅い流路状遺構を、南部において多数の不定形土坑が確認されている。これら遺構内からは古墳時代後期の円筒埴輪や、形象埴輪の破片などが多量に出土している。これまで遺跡周辺で埴輪を有する古墳の存在は知られておらず、また一部の埴輪に焼成失敗品を含むこと、埋土の堆積状況等から、北側の丘陵部に埴輪窯が存在し、本遺構はその灰原として利用されていた可能性が最も高いと推定されている。また、土坑群内部からも土師器や須恵器とともに埴輪類が出土しており、埴輪窯の存在の可能性から、不定形の土坑群は、埴輪焼成のための粘土採掘坑と推定されている（香川県埋蔵文化財センター,2000）。

今回の分析調査では、仲戸東遺跡から出土した円筒埴輪・形象埴輪について薄片観察を行い、材質（胎土）の特性を明らかにし、構成鉱物、岩片の組成を基に周辺地質と比較し、胎土の由来について検討した。また、粘土採掘坑と考えられる土坑の基盤堆積物および埋土についても同様に観察を行い、埴輪胎土との構成物の比較を行った。以下にその結果について報告する。

1　試料

試料は、仲戸東遺跡から出土した古墳時代後期とされる埴輪の破片7点、粘土採掘坑と考えられる土坑の基盤堆積物3点および土坑埋土堆積物2点の計12点である（第10表）。基盤堆積物のうち東壁26層（試料番号11）は、粒径変化が確認されることから、2ヵ所について薄片を作製している。

埴輪試料は、遺構から出土した円筒埴輪3点と形象埴輪として、盾形埴輪、石見形埴輪、馬形埴輪、船形埴輪の4点である。

基盤堆積物は、南壁19層・東壁22層・東壁25層から採取された3点、土坑埋土は東壁12層・東壁21層の2点である。採取位置を第29･30図1、試料写真を図版4に示す。基盤堆積物の南壁19層（試料番号8）は細礫・中粒砂混じり細粒～極細粒砂質泥からなる。著しい擾乱により初生の堆積構造が不明瞭となっている。根成孔隙が密に分布し、マンガン・酸化鉄の沈着が著しい。東壁22層（試料番号9）は、粗・中粒砂混じり細粒～極細粒砂質泥からなる。根成孔隙が分布し、マンガン・酸化鉄が層状に斑状に沈着する。東壁25層（試料番号11）は、粗粒砂～細粒砂からなり、細～中粒砂の部分（a）と極細粒砂がちの部分(b)が確認される。根成孔隙が確認され、孔隙に沿って酸化鉄が沈着している。土坑埋土の東壁12層（試料番号10）は、やや腐植を含む細粒砂・粗～細粒砂・細礫混じり泥からなる。根成孔隙が分布。著しく擾乱されている。土坑埋土の東壁21層（試料番号12）は人為的営力で形成さ

分析試料番号	試料名	種類	出土遺構	報告番号
1	円筒埴輪	埴輪	SK33	431
2	円筒埴輪	埴輪	SR03	401
3	円筒埴輪	埴輪	SR04	463
4	盾形埴輪	埴輪	SR04	472
5	船形埴輪	埴輪	SR03	514
6	石見型埴輪	埴輪	SK03	489
7	馬形埴輪	埴輪	SR04	519
8	第30図南壁19層	堆積物	基盤層	現場試料1
9	第29図東壁22層	堆積物	基盤層	現場試料4
10	第29図東壁12層	堆積物	土坑埋土	現場試料5
11	第29図東壁25層	堆積物	基盤層	現場試料9
12	第29図東壁21層	堆積物	土坑埋土	現場試料10

第10表　分析試料一覧

れた灰色細粒砂質泥の偽礫が混じる細粒～極細粒砂混じり腐植質泥からなる。このような土坑埋土の層相から、当時の土坑周辺は腐植質土壌が生成されている地表環境であった、あるいは土坑内がそのような堆積環境になっていた可能性がある。なお、堆積物試料の薄片作製は図版4に示す位置について実施した。

2　分析方法

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

ここでは薄片観察結果を松田ほか(1999)の方法に従って表記する。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。以下にその手順を述べる。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。なお、径0.5mm以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒度組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

3　結果

薄片観察結果を第11表および第109～112図に示す。以下に、鉱物片および岩石片の種類構成、砂分全体の粒度組成、砕屑物・基質・孔隙における砕屑物の割合の順に述べる。

（1）鉱物片および岩石片の種類構成（第11表、第29・30図）

鉱物片では、埴輪試料において石英、斜長石が多く含まれ、少量のカリ長石が伴われる。この他に、円筒埴輪の一部や、盾形埴輪、船形埴輪には黒雲母もきわめて微量含まれている。堆積物試料においても石英、長石類が多く、カリ長石も比較的多く含まれており、基盤堆積物には黒雲母が随伴している。一方、岩石片では、埴輪試料、堆積物試料のいずれにも花崗岩類が含まれており、花崗岩由来とみられる多結晶石英を随伴するものが散見される。その他の砕屑片としては、火山ガラス、酸化鉄結核、植物珪酸体などが認められている。火山ガラスは、石見形埴輪を除く埴輪試料すべてに含まれており、土坑埋土堆積物にも検出されている。酸化鉄結核は円筒埴輪および船形埴輪に認められ、堆積物試料には含まれていない。植物珪酸体は、埴輪の一部の試料にごく微量含まれるほか、土坑埋土堆積物にも検出されている。

以上のような鉱物・岩石組成を踏まえ、埴輪試料の胎土分類を行う。埴輪試料は、含まれる鉱物片や岩片の組成は概ね類似しているため、すべてA類とする。A類とした組成の中でも、鉱物あるいは岩石片の量比を詳細にみると、若干異なる組成を見出すことができる。ここではA類を以下の3種類に細分した。

A1類：典型的なA類であり、石英、長石類を主体とし、花崗岩、黒雲母を伴う組成を示す胎土。焼

成温度は800度に達しない程度と推定される。今回の試料では、試料番号3の円筒埴輪、形象埴輪の盾形埴輪（試料番号4）、船形埴輪（試料番号5）の3試料がA1類に分類される。なお、未焼成の堆積物試料は、全てA1類に分類される。

A2類:A1類に類似するが、鉱物片の組成において黒雲母が検出されない組成。黒雲母は胎土中に含まれてはいるが、細粒または含有率が少ないという特徴を有する。焼成温度は800度前後と推定される。試料番号2の円筒埴輪、形象埴輪の馬形埴輪（試料番号7）がこれに分類される。

A3類:A1類に類似するが、鉱物片の組成においてカリ長石が少ない組成。カリ長石が溶融する温度（1150度以上）に達しているためにカリ長石がガラス化し、検出数が少ないという特徴を示す。また、このA3類は黒雲母も検出されないため、A2類の性格も有している。試料番号1の円筒埴輪、形象埴輪の石見型埴輪（試料番号6）がこれに分類される。

試料	砂粒区分	砂粒の種類構成																合計
		鉱物片								岩石片				その他				
		石英	カリ長石	斜長石	角閃石	緑簾石	黒雲母	ジルコン	多結晶石英	花崗岩類	凝石英	火山ガラス	酸化鉄結核	植物片	植物珪酸体			
試料番号8 南壁19層 堆積物 基盤層	砂																	0
		1		1							1							3
		4	2	1						2								9
		7	4	13														24
		17	7	16			1											41
		37	12	37			3											29
		18	6	16			1											41
		2		1														3
		集計																735
		孔隙																25
試料番号9 東壁22層 堆積物 基盤層	砂																	0
																		0
		1	1							1								3
		5	1	4										1				11
		14	3	15			1											33
		26	10	29	2	1	4											72
		37	8	24														69
		5	2	5														12
		集計																841
		孔隙																16
試料番号10 東壁12層 堆積物 土坑埋土	砂																	0
				1						1								2
		3	3	1														7
		13	4	8					1									26
		13	5	9														27
		29	10	22								1				1		63
		25	9	24				1								6		65
		6		1												1		8
		集計																777
		孔隙																8
試料番号11a 東壁25層 堆積物 基盤層	砂																	0
			1				1											2
		12	5	11			4		1	7								43
		26	14	36			2		5	5								88
		11	6	31					1	1								50
		5	1	7	1		1											15
																		0
																		0
		集計																250
		孔隙																0
試料番号11b 東壁25層 堆積物 基盤層	砂	1								1								2
		13	4	7			1			7								32
		26	20	24						4								74
		22	1	30	1				1	1								56
		8	4	20					1									33
		2		1														3
																		0
		集計																27
		孔隙																81
試料番号12 東壁21層 堆積物 土坑埋土	砂																	0
																		0
		2	1							1								4
		11	2	4					1									18
		19	7	14						1		1		3				45
		32	4	28										2				66
		23	5	25	1	1										3		59
		5	1	2												1		9
		集計																1196
		孔隙																36

第11表　薄片観察結果

（2）粒度組成（第109～111図）

粒度は、埴輪試料においては細粒砂～粗粒シルトを主体とする組成を示すが、試料番号4の盾形埴輪

では粗粒シルトが卓越する傾向や、試料番号6の石見形埴輪および試料番号7の馬形埴輪では粗粒砂や中粒砂も多く、粗粒側にやや偏る傾向などが認められる。堆積物の試料においても、細粒砂～粗粒シルトを主体とする傾向が確認できるが、試料番号11の基盤堆積物では、中粒砂が卓越し、他の堆積物と性格を異にしている。

以上のような砕屑物の粒度組成を踏まえ、埴輪試料・堆積物の分類を行う。

a類:中粒砂または細粒砂にモードがある。東壁25層の基盤層（試料番号11a・11b）がこれに分類される。

b類:細粒砂または極細粒砂にモードがある。試料番号1・2の円筒埴輪がこれに分類される。

c類:極細粒砂または粗粒シルトがモード。試料番号3の円筒埴輪、形象埴輪の船形埴輪(試料番号5)、堆積物試料の東壁25層以外の基盤層・土坑埋土試料がこれに分類される。

d類:粗粒シルトに明瞭なモードが認められ、粗粒砂～中粒砂の割合が相対的に低い。形象埴輪の盾形埴輪（試料番号5）がこれに分類される。

e類:モードが明瞭ではなく、粗粒砂～粗粒シルトまでがほぼ同等の割合を示す。形象埴輪の石見型埴輪（試料番号6)・馬形埴輪（試料番号7）が分類される。

（3）砕屑物・基質・孔隙における砕屑物の割合(第109～111図)

埴輪試料は、砕屑物の割合が12～25%程度の値を示し、試料番号6の石見型埴輪においてやや低い傾向を示す。また、試料番号6は、基質の溶融により発泡が生じているため、孔隙率がやや高い傾向を示す。試料番号8～9および試料番号12の堆積物試料については、砕屑物の割合が埴輪試料とほぼ同程度の割合を示すが、試料番号11では40～65%ときわめて高い値をとり、他の試料よりも砂質である。

以上のような砕屑物の割合を踏まえ、埴輪・堆積物の分類を行う。

①類:砕屑物の割合が10～15%を示す。形象埴輪の石見型埴輪（試料番号6)、東壁21層土坑埋土（試料番号12）が分類される。

②類:砕屑物の割合が15～20%を示す。形象埴輪の盾形埴輪（試料番号4)・船形埴輪（試料番号5）と、東壁22層の基盤層（試料番号9）が分類される。

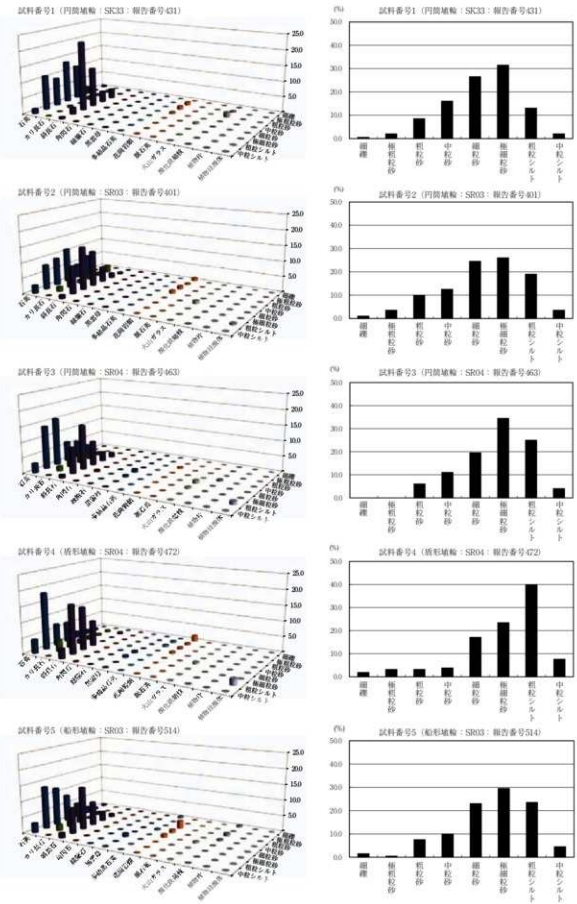
③類:砕屑物の割合が20～25%を示す。円筒埴輪の全て(試料番号1～3)と形象埴輪の馬形埴輪(試料番号7)、南壁19層の基盤層（試料番号8）と東壁12層の土坑埋土（試料番号10）が分類される。

④類:砕屑物25%以上を示す。東壁25層（試料番号12）が分類される。

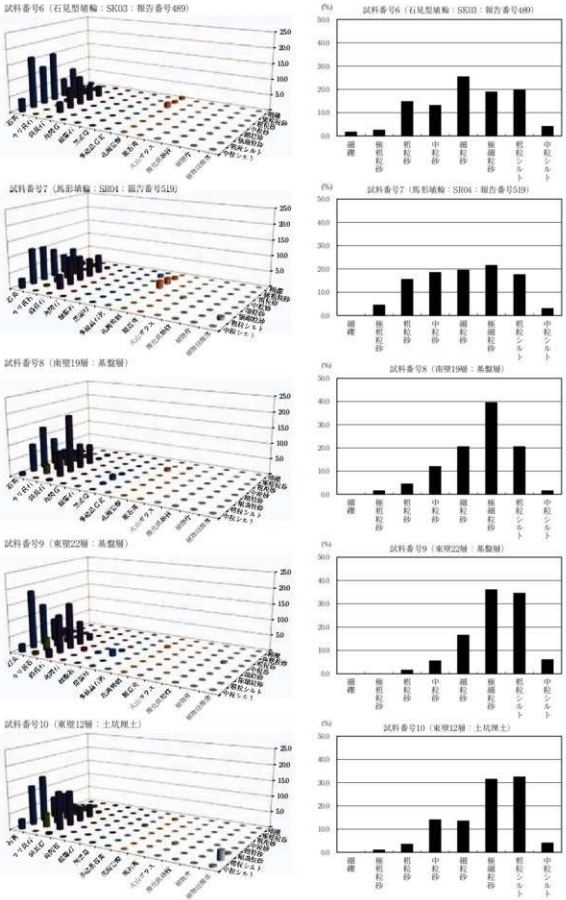
4　考察

仲戸東遺跡が所在する東かがわ市川東地区では、北西に与田川が、南東には湊川が流れている。遺跡周辺に分布する低地の堆積物はこれら2河川の水系に分布する地質を反映しているとみることができる。与田川は、東かがわ市西部の山地を水源としており、流域には白亜紀後期の白鳥花崗岩が広く分布している。一方の湊川流域にも白鳥花崗岩が広く分布しており、中～上流域においては同じく白亜紀後期の和泉層群の堆積岩類が中央構造線の北側に沿って狭長に分布している。2河川の水系は、このように比較的単純な地質構成になっているといえる。

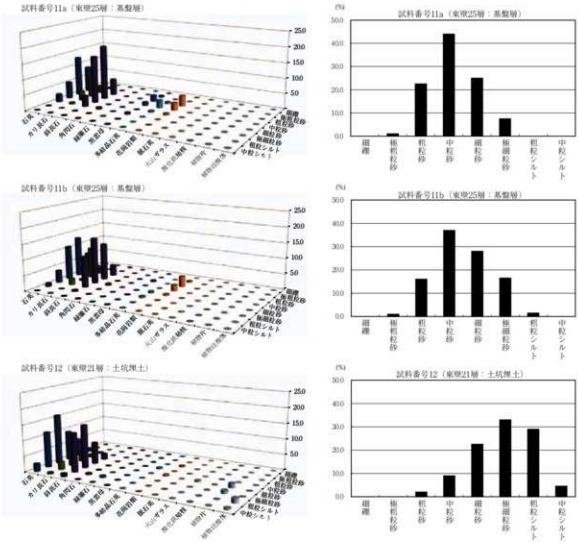
白鳥花崗岩については、香掛ほか(1979)に岩相の詳しい記載がされている。白鳥花崗岩は、粗粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩～アダメロ岩、中粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩～アダメロ岩、優白色黒雲母花崗岩、中粒等粒黒雲母花崗岩、中粒黒雲母花崗岩、黒雲母角閃石花崗閃緑



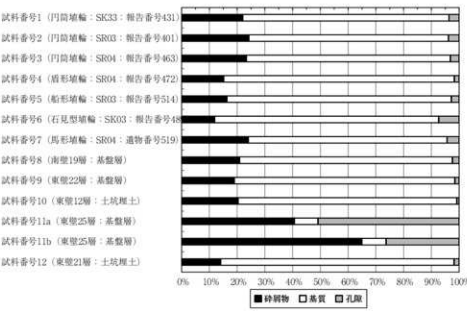
第109図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度と粒度組成（1）



第 110 図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度と粒度組成（2）



第 111 図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度と粒度組成（3）



第 112 図　砕屑物・基質・孔隙の割合

分析試料番号	試料名	種類	出土遺構層位	報告番号	分類											
					岩片・鉱物			粒度					砕屑物の割合			
					A1	A2	A3	a	b	c	d	e	①	②	③	④
1	円筒埴輪	埴輪胎土	SK33	431		■			■						■	
2	円筒埴輪	埴輪胎土	SR03	401		■			■						■	
3	円筒埴輪	埴輪胎土	SR04	463	■					■						
4	形象埴輪 盾形埴輪	埴輪胎土	SR04	472	■					■	■			■		
5	形象埴輪 船形埴輪	埴輪胎土	SR03	514	■					■				■		
6	形象埴輪 石見型埴輪	埴輪胎土	SK03	489			■					■				
7	形象埴輪 馬形埴輪	埴輪胎土	SR04	519		■						■			■	
8	東壁19層	堆積物	基盤層	現場試料1	■					■						
9	東壁22層	堆積物	基盤層	現場試料4	■					■					■	
10	東壁12層	堆積物	土坑埋土	現場試料5	■					■						
11a	東壁25層	堆積物	基盤層	現場試料9	■				■							■
11b	東壁25層	堆積物	基盤層	現場試料9	■				■							■
12	東壁21層	堆積物	土坑埋土	現場試料10	■					■			■			

(鉱物)
A1．石英、長石類を主体とし、花崗岩、黒雲母を伴う組成
A2.A1に類似するが、鉱物片の組成において黒雲母が検出されない組成
A3.A1に類似するが、鉱物片の組成においてカリ長石が少ない組成
(粒度組成)
a:中粒砂または細粒砂がモード
b:細粒砂または極細粒砂がモード
c:極細粒砂または粗粒シルトがモード
d:粗粒シルトに明瞭なモード、粗粒砂～中粒砂の割合が低い
e:モードが明瞭ではなく、粗粒砂～粗粒シルトが同等の割合.

(砕屑物の割合)
①：砕屑物10～15%
②：砕屑物15～20%
③：砕屑物20～25%
④：砕屑物25%以上

第12表　胎土および堆積物の分類

岩、アプライト質花崗岩の7岩型からなる複合岩体である。主体となる岩相は、最初の粗粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩～アダメロ岩であり、主成分鉱物は石英、カリ長石、斜長石、黒雲母で、角閃石、ジルコン、燐灰石、白雲母および不透明鉱物を伴う。一方の湊川水系に分布する和泉層群は、泥岩、砂岩、礫岩、凝灰岩などから構成されている。

基盤堆積物の南壁19層・東壁22層・東壁25層（試料番号8･9･11）における鉱物・岩片組成は、石英、カリ長石、斜長石を主体とし、黒雲母、花崗岩などを伴っている（第109～111図）。これらには、泥岩、砂岩等の和泉層群由来の砕屑物は含まれていないことから、砕屑物の後背地は与田川水系が主体とみることができる。このような鉱物・岩片組成は、埴輪試料にも認められるものであり、特にA1類が同様な組成を示している。したがって、これらの類似性から、埴輪の胎土には遺跡周辺の基盤堆積物が主に使われたと考えることが可能であり、不定形の土坑が粘土採掘抗であることを示唆する。黒雲母が計数されないA2類やA3類については、基盤堆積物とやや異なるが、黒雲母はA2類やA3類にもきわめて微量では含有されていることから、低地を構成する堆積層の層位および平面的な広がりの異なる堆積物といった局所的な違いが現れていると考えられる。一方、土坑埋土堆積物（試料番号10、12）については、基盤堆積物と概ね同様な傾向を示すが、基盤堆積物と比べて、黒雲母が計数されておらず、植物珪酸体を多く含むという違いが認められる(第11表)。植物珪酸体が土坑埋土堆積物に多く含まれるという点は、肉眼的に腐植質ということとも整合している。この植物珪酸体については、円筒埴輪の試料番号2、3、4、馬形埴輪の試料番号7にも認められている。基盤堆積物中にも、計数はされていないものの、植物珪酸体はごく微量含まれているが、植物珪酸体を含む埴輪試料（円筒埴輪・盾形埴輪・馬形埴輪）との僅かな違いとみることができる。こういった違いを考慮すると、埴輪に使われた胎土は基盤層を主体としているが、それを覆う土坑埋土のような堆積物も混ぜていた、あるいは粘土採掘時に当時の表層土が混ざった可能性が指摘できる。

埴輪の胎土をみると、円筒埴輪3点はいずれも細粒砂～粗粒シルトにモードがあり、砕屑物の割合も

20～25%と近似した組成を示している。これに対して、形象埴輪の胎土は、器種によってばらつきが確認される。盾形埴輪（試料番号3）は砕屑物の割合が15%程度で、砕屑物は粗粒シルトを主体とする組成を示し、粗粒砂・中粒砂の含有量が少ない特徴を示す。船形埴輪（試料番号5）は砕屑物の割合が15%程度で、砕屑物の割合が細粒砂～粗粒シルトを主体とする組成で、円筒埴輪に近似する組成を示す。石見型埴輪（試料番号6）は砕屑物の割合が12%程度で粗粒相に偏った粒度組成、馬形埴輪（試料番号7）は砕屑物の割合が12%程度で粗粒相に偏った粒度組成を示しており、他の形象埴輪や円筒埴輪と異なる組成を示している。このように形象埴輪の胎土は器種別で異なっていることが確認される。

今回の調査で確認された、円筒埴輪と形象埴輪、形象埴輪の器種別の胎土組成の差異が普遍的な特性であるかは今後の分析調査に委ねられるところであり、それらの成果によっては埴輪の種類による製作技法の違いなどについても言及が可能になるものと期待される。

引用文献

香掛俊夫・端山好和・本間弘次・政岡邦夫・宮川邦彦・仲井　豊・山田哲雄・吉田　勝，1979．小豆島および讃岐東部の領家帯．地質学論集，17，47-68．

松田順一郎・三輪若葉・別所秀高，1999．瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的によるー．日本文化財科学会第16回大会発表要旨集，120-121．

第7節　動物遺存体分析

広島大学総合博物館　石丸　恵理子

仲戸遺跡・仲戸東遺跡から出土した動物遺存体の同定結果は以下のとおりである。

番号	遺跡名	調査区名	遺構名	層位	取上番号	種名	部位	部分	左右	その他	備考
1	仲戸遺跡	Ⅳ区	SD02	最上層	B1	ウシ	遊離歯　上顎後臼歯　M３		左		
2	仲戸遺跡	Ⅳ区	SD02	上層	B2	ウシ	遊離歯　上顎後臼歯		左		
3	仲戸東遺跡	Ⅰ区	SD02	上層	B1	ウシ	遊離歯破片				

第13表　動物遺存体一覧

第6章　まとめ

第1節　遺跡の時期的推移

縄文時代後期

仲戸遺跡自然河川SR01、SR04 Aより当該期の遺物が出土している。SR01では遺物量が非常に乏しく、年代的位置付けに課題を残す。SR04では流路内よりクヌギの木株を検出し、その放射性炭素年代測定の結果は、後期中葉ころの年代が示された。クヌギの木株を覆う流路上位層からの遺物の出土は乏しく、周辺はクヌギ等の落葉樹が自生する森林環境へ変化したことが想像される。

縄文時代晩期

当該期も自然流路のみが確認され、仲戸遺跡SR03、SR06が検出された。調査区は異なるが、両流路は近接して流下しており、上流域では合流していた可能性も考えられる。また、SR06では中・後期に遡る遺物も少量ながら出土している。出土層位からは晩期の遺物と区別できず、混入資料と考える。上流域で上記SR04等と切り合っていた可能性が考えられる。

弥生時代中～後期

仲戸遺跡自然流路SR04 Bが当該時期の遺構であり、SR02も積極的な根拠はないが、当該期を前後する時期の流路と考える。仲戸遺跡では、当該期を最後に旧河道は確認されず、吉川や与田川といった東西の現河川の更新世段丘氾濫原面に、流路が振り分け・固定化された可能性も考えられる。

弥生時代終末期～古墳時代前期初頭

仲戸遺跡では、SD02～SD05といった幹線水路や枝水路が整備され、仲戸東遺跡では、谷部流路の最下層SR02が当該期よりやや遅れて埋没する。また、前段階まで流下していた仲戸遺跡の河道上面の浅い窪地は、当該期の遺物を含む堆積層により充填され、微高地の平準化が進展する。これら包含層は、当該期前後の耕土層の可能性も考えられたが、畦畔等は確認されなかった。上述した旧河道が氾濫原面へと移動した結果、安定した微高地の出現により、与田川流域の谷底平野や氾濫平野の開発行為が促進された可能性が想定される。それと共に、中核となる原開遺跡の成立は大きな意味をもつ。今回、両遺跡で実施した花粉分析の結果は、当該期にアカマツ林の想定的拡大の可能性が認められ、その開発は周辺の植生にまで大きなダメージを与えたことが明らかとなった。おそらくは集落や耕地の拡大によって、木製品の素材や燃料としての林産資源が、自然の回復力を上回るペースで消費されたと考えられる。

古墳時代中期

仲戸東遺跡Ⅱ区SD01が開削される。Ⅱ区SB01・SB02については、柱材の放射性炭素年代測定の結果やⅠ区での遺構の展開から、後述するように埴輪窯の開窯に伴う工房等に関する建物との評価を与え、溝よりは後出する遺構と考えた。建物より出土した少量の資料からは、時期の特定は困難なため、自然科学的分析の成果を援用するしかなく、周辺の調査の進展により、時期の特定は今後再検討を要する。同時に、当該期に単独で開削された小規模な溝SD01についても、その評価は困難である。

古墳時代後期

仲戸東遺跡では、丘陵南斜面に埴輪窯が開窯に伴い、谷部南の平地部がその粘土採取地として開発され、東部丘陵の西裾部に工房等の建物群が設置される。出土した土器資料から、概ねMT15型式併行期の可能性を想定する。窯本体が未確認のため、推測の部分が大きいが、出土埴輪に大きな時期差は認められず、短期で操業を終えたと考えられる。つまり、ある特定の古墳の築造を目的として埴輪窯が開窯されたのであろう。なお、出土した埴輪については、後に検討を加える。

古代

仲戸東遺跡では、7世紀中葉にかけて、Ⅰ区谷部の堰積（SR03）が進展する。その後、谷部上面に直線状の大型水路SD02が開削される。8～10世紀前葉の遺物が出土しており、当該時期に開削・埋没したものと考えられる。本水路の開削は、谷部の堰積に伴う流路の天井川化による、周辺の洪水対策や水利用にあったことが想像され、耕地等の開発行為がなされた可能性が考えられる。また、水路からは、木錘をはじめとする多様な木製品やその未成品、削り屑、用途不明の木片が多量に出土しており、周辺で木製品の製作がなされていた可能性は高い。

中世

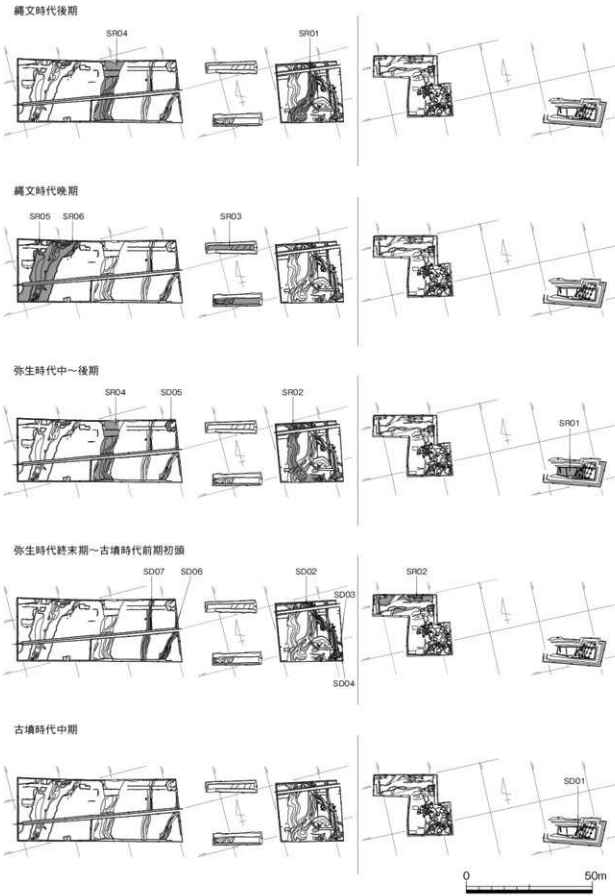
仲戸遺跡では、SD01が12世紀に開削される。その流路方向は、周辺の条里型地割の方向と合致し、本地域での地割施行の上限を示唆する遺構である。Ⅰ・Ⅱ区では、13～14世紀、16～17世紀前葉の遺物が少量だが出土しており、近接して当該期の村落等が所在した可能性が考えられる。

仲戸東遺跡では、Ⅰ区谷部上面が13世紀を上限とする複数の洪水堆積によって覆われ、谷部はほぼ平準化される。本期以降の遺物は僅少で、近世まで開発から取り残された可能性も考えられる。

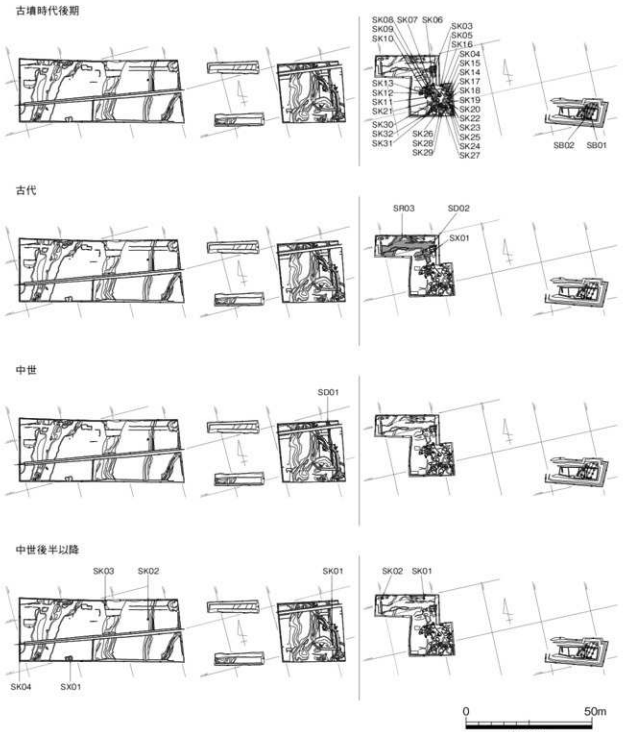
第2節　仲戸東遺跡出土埴輪の占める位置

1　はじめに

第4章に既述したように、本遺跡は古墳時代後期の埴輪生産



第 113 図　遺構変遷図 1（左：仲戸遺跡、右：仲戸東遺跡）



第 114 図　遺構変遷図２（左：仲戸遺跡、右：仲戸東遺跡）

遺跡と考えられる。しかし、出土した埴輪の大半は、後世の遺構からの混入資料であり、年代的な位置付けについては、粘土採掘坑出土のわずかな土師器や須恵器から推測するしかない。

供伴する土師器には、SK11 や SK30 出土の長胴甕がある。これら資料は、TK47 型式併行期の須恵器が供伴する高松市空港跡地遺跡 SHa05（香川県教委 2002）や同遺跡 SH1（高松市教委編 2011）出土の長胴甕と比較して、単純に外反する口縁端部の形状や、やや長く長胴化した体部形態より、同時期かやや後出するものと考えられる。一方、SK03 出土の須恵器甕や、埴輪窯灰原崩落土と考えた SR03 中層出土の須恵器は、MT15 型式併行期の特徴を有し、上記土師器の年代観と矛盾しない。よって、本遺跡出土の埴輪は、MT15 型式併行期のものである可能性が高いと判断した。

次に、埴輪による年代の特定をおこなう。本地域における当

該時期の埴輪資料は近年の調査の進展により、資料の増加をみており、また古くに出土した資料の再整理も行われ、資料は充実しつつある。以下、周辺地域の埴輪出土古墳等について資料の整理をおこない、本遺跡出土の埴輪の位置付けをおこない、若干の考察を試みることとする。

なお、取りあげる古墳・遺跡の所在地については第115図に、古墳・遺跡の概要については第14表に、それぞれ記した。また、掲載した埴輪の実測図は、香川県立ミュージアム、観音寺市教育委員会、当センター所蔵資料等で未公表のものである。掲載を許可された関係各機関に感謝いたします。また、紙数の関係で各資料の詳細は、観察表に記載した事項を除き割愛した。

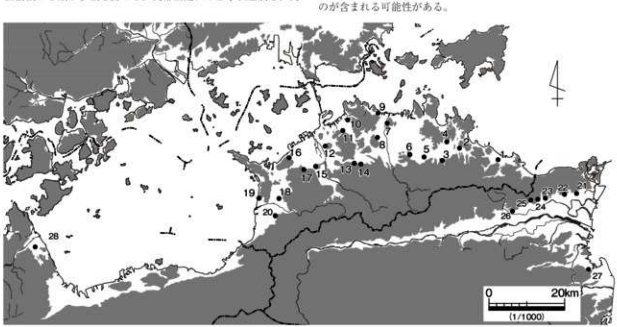
2　出土埴輪の編年的位置関係

讃岐Ⅳ期１段階

無黒斑の窯焼成、Ｂｃ種ヨコハケの導入を本期の指標とし、豊中大塚古墳（三豊市教委2015）と丸山古墳（観音寺市教委1999・2000）出土資料を基準資料とする。

丸山古墳では、円筒埴輪と朝顔形埴輪のほか、形象埴輪として蓋、家、馬等が出土している。円筒埴輪は、いずれも小片であり、全形のわかるものはない。規格のわかるものは、底径13cm前後と21cm前後のいずれもＳ型である。突帯間隔10.8cm前後、底部高11.7cm前後を測る。焼成は、須恵質や硬質土師質のものが多く、軟質のものは形象埴輪類を除いては少数である。口縁部を中心に、赤色塗彩された埴輪が少量ながら出土している。口縁部Ｉｃ類で、突帯は２ｂ、３ｂ、３ｃ類があり、突帯高0.9cm前後のｂ類が多数を占める。突帯上辺にはＬ字状圧痕を、突帯剥離面には２条もしくは単線の凹線をそれぞれ認め、凹線技法による突帯間隔の設定がなされたとみられる。透孔は円形のみであり、本期までに円形に統一されたものと考えられる。外面調整は、口縁部や体部にはＢｃ種と静止痕のないヨコハケが、底部にはタテハケ、Ｂｃ種ヨコハケ、静止痕のないヨコハケ、板ナデ等がそれぞれ施される。Ｂｃ種としたものの中には、静止痕が斜めに傾いたものがあるが、通有のＢｄ種ヨコハケとは傾きの方向が逆であり、突帯貼付前に２次調整を施している等、通有のＢ種ヨコハケの調整原理を逸脱したものを認める。同様な２次調整は後述する豊中大塚古墳からも出土しており、同種ヨコハケ導入時の工人集団の性格を考える上で興味深い。この点については、後述する。

豊中大塚古墳では、円筒埴輪と朝顔形埴輪のみで、形象埴輪を欠き、丸山古墳との間の埴輪祭祀に格差を認める。円筒埴輪は、破片資料のみで全形は不明。口径23～33cm前後、底径19～22cmを測り、Ｍ型が含まれる可能性はあるが、残存の良好なものはＳ型であることから、Ｓ型のみで構成されていた可能性が高い。口縁部は、Ｉｃ、Ⅱａ、Ⅱｂ類があり、Ｉｃ類は上述した丸山古墳と酷似する。突帯は２ａ、２ｂ、３ｂ、４ｂ類があり、突出度のやや高い２ｂ、３ｂ類が主体を占める。透孔は円形のみ。外面調整は、Ｂｂ、Ｂｃ種ヨコハケを主体として、静止痕のないヨコハケと、タテハケのみのものも少量認める。内面調整は、ハケ調整が主体的で、ナデ調整のものも底部を中心に少数認める。口縁部高は13.3cmと広く、突帯間隔は11.8cm前後、底部高は上述した丸山古墳と同じ11.7cm前後と、やや高い12.5cm前後の２タイプがあり、突帯間隔と底部高を揃えたものが含まれる可能性がある。

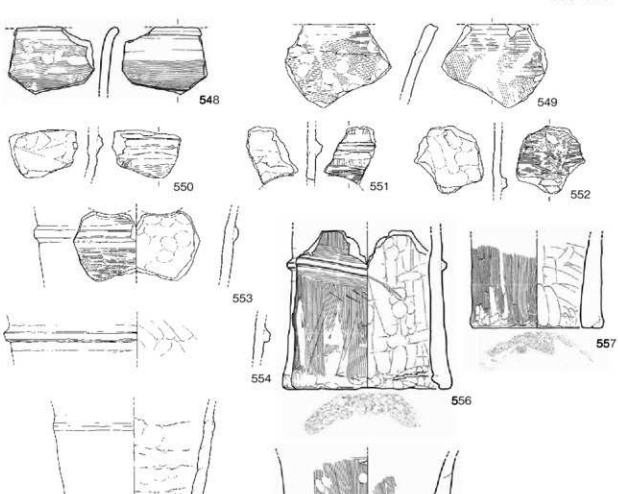


1．仲戸東遺跡　2．大井七つ塚古墳群　3．川上古墳　4．長尾八幡旅山　5．若宮古墳　6．大亀古墳　7．王墓古墳・青木１号塚・相作牛塚・相作午塚
8．中間西井坪２・３号墳　9．住吉神社古墳　10．雄山４号墳　11．別宮北古墳群　12．飯野東分山崎南遺跡　13．岡の御堂１号墳・滝宮万塚古墳群
14．末則古墳　15．公文山古墳群　16．盛土古墳・中東遺跡・鳥白方６号墳　17．王墓山古墳・香色山埴輪棺群　18．豊中大塚古墳　19．丸山古墳
20．ひさご塚古墳　21．尼塚・カニ塚古墳　22．萩原墳墓群・勝明寺谷古墳群　23．川端遺跡　24．斡柴山古墳・蓮華池遺跡　25．菖蒲谷西山Ａ遺跡
26．土成丸山古墳　27．田浦遺跡　28．樹之本古墳

第115図　埴輪出土古墳・遺跡分布図

遺跡名	所在地	墳形	規模	埋葬施設	副葬品等	円筒	朝顔	形象										時期
								蓋	家	盾	石見	人物	馬	水鳥	動物	船	双脚輪状文	
大井七つ塚1号墳	さぬき市大川町冨田西	円	15		須恵器	○	○											Ⅳ期
大井七つ塚4号墳		円	20	竪穴式石室	横矧板鋲留短甲・横矧板鋲留眉庇付冑・皮革製品・鉄刀・鉄鉾・鉄鏃・鉄斧・鉇・馬具・管玉・切子玉・須恵器	○		○				○?						Ⅳ期
大井七つ塚5号墳		円	20		短甲？鉄刀・五獣鏡・玉類	○	○											Ⅳ期
川上古墳	さぬき市長尾町昭和	円	22	竪穴式石室	横矧板鋲留短甲・頸鎧・肩鎧・横矧板鋲留冑・鉄刀・鉄剣・鉄鉾・鉄鏃・鉄斧・鉇・鑿・刀子・馬具・鉸具・須恵器・土師器	○												Ⅳ期
高野丸山古墳	高松市川島本町	円	40			○?												Ⅳ期
御厩天神社古墳	高松市御厩町	帆立	38			○												Ⅳ期
中間西井坪2号墳	高松市中間町	円	12.6			○												Ⅳ期
中間西井坪3号墳		円	15			○	○		○?									Ⅳ期
別宮北2号墳	坂出市西庄町	造出付円	20			○	○		○	○		○	○					Ⅳ期
城山1号墳	丸亀市飯山町東坂元	円	13	木棺直葬	鉄剣・刀装具・鉄鏃・曲刃鎌	○	○											Ⅳ期
東坂元秋常遺跡	丸亀市飯山町					○	○											Ⅳ期
末則古墳	綾歌郡綾上町	円	24.6	竪穴式石室	鉄刀・鉄剣・鉄鏃・須恵器	○	○											Ⅳ期
岡の御堂1号墳	綾歌郡綾南町	円	13		横矧板鋲留短甲・鉄刀・鉄剣・鉄矛・鉄鏃・鉄斧・鉄鎌・U字形鋤先・刀子・馬具・須恵器	○	○											Ⅳ期
岡の御堂2号墳		円	11.7	木棺直葬	横矧板鋲留短甲・鉄剣・鉄鏃・刀子・須恵器	○?	○											Ⅳ期
池神山2号墳	丸亀市綾歌町	円	13～14	箱式石棺・木棺直葬	鉄剣・鉄鏃・須恵器	○												Ⅳ期
池神山4号墳		円	11～14	箱式石棺	須恵器	○			○									Ⅳ期
奥白方6号墳	仲多度郡多度津町					○												Ⅳ期
西白方瓦谷遺跡	仲多度郡多度津町					○												Ⅳ期
盛土山古墳	仲多度郡多度津町	円	42		鉄刀・四神四獣鏡・銅鈴・瑪瑙製勾玉・硬玉製勾玉・碧玉製管玉・トンボ玉・ガラス小玉	○	○	○										Ⅳ期
中東遺跡	仲多度郡多度津町	方	15			○	○											Ⅳ期
青龍古墳	善通寺市吉原町	円	42			○			○?									Ⅳ期
豊中大塚古墳	三豊市豊中町	円	27			○	○											Ⅳ期
丸山古墳	観音寺市室本町	円	35	横穴式石室	三角板鋲留短甲・鉄刀・鉄剣・鉄鏃	○	○	○	○				○	○	○			Ⅳ期
青塚古墳	観音寺市青塚	帆立	44			○	○											Ⅳ期
仲戸東遺跡	東かがわ市川東					○		○		○	○	○?	○			○		Ⅴ期
寺尾24号墳	さぬき市鴨部	方	13～15		鉄斧・鉇	○	○											Ⅴ期
大井七つ塚6号墳	さぬき市大川町冨田西	円	13			○	○											Ⅴ期
大井七つ塚8号墳		円	12			○												Ⅴ期
尾崎西遺跡	さぬき市長尾町					○												Ⅴ期
長尾八幡旗山	さぬき市長尾町					○	○			○?								Ⅴ期
堀切1号墳	木田郡三木町	円	14.5	竪穴式石室？		○												Ⅴ期
若宮古墳	木田郡三木町	円？	20？			○							○					Ⅴ期
尾越古墳（大亀古墳群）	高松市西植田町	方円？	36			○	○		○									Ⅴ期
石舟池古墳群	高松市三谷町					○												Ⅴ期？
王墓古墳	高松市飯田町	円				○												Ⅴ期
相作牛塚古墳	高松市鶴市町	円	14？	竪穴式石室	金銅製馬具・挂甲・大刀・鉄鏃？須恵器	○	○		○			○						Ⅴ期
相作馬塚	高松市鶴市町	円？	12？		須恵器	○												Ⅴ期
青木1号墳	高松市飯田町	円				○												Ⅴ期
住吉神社古墳	高松市神在川窪町	円		箱式石棺？		○	○		○?	○?								Ⅴ期
雄山4号墳	坂出市高屋町	円	11.8	横穴式石室	鉄製馬具・腸抉三角形鏃・刀子・鉇・鑿・曲刃鎌・碧玉製管玉・ガラス小玉・須恵器	○	○	○				○	○					Ⅴ期
雄山7号墳		円	6.5	横穴式石室	腸抉三角形鏃・無頸鏃・須恵器								○					Ⅴ期
別宮北1号墳	坂出市西庄町	円	13		須恵器	○	○			○			○?					Ⅴ期
滝宮万塚古墳群	綾歌郡綾川町滝宮					○						○						Ⅴ期
飯野東分山崎南遺跡	丸亀市飯野町				須恵器	○	○											Ⅴ期
公文山古墳群	仲多度郡まんのう町公文	円？				○							○				○	Ⅴ期
香色山1号埴輪棺	善通寺市善通寺町			埴輪棺		○			○									Ⅴ期
香色山2号埴輪棺				埴輪棺		○												Ⅴ期
香色山3号埴輪棺				埴輪棺？		○												Ⅴ期
王墓山古墳	善通寺市善通寺町	方円	45	横穴式石室	金銅製馬具・挂甲・銀象嵌鉄刀・長頸鏃・弓金具・胡籙・鉄鉾・金銅製冠帽・金環・銀環・各種玉類・鉄斧・砥石・須恵器	○		○				○						Ⅴ期
ひさご塚古墳	観音寺市木之郷町	方円	41		須恵器	○												Ⅴ期

第14表　埴輪出土古墳・遺跡概要一覧



第116図　丸山古墳・奥白方6号墳・滝宮万塚出土埴輪実測図

大塚古墳からは、須恵器小片が少量出土しており、報告者は、調整手法の類似からON46型式併行期に経営の中心がある宮山窯跡からの搬入の可能性を指摘するが、より良好な資料の出土を待って判断したい。また近隣地域では、徳島県勝明寺谷古墳群（徳島県埋文2005）出土資料が本段階に位置付けられる可能性がある。同資料では、丸山、大塚古墳出土資料と同様に、2次調整を突帯貼付前に施した資料が出土しており、技術的系譜関係を考える上で重要な資料である。

讃岐Ⅳ期2段階

底部高の縮小と外面2次調整を欠落する埴輪の顕在化、Bc種とCa種ヨコハケの盛行を本期の特徴とする。盛土山古墳（香川県教委1998a）と中東遺跡SD01（香川県教委2003）、川上古墳（長尾町教委1991）出土資料を本期の指標とするが、いずれも破片資料のみで全体像が不明瞭なため、細かな変化は指摘できず、今後の課題としたい。

盛土山古墳では、胴部径よりS型とみられるものがあるが、規格は不明である。外面調整にはBc種ヨコハケと静止痕のないヨコハケがあり、後者が主体的で、一部に2次調整を欠落したものを含む。突帯は2b、3b類を認める。なお円筒埴輪以外に、朝顔形埴輪と蓋形埴輪、家形埴輪が出土している。

中東遺跡SD01出土資料では、口径24～29cm前後のS型があり、底部高は10cm前後と縮小する。外面調整はBc種ヨコハケがあるが、2次調整を欠落する埴輪も一定量あり、やや後出する様相を示しているのかもしれない。口縁部はⅡb類とⅡ類があり、突帯は2b、3b類を認め、後者の比重がやや高い。

川上古墳の竪穴式石室の周辺からは、TK208型式併行期の須恵器が出土しており、須恵器との併行関係の参考となる。

近隣地域では、徳島県カニ塚古墳（徳島県埋文2006）出土資料と土成丸山古墳（阿波市教委2010）が本段階に位置付けられる可能性がある。カニ塚古墳の報告書では、「タテヨコいずれのハケも省略されている退化形態のもの」として、後述する尼塚古墳より後出する可能性を指摘するが、Ｂ種ヨコハケが確実に存在し、口縁部高や突帯間隔が、尼塚古墳より広いことから、当該時期に位置付けられるものと考える。しかし、両古墳の出土資料は限られており、断定するにはより資料の増加を待ちたい。

土成丸山古墳出土資料では、口縁部高、突帯間隔、底部高が11cm前後にほぼ揃えられている可能性がある。外面調整はＢｂ・Ｂｃ種ヨコハケや静止痕のないヨコハケを中心に、２次調整を欠落するものも一定数認められ、当該時期に位置付けられるものと考える。

讃岐Ⅳ期３段階

底部高の縮小、Ｂｄ種ヨコハケの導入、内面ナデ調整の卓越化を本期の指標とし、別宮北２号墳（香川県教委2010）と香色山２号墳輪棺（善通寺市教委1992）を基準資料とする。そのほか、破片資料のみであるが、大井七つ塚１号墳（大川町教委1992）、末則古墳（香川県1976）、岡の御堂１号墳（綾南町教委1977）、奥白方６号墳、中間西井坪遺跡２・３号墳（香川県教委1996）出土資料も同時期の資料と考える。

別宮北２号墳と香色山２号棺、末則古墳は、Ｓ型のみが認められるが、奥白方６号墳にはＭ型の可能性があるものがある。底部高は、別宮北２号墳では8.5cm前後と10cm前後のＳ型の中でも２種類の規格のものが併存し、それは後出する別宮北１号墳へと継承される。突帯間隔は、前者は9.0cm前後、後者は10cm前後で、底部高と突帯間隔を揃え、口縁部高は若干広めとなるようだ。口縁部はⅡｂ類とⅢ類があり、やや後者が多数を占める。突帯は２ｂないし３ｂ類で、後者が多い。外面調整は２次調整を欠落するものが多数を占め、報告書に掲載された資料では８割以上を占める。２次調整は、Ｂｂ・Ｂｃ種ヨコハケ、静止痕のないヨコハケがある。Ｂｄ種ヨコハケは認めないが、一次調整のタテハケが粗雑なため器表面が平滑でなく、ヨコハケの当たらない箇所が顕著に認められる点は、当該期の様相と理解できる。底端部にケズリや板ナデを施すものを認めるが、それは正置状態でなされたもので、倒立底部技法は認めない。

香色山２号墳輪棺資料は、Ｓ型４条突帯と３条突帯がある。前者は、突帯間隔と底部高を10cm前後で揃え、口縁部高のみ９cm前後と縮小する。外面調整は２次調整を欠き、口縁部はⅢ類、突帯は３ｂ類、体部２・４段目に円形透孔を穿つ。後者は、口縁部高、突帯間隔、底部高をすべて11cm前後で揃える、口縁部と体部２段目にＢｂ種ヨコハケを、体部３段目にＢｄ種ヨコハケを施し、底部のみ２次調整を欠く。口縁部Ⅲ類、突帯３ｂ類で、体部３段目に円形透孔を穿つ。

末則古墳は、12cm以上の比較的高い底部高を維持しているものの、外面調整は２次調整を欠落する資料が多数を占め、底部倒立調整も認められないことから、当期に位置付けられるものと考える。また口縁部にはＩａ類があるが、本地域でＩ類が当該期まで残存する例に乏しく、本項の特徴といえる。

大井七つ塚１号墳は、破片資料のみであるが、底部高は9.6cmと縮小し、外面調整はＢｂ種と静止痕を認めないヨコハケが一定数を占め、内面調整もハケ調整を施すものが一定数あり、本期に含まれるものと考える。また、無黒斑の埴輪と有黒斑の埴輪が共存する。有黒斑の埴輪が、本期に復活するのか、Ⅲ期以降系譜がたどれるのかは、Ⅳ期前半の資料が乏しく不明ながら、本地域では後続する別宮北１号墳や大亀古墳にも存在し、小規模墳を中心に認められることから、階層的な問題なのかもしれない。

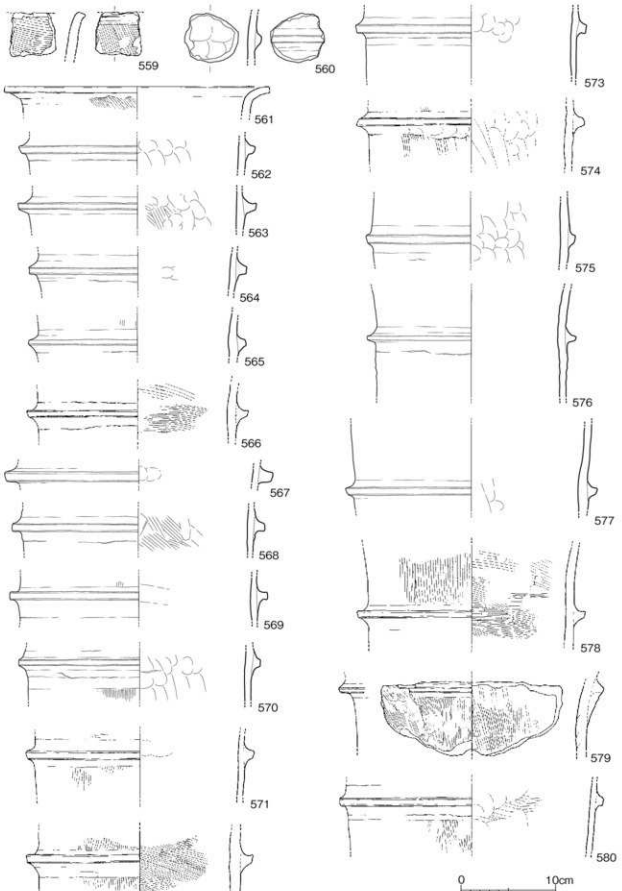
中間２・３号墳は、いずれも小片で全形がわかる資料はない。規模は、口径28.7cmと24.0cm、底径15.8cmのものがあり、いずれもＳ型である。口縁部高10.3cm、底部高7.4cmをそれぞれ測る。口縁部Ⅱｂ、Ⅲ類、突帯２ｂ、２ｃ、３ｂ、４ｃ類をそれぞれ認める。突帯剥離面には凹線を認め、凹線技法により突帯間隔の設定がなされる。外面調整は２次調整を欠くものが多数を占め、一部に静止痕のないヨコハケを施すものを認める。

別宮北２号墳や大井七つ塚１号墳の周溝内からは、TK208～TK23型式併行期の、岡の御堂１号墳の石室周辺や周溝内よりTK23型式併行期のそれぞれ須恵器が出土している。

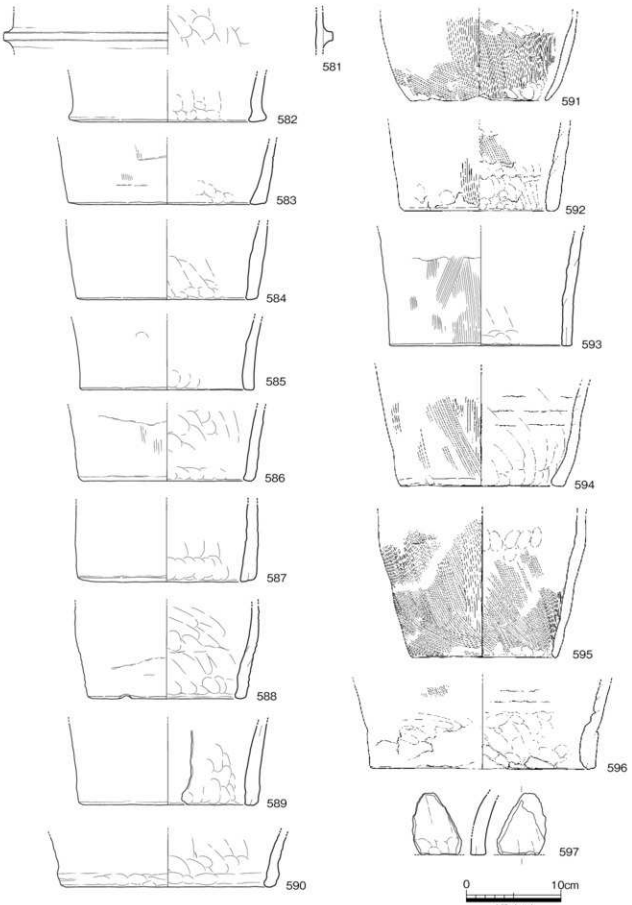
なお、近隣地域では、徳島県尼塚古墳（徳島県埋文2006）、同田浦遺跡（小松島市教委2015）、愛媛県樹之本古墳（山内2001）のそれぞれ出土資料が本段階に位置付けられる可能性がある。尼塚古墳では、資料数が限定されるものの、２次調整を欠くものが一定数認められることや、突帯間隔が11cm前後と12cm前後の２規格認められ、Ｖ群系埴輪は含まれない。樹之本古墳では、Ｂｃ種ヨコハケを主体にＢｄ種や静止痕を認めないヨコハケがあり、また２次調整を欠落するものも一定数出土しているようである。

讃岐Ⅴ期１段階

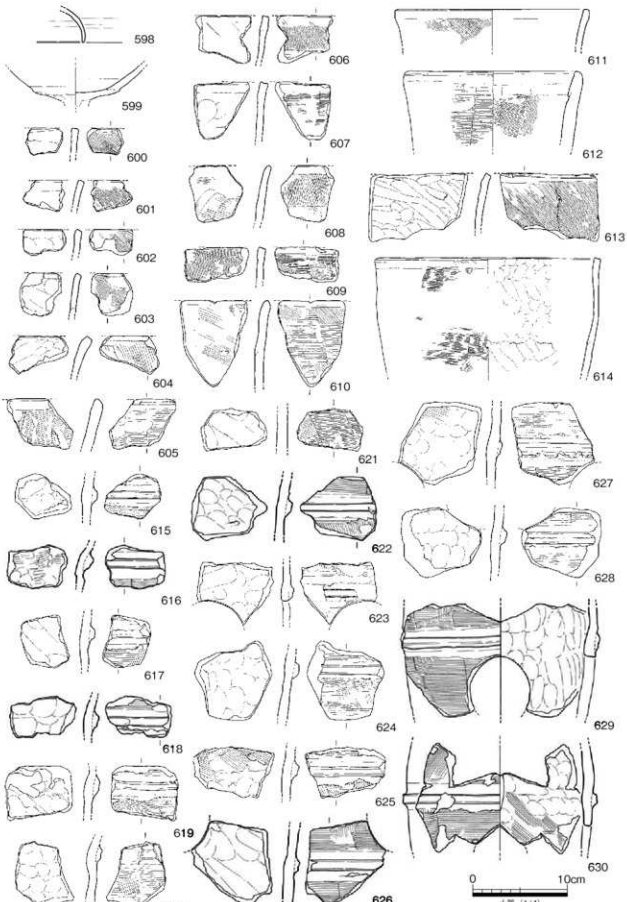
Ｖ群系埴輪の導入を本期の大きな指標とし、仲戸東遺跡、大亀古墳、別宮北１号墳（香川県教委2010）、香色山１号埴輪棺（善通寺市教委1992）資料を基準資料とする。また、大井七つ塚６・８号墳（大川町教委1992）、青木１号墳、王墓古墳、滝宮万塚、飯野東分山崎南遺跡（香川県教委1998）出土資料も本期に含まれる可能性が高い。本期の資料のうち、仲戸東遺跡、大井七つ塚６号墳、青木１号墳、大亀古墳、香色山１号埴輪棺出土資料には、倒立底部調整が認められ、それを欠く他の資料とは、地域差、あるいは時期差とみることも可能かもしれない。今後の課題である。また、断続ナデ技法も本期に導入されている可能性は高いが、上記したいずれの資料にも、断続ナデ技法に特徴的な、突帯上下の器面に残された指先の調整痕は認められず、その点で断定は差し控える。そうした調整痕を残さない手法に



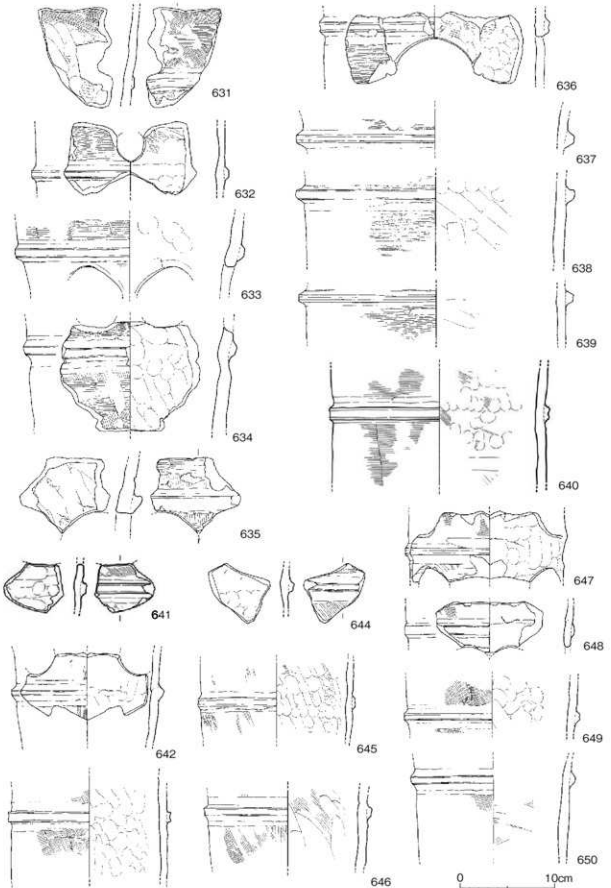
第 117 図　末則古墳出土埴輪実測図 1



第 118 図　末則古墳出土埴輪実測図 2

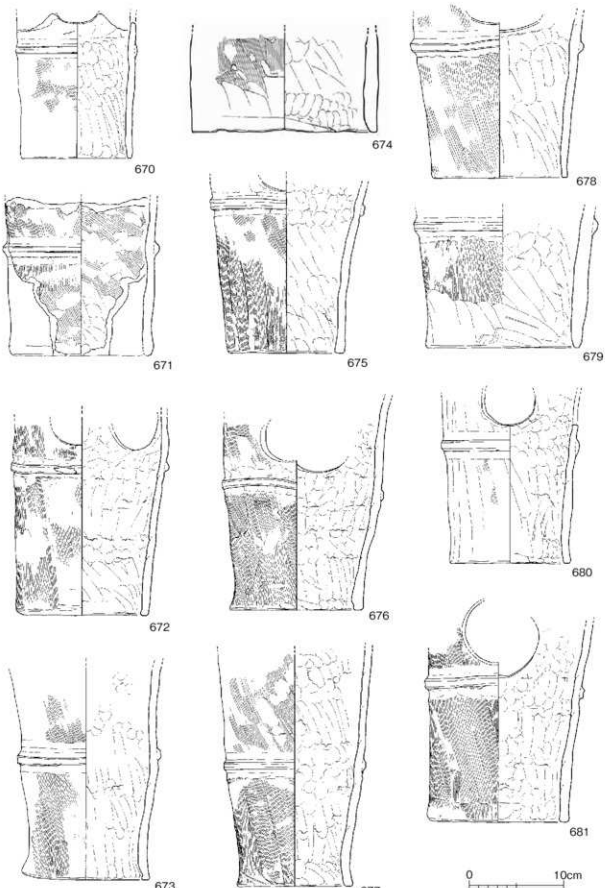


第 119 図　大亀古墳出土埴輪実測図 1

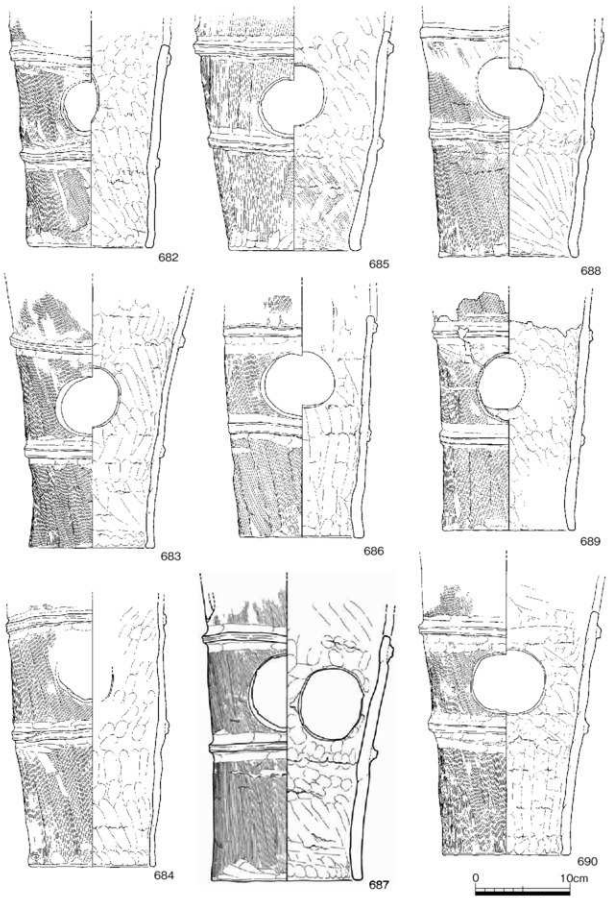


第120図　大亀古墳出土埴輪実測図2

第121図　大亀古墳出土埴輪実測図3

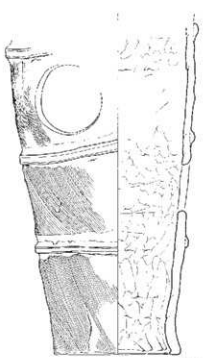


第 122 図　大亀古墳出土埴輪実測図 4

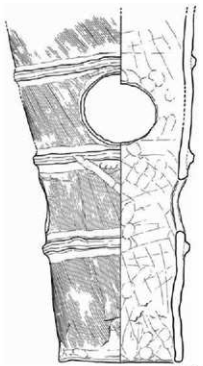


第123図　大亀古墳出土埴輪実測図5

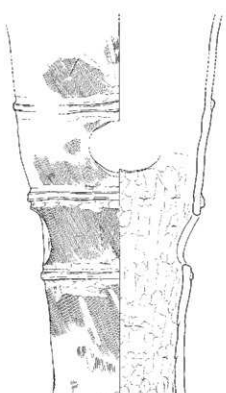
691



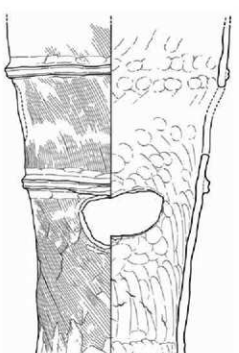
692



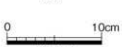
693



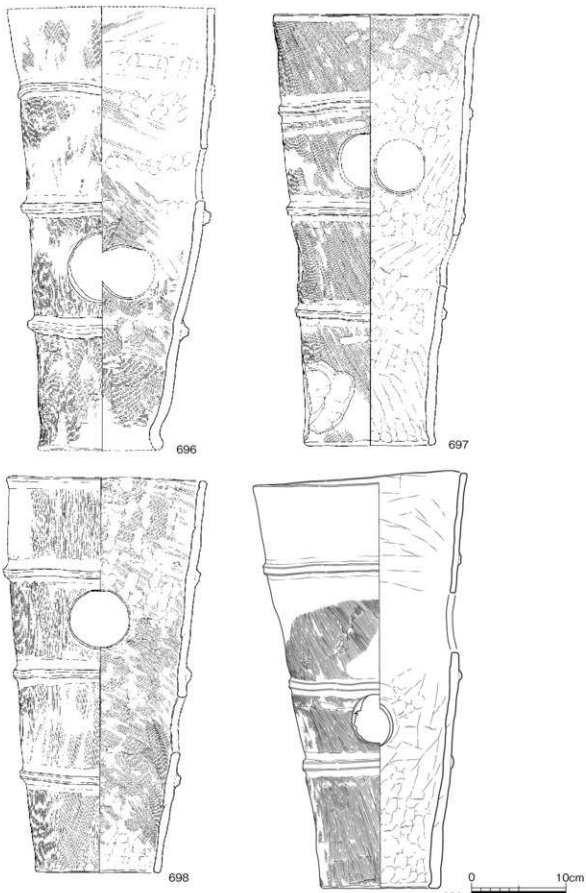
694



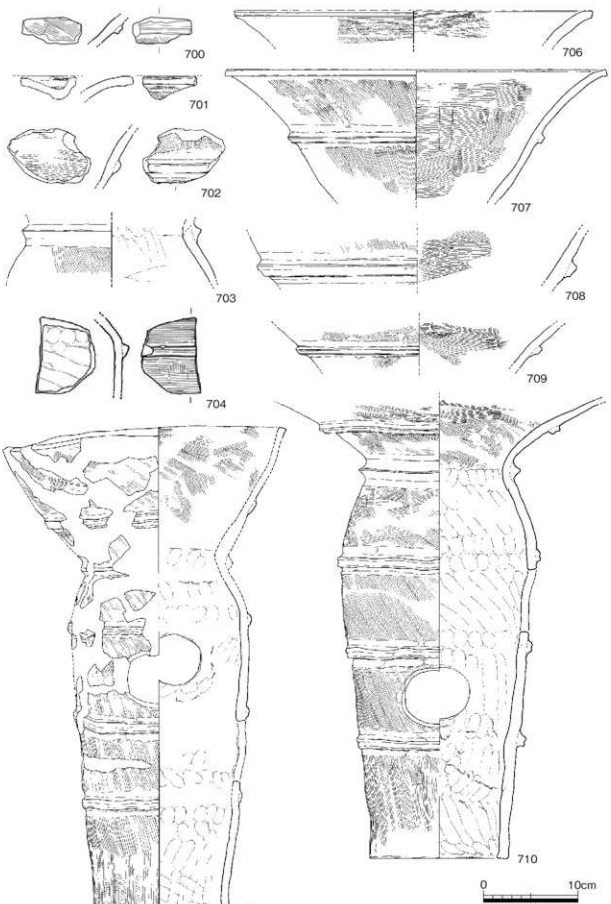
695



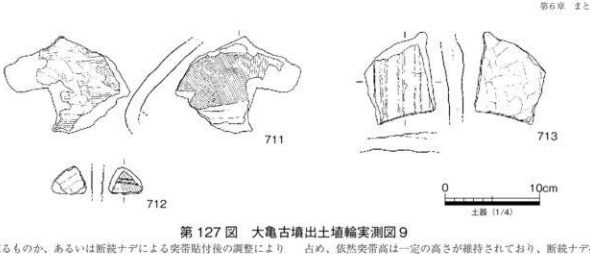
第 124 図　大亀古墳出土埴輪実測図 6



第125図　大亀古墳出土埴輪実測図7



第 126 図　大亀古墳出土埴輪実測図 8



第127図　大亀古墳出土埴輪実測図9

依るものか、あるいは断続ナデによる突帯貼付後の調整により消された可能性も考えられ、断続ナデ技法導入時の初現的な様相ととらえることも可能かもしれない。

仲戸東遺跡では、規格はS型を主体としつつも、M型も一定数存在する可能性が高い。口縁部はⅡb・Ⅲ類を主体としつつ、Ⅳa類も少数認める。おそらく、このⅣa類口縁を有するものを中心に、M型の採用と、外面への2次調整の残存の可能性を想定する。S型の主体は、外面調整に2次調整を欠き、1次調整は左上がりのナナメハケを主体としつつも、一部にタテハケも認める。内面調整は、口縁部から胴部上半部を中心にハケ調整が一程度施される。突帯は、2b・2c・3b・3c・4b類がある。

大亀古墳では、規格はS型を主体とする。口縁部はⅡb・Ⅲ類があり、後者が多数を占める。外面調整は、2次調整を欠落するものが大半で、2次調整には、Bb・Bc・Bd種や静止痕のないヨコハケがあり、後3者が主体を占める。突帯は、2c・3c類が主体を占めるが、やや突出する2b・3b類も一定数存在し、極端に低平なものは少数である。外面調整のハケは、条数が4条／cmの粗いものと、8～9条／cmの細かなものとが混在し、後者が多い。この点で、青木1号墳資料とは逆転している。底部高は10～15cm前後、突帯間隔は9～13cm前後、口縁部高は8～11cm前後と、いずれも一定せず、V群系のものが主体を占めるようだ。底部調整として、一部に板オサエを認める。

別宮北1号墳では、規格はS型3条突帯であるが、器高43cm前後の大型のもの（A型）と、器高39cm前後の小型（B型）の2タイプがあり、両者の口径と底径に大きな差異は認めない。また、B型には少数の2条突帯の埴輪を含む。A型は、底部高、突帯間隔、口縁部高を概ね11cm前後で揃え、突帯貼付に粗雑さが認められるものの、Ⅳ群系と考えられる。前期の香色山2号埴輪棺資料と同規格である。外面調整は2次調整を欠落し、タテハケとナナメハケが認められるが、前者がなお一定施されるのを特徴とする。内面はナデ調整が卓越し、ハケ調整は大きく後退する。個立底部調整は施されず、外面ハケ調整が底端部まで及ぶ。口縁部はⅡb類とⅢ類があり、突帯は3b類が主体を占め、依然突帯高は一定の高さが維持されており、断続ナデ技法は導入されていないと考える。

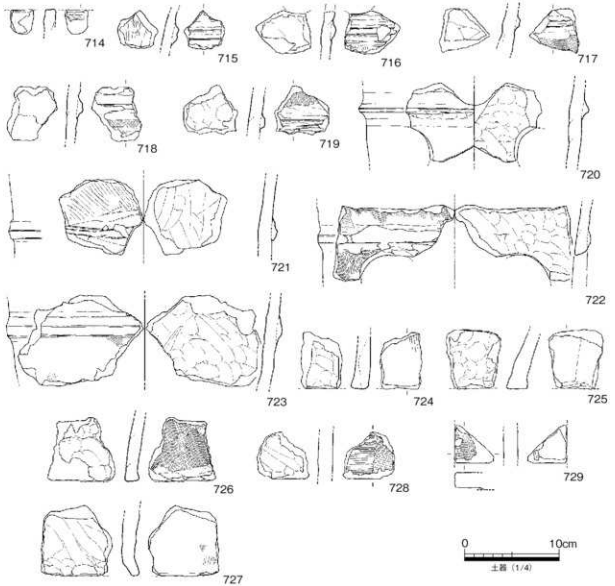
また、B型は、底部高、突帯間隔、口縁部高を10cm前後で揃え、口縁部高を縮小させる以外、ほぼ別宮北2号墳の円筒埴輪の規格をそのまま継承しているといえる。また本タイプでは、内面調整にハケ調整が一定残存する点も、前期的な要素といえるだろう。

香色山1号埴輪棺は、円筒埴輪1点のみで、時期を特定するのは困難だが、後述する属性から、当該期の資料と考える。口径27cm前後、3条4段のS型で、軟質土師質焼成である。口縁部はⅡb類、突帯は3b類で、断続ナデ技法はとられていない可能性が高い。透孔は径5cm程度の円形で、2・3段目にそれぞれ2孔、概ね90°ずらせて穿たれる。外面は2次調整を欠き、主にタテハケ調整である。内面は、ナデ調整が卓越し、口縁部付近にハケ調整を認める。口縁部高7cm前後、突帯間隔は2段目が11.5～13cm、3段目が9.5～11.1cm、底部高は15.8～16.4cmと、大亀古墳出土資料に近似する。底部高は、前段階までの緩小傾向から解放されて一気に伸長するが、こうした一群は本段階を通じて存在する。また底部調整に、板オサエを認める。

大井七つ塚6・8号墳では、外面調整にB種ヨコハケや静止痕のないヨコハケ、2次調整を欠くものが認められ、突帯は3b・3c類があり、底部調整が認められることから、当期に位置付ける。

飯野東分山崎南遺跡出土資料は、資料数は乏しいものの、口縁部端部下や突帯下の凹線技法の存在から、Ⅳ群系の埴輪を含むことは間違いない。一方で、突帯は2c・3c類のみで低平なものが多数を占め、外面2次調整や内面ハケ調整を欠落することから、当該期に位置付けられるものと考える。

出土地不明資料は、口径36cm前後、底径21～26cmのものがあり、M型とS型で構成される。M型で口縁部高12cm前後、底部高18cm前後、S型で底部高21cm前後を測る。突帯間隔は不明。口縁部はⅡb類とⅢ類があり、突帯は3b、4b類を、透孔は円孔をそれぞれ認める。また、口縁部とみられる外面に、5条の併行する直線状の沈線を線刻するものが1点ある。突帯が剥離した資料も数点認めるが、剥離痕に突帯間隔設定技法の痕跡



第128図　王墓古墳出土埴輪実測図

は認めない。外面は2次調整を欠き、内面は口縁部を中心に一部にハケ調整を認める。底部はケズリ・ハケ・ナデ調整が加えられるが、いずれも正置状態でなされており、倒立調整は認めない。M型が一定数出土していること、突帯形状、器壁が薄く、底部高が高くて倒立調整を認めないことなど、Ⅳ期前半期の資料とみることも可能だが、2次調整を欠落することなど、新しい様相を重視して、本期の資料と考える。

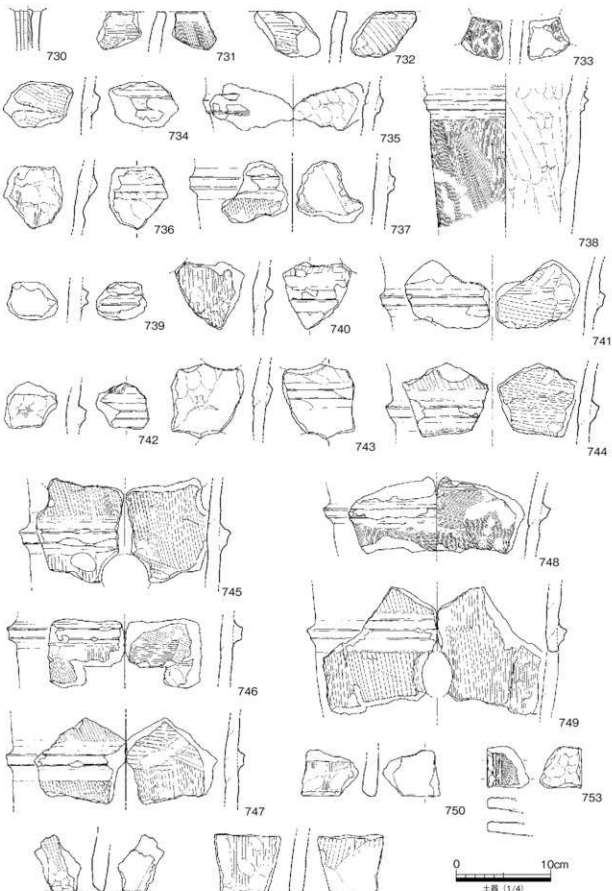
別宮北1号墳では TK23～TK47 型式併行期の須恵器が、大井七つ塚8号墳では TK47 型式併行期の須恵器がそれぞれ供伴し、仲戸東遺跡では前節で既述したように、MT15 型式併行期の須恵器と供伴する可能性が高い。

近隣地域では徳島県萩原2号墓（徳島県埋文2010）出土資料や川端遺跡 SD1001（徳島県埋文1995）出土資料[出1]も、本期に位置付けられる可能性がある。

讃岐Ⅴ期2段階

本期は、Ⅳ群系埴輪の消滅と断続ナデ技法Aの顕在化、断続ナデ技法Bの不在を指標とし、相作牛塚古墳（高松市教委2010）、住吉神社古墳、ひさご塚古墳（香川県教委1988）出土資料を基準資料とする。資料数は限られるが、相作馬塚古墳（高松市教委2015）や若宮古墳出土資料も本期に位置付けられるものと考える。このうち、相作牛塚古墳ではB種ヨコハケによる2次調整を認め、その他の資料よりは古い様相を残す。

なお、断続ナデ技法Bは、底部突帯にのみ施される突帯貼付手法であり、かつ後出するⅤ期3段階の資料中でも、すべての底部突帯に施されているわけではない。したがって、破片資料のみで、かつ資料数の限定された本期の資料中に、本来的に断続ナデ技法Bが含まれていないとは断定できず、次期との分期に課題を残していることは間違いない。本期は、そうした不完全さを内包する。



第129図　青木1号墳出土埴輪実測図

規格では、S型を主体としつつも、M型も一定数認められる。とくに住吉神社古墳でM型が卓越している点は注目される。焼成は、須恵質や硬質土師質が主体となる点は変わらないが、軟質焼成のものが認められるようになり、一部に品質の低下がみられるようになる。外面タテハケ調整の起点も水平に揃わず、連続性も認められない。

また、V期の古墳では、1古墳へ製作地を異にする可能性のある埴輪の供給は、基本的には認められていないが、本期のひさご塚古墳において、その可能性が示唆された点も、重要であろう。ひさご塚古墳が前方後円墳であることも関係している可能性がある。

本期でも、口縁部や突帯の形状、板オサエによる底部調立調整など、多くの属性が前段階より継承される。ひさご塚古墳では、底端部へ強い指オサエを施すもの（**851**）があり、それは後述する雄山4号墳にも認められ、ひさご塚古墳の後出的様相ともみることができる。また外面の調整は、左上がりのナナメハケを主体とし、タテハケも一部に認める。内面調整もハケ調整が残存するものの、その出現頻度は前段階より低下するようだ。

相作牛塚古墳では MT15 型式併行期の、ひさご塚古墳で周溝内より埴輪類とともに MT15 ～ TK10 型式併行期の須恵器がそれぞれ出土している。

長尾八幡原山出土資料は、断続ナデ技法が認められないが、2次調整を欠落し、突出度の低平な3ｃ類突帯が主体となること、外面調整は左上がりのナナメハケのみで、ハケ工具に粘土のはみ出しが顕著に認められることなどより、本期に位置付けられる可能性がある。断続ナデ技法の欠落は、小規模な古墳での限定された個体数の問題なのか、あるいは当該期における地域性の問題なのか、資料の増加を待って判断したい。

なお、近隣地域では徳島県蔡蒲谷西山Ａ遺跡（徳島県埋文 1995）出土資料が、当該時期に位置付けられるものと考える。

讃岐Ⅴ期3段階

本期は、底部突帯への断続ナデ技法Ｂの採用を指標とし、王墓山古墳（善通寺市教委 1992）と雄山4号墳（香川県教委 2000）、公文山古墳群（香川考古 1994）、香色山3・4号墳輪棺（善通寺市教委 1992）を基準資料とする。

王墓山古墳資料は、破片資料が多数を占め、全形のわかる資料はない。出土資料のすべてを実見したわけではなく、調査も一部に限られたため、下記種相がどの程度本墳の実態を表しているかは不詳である。規格のわかる資料では、底径が 20cm前後のもの2点と、26cmのもの1点があり、M型とS型の2者が含まれる可能性が高い。また、規格が不明な資料で、口縁部高 7.5 cm前後、突帯間隔 10.3cmを、M型で底部高 16.5cmをそれぞれ測る。焼成は軟質土師質、硬質土師質、須恵質のものがあり、全体的に焼成の堅緻な資料が多いが、軟質なものも一定数出土している。なお、形象埴輪はほぼすべて軟質土師質である。口縁部はⅡｂ類とⅢ類があり、前者が多数を占めるようだが、点数が少ないため断定はできない。外面調整は2次調整を欠き、左上りのナナメハケが多数をとめるが、タテハケも少数認める。内面調整は、口縁部を中心にハケ調整を施すものが一定数出土している。突帯は、3ｃ類、6Ａ類が主体を占め、突帯高 0.8cm前後の3ｂ類も少数ながら認める。底部突帯には、6Ｂ類を1点のみ確認したが、断続ナデ後突帯上面に板状工具によるナデを加えたもので、正確には6Ｂ類ではない。また、6Ａ類の可能性のある底部突帯もあり、底部突帯のすべてが6Ｂ類でない点は雄山4号墳と共通する。なお、各段突帯に占める6Ａ類の出現頻度は高く、同一個体を重複カウントしている可能性はあるが、突帯の半数以上を占める。透孔は円形に限られるようだが、位置は不明である。底部は、ヨコハケや板オサエによる倒立底部調整を施すものと、それを欠くものの2者を認める。

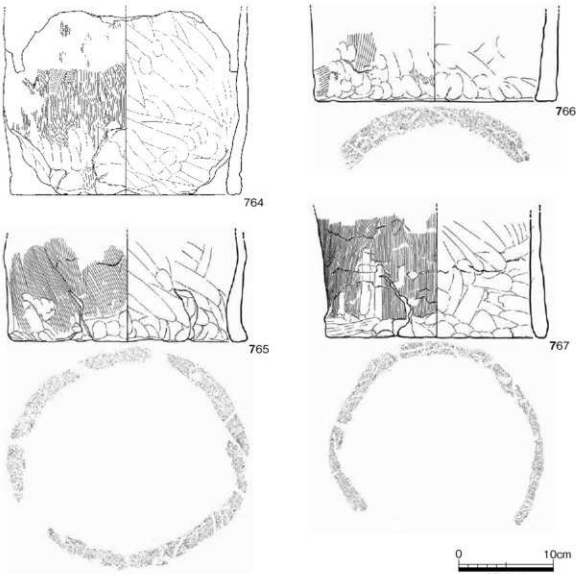
雄山4号墳の資料も、基本的には王墓山古墳と共通する。口径 25 ～ 31cm前後、底径 14 ～ 27cm前後を測り、一部にM型を含む可能性はあるが、破片資料のみであり、おそらくはS型のみで構成されていたと考えられる。口縁部はⅡｂ、Ⅲ類があり、前者が多い。突帯は2ｃ、3ｃ、4ｃ類があり、3ｃ類が多数を占める。また、6Ａ類も多数出土しており、報告書に依れば8割を超える。底部突帯には、断続ナデB以外のものも含まれ、底部調整もすべてに施されているわけではない。

公文山古墳群資料は、破片資料のみで全形は不明[注2]である。複数の古墳出土資料が混在している可能性はあるが、実見した資料で明瞭な時期差は認められなかった。口径 22cm前後のS型のみ認める。焼成は、須恵質、硬質土師質、軟質土師質のものがあり、やや軟質のものが多い。口縁部はⅡｂ類とⅢ類があり、突帯は3ｃ類のみで、明確な6Ａ類が確認できない点で、位置的に近接する王墓山古墳とは異なる。底部突帯は3点が確認され、いずれも6Ｂ類である。底部突帯も、王墓山古墳にみられたような断続ナデ後の押圧は認められず、工人集団が異なる可能性が高い。透孔は径5cm程度の円形で、仮に3条4段だとすると、2段目と3段目に各2孔、90°前後ずらせて穿たれている。外面は2次調整を欠き、左上りのナナメハケ調整、内面はナデ調整でハケ調整を認めない。ハケには、細・粗の2種類がある。口縁部高には 8.5cm前後と 10.5cm前後の2種類があり、前者の突帯間隔は 8.5 ～ 9.0cm、後者は 8.3cm前後である。底部高は 14.5 cmを認める。底部調整はマメツのため確認できなかった。

詳細の明らかでない王墓山古墳資料の参考となるのが、香色山3．4号墳輪棺である[注3]。埴輪は2点あり、いずれも器高 48cm前後、3条4段のS型である。外面調整はナナメハケで、ハケ原体は精粗の2種類がある。内面調整はいずれもナデとみられる。口縁はⅡｂ類とⅢ類で、突帯はⅢｃ類もしくは6Ａ類で、最下段突帯のみ6Ｂ類である。底部は倒立調整により板オサエを施す。口縁部高 11 ～ 14cm、突帯間隔 9.1 ～ 10.5cm、底部高 14.0cm前後を測る。

近隣地域では、徳島県蓮華池遺跡（Ⅰ）（徳島県埋文 1994）出土資料や韓堂山古墳（藤川 1991）出土資料が当該時期に位置

第 130 図　出土地不明資料埴輪実測図 1



第131図　出土地不明資料埴輪実測図2

付けられる

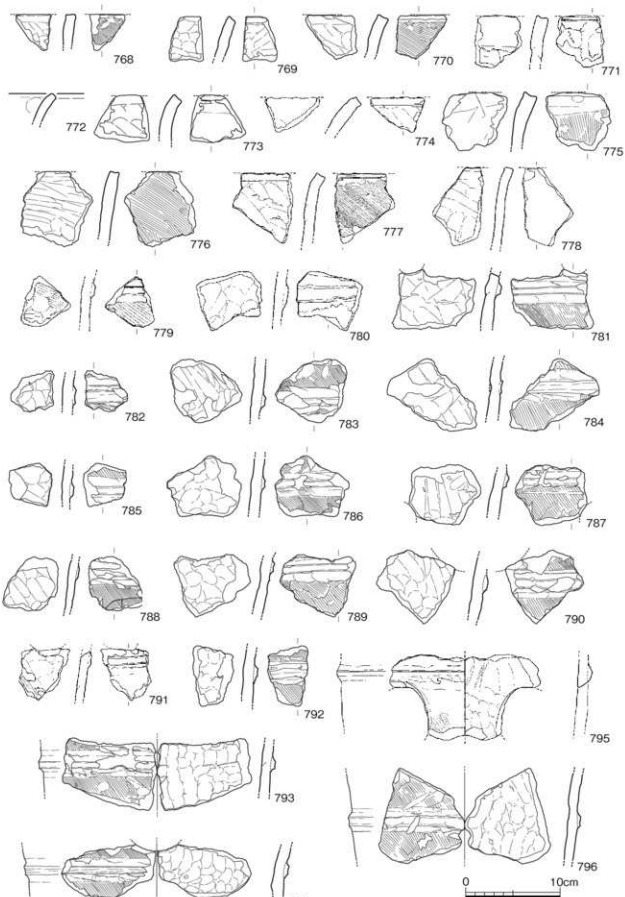
3　小結

以上、讃岐地域を中心に、須恵質埴輪導入以降の円筒埴輪について、2期6段階に区分する編年を試みた。そして仲戸東遺跡出土資料は、Ⅴ群系埴輪の導入期である讃岐Ⅴ期1段階に位置付けられるものと考えた。供伴する須恵器は、Ⅳ期1段階がON46型式併行期、Ⅳ期2段階がTK208型式併行期、Ⅳ期3段階がTK208～TK23型式併行期、Ⅴ期1段階がTK47～MT15型式併行期、Ⅴ期2段階がMT15型式併行期、Ⅴ期3段階がTK10型式併行期の資料がそれぞれ出土しており、概ね矛盾しないものと考える。須恵器を基準とすると、埴輪編年のとくにⅤ期の開始期は、畿内地域の編年と比較して、若干後出する可能性があることが指摘できる。

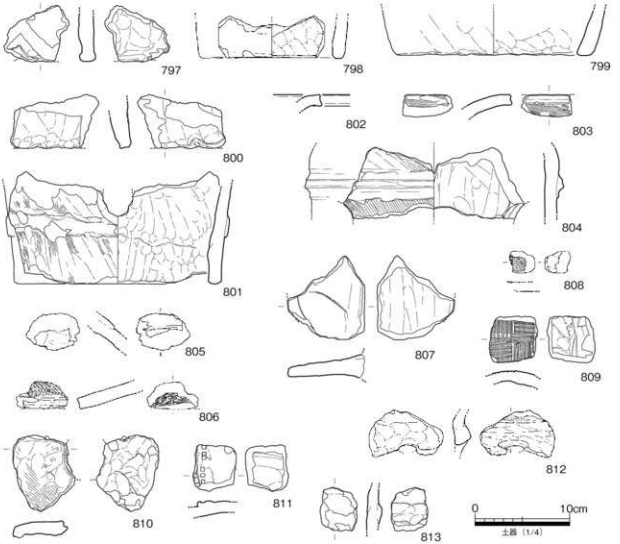
また、破片資料が多いことや1古墳からの出土資料の偏り等の理由により、多くの課題が存在することも明らかとなった。今後の資料の増加や、供伴する形象埴輪等の検討によって、訂正されていくものと考える。次に、円筒埴輪の製作技術のうちB種ヨコハケを素材に、地方における技術導入の具体相について検討することにしよう。

4　B種ヨコハケ導入の具体相

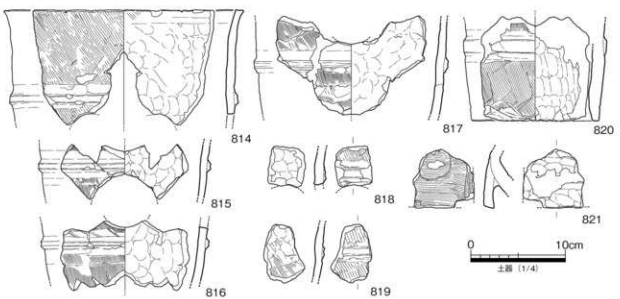
本地域におけるB種ヨコハケは、Ⅲ期1段階の富田茶臼山古墳を嚆矢とし、Ⅲ期2段階の同墳2号陪塚へと継続する。富田茶臼山古墳は、墳長139mの3段築成の前方後円墳で、本地域では最大規模を誇る。後円部1段目テラスには、接するように樹立された円筒埴輪列が出土した。前方部やその他各段での埴輪の樹立状況は不明だが、同様な頻度で囲繞されていたなら、おそらくは1500本を超える円筒埴輪が樹立されていた可能性がある。本地域ではかつてない本数の埴輪を樹立した古墳であ



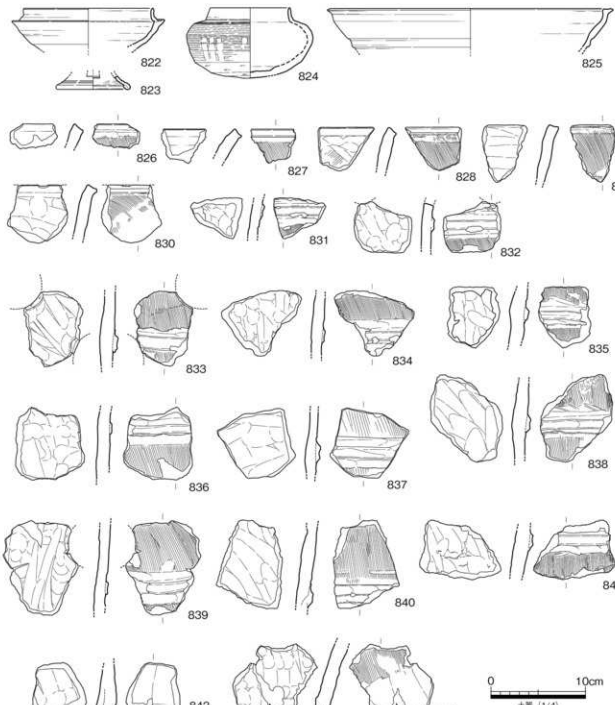
第 132 図　住吉神社古墳出土埴輪実測図 1



第133図　住吉神社古墳出土埴輪実測図2



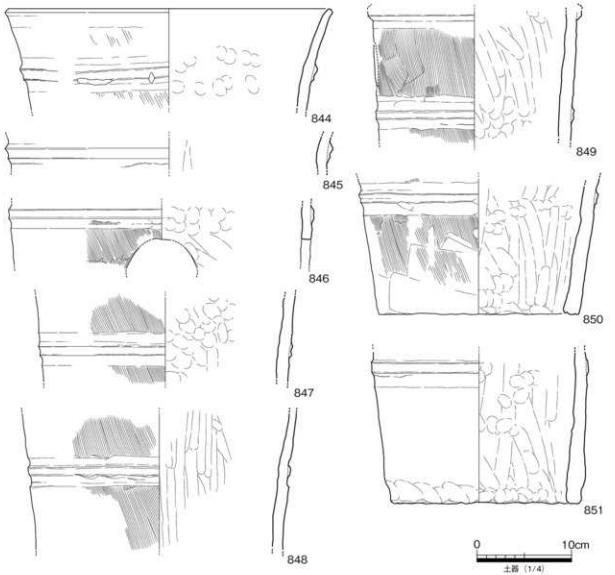
第134図　若宮古墳出土埴輪実測図



第135図　ひさご塚古墳出土須恵器・埴輪実測図1

り、その築造には畿内政権の技術的援助があったことが想像される。B種ヨコハケも、そうした技術援助の一環として導入されたのであろう。

本地域の1期後葉からⅢ期までの器台系埴輪を樹立する古墳は、現在15～20基程度を数える。当該期の古墳総数の4割程度で、今後の調査の進展により、その比率はさらに低下することは十分に予想される。埴輪の樹立を許容された階層はかなり限定されていたのであろうし、そもそも前期から中期にかけての本地域の古墳の築造数の推移からは、古墳そのものを築造する階層が集約されていたことが指摘できる。このような状況下では、埴輪製作に限定した恒常的な工人の編成はほぼ不可能で、在地での安定した製作工房の再生産は期待できない。出土埴輪そのものの実証的検討を今後の課題とはするが、本地域での埴輪生産は、おそらくは専ら畿内の埴輪工人の出向生産（川西1988）に頼らざるをえなかったものと考えられる。快天山古墳の円筒埴輪における、「南河内域からの波及」（松本2010）や



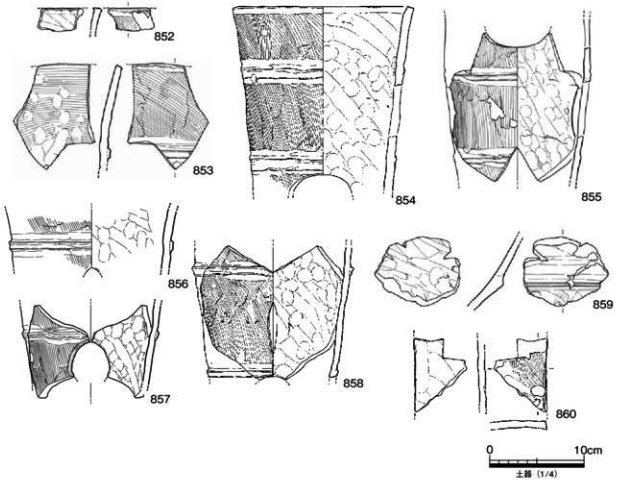
第136図　ひさご塚古墳出土埴輪実測図2

「近畿からの直接的な伝播」（廣瀬2010）といった評価は、工人の系譜を間接的に示唆する。愛媛県相の谷1号墳と大分県亀塚古墳は、奈良県東殿塚古墳の受口状口縁の朝顔形埴輪をベースに、兵庫県龍子三ツ塚1号墳にみられるような擂磨系譜の竹管文装飾を加えた埴輪を共有する。しかし、相の谷1号墳では形象埴輪を欠落するものの、亀塚古墳では船形埴輪などの形象埴輪を伴う。両古墳にみられる埴輪の装備の差異は、出向する工人集団の編成が、個別古墳単位に必要な工人の数や内容が調整された上でなされたことを示していよう（蔵本2012）。

Ⅳ期以降には、穴窯焼成の導入とともに、小規模墳を中心に埴輪樹立墳の築造が増加する。Ⅲ期以前とは状況が一転するが、そのなかでⅣ期1段階の丸山古墳や大塚古墳にみられる、円筒埴輪の様相は興味深い。既述したように、これらの古墳では、2次調整のBc種ヨコハケを突帯貼付前に施す資料が一定数出土している。B種ヨコハケは、2次調整の効率化と装飾的効果を意図して成立した技法と考えられている（一瀬2003）が、これらの古墳では本来の原理は見過ごされ、形だけの模倣に終始している。技術の習得が不完全なまま、埴輪製作に臨んだ工人がいたことは間違いない。

おそらく彼らは、畿内あるいは吉備等の大型古墳の埴輪製作に従事するため、派遣された埴輪工人であったのであろう。再び本貫地へ帰属して埴輪生産に従事したものの、B種ヨコハケに対する本質的な理解が欠落していたため、表面的な模倣が施された埴輪を製作したと考えられる。本期以降、例えば有黒斑の埴輪の存在、別宮古墳群でみられる円筒埴輪規格の継承等、地域色の顕在化や小地域内での技術系譜の確立等の背景に、埴輪製作の在地化の流れを読み取ることができよう。

つまり、Ⅳ期以降の埴輪樹立墳の増加とともに、在地での埴輪工人の編成が進んだ可能性が考えられる。彼らは畿内や吉備等へ上番して技術を習得し、本貫地へ帰属して埴輪生産に従事した。畿内からの工人派遣により臨時に工人集団が編成され、埴輪生産がなされていた、いわば工人派遣型から工人上番型へ、



第137図　長尾八幡旅山出土埴輪実測図

本地域における埴輪樹立墳の増加と連動して、埴輪生産体制にも変換がなされた可能性が考えられる。

5　石見型埴輪

近年では、畿内を中心に、関東から瀬戸内西部にかけて、80道跡以上の出土が知られるようになり、分類や編年に関する研究も進んできた感がある。本道跡からも、複数個体の資料が出土し、これまで分布が希薄であった東部瀬戸内南岸地域での様相について、資料を追加することとなった。以下では、先学の研究に導かれながら、本道跡出土の石見型埴輪の位置付けについて、考察を加えることとしたい。

石見型埴輪については、多くの研究者により分類や編年について、研究が進められ、その原形についても、いくつかの案が提示されている。本来なら原形を特定し、○○形埴輪と呼称すべきであるが、なお検討の必要を認める立場から、石見型埴輪の呼称を用いる。

石見型埴輪には、形象部の構成が4段タイプのものと、3段タイプの2者があることは早くに指摘されていた（河内1999）。3段タイプの最古例は奈良県市尾今田2号墳とされ、4段タイプのそれは大阪府旗塚古墳とされる（河内2007）。両者に大きな時期差を認めることはできず、両タイプは石見型埴輪成立期より併存していた可能性は高いと考えられる。当該期には、両タイプが同一の古墳からは出土しておらず、旗塚は百舌鳥古墳群に所在する全長58ｍの帆立貝形前方後円墳であり、市尾今田2号墳は辺18ｍの方墳である。出土古墳からみれば、4段タイプが格上の位置付けがなされていた可能性も考えられる。なお、静岡県堂山2号墳からは、上記2古墳とほぼ同時期と考えられる石見型埴輪が出土しており、その成立の初期の段階で、地方へ拡散している可能性があることは注目される。

石見型埴輪の分類については、編年作業とからめて、いくつかの案が提示されているが、大きく4段タイプと3段タイプに区分した上で、側辺抉りの有無により、A形とB形に分類したい。側辺抉りについては、かつてその有無が先後関係として考えられてもいた（吉田2005）が、成立の初期段階より両者が併存することから、系統差と捉えるべきものと考える。なお、B形は畿内を中心に、遠江・三河・伊勢・近江・播磨・紀伊・阿波・伊予と導入された古墳数も多く、地域的な広がりを みせるのに対して、A形は畿内以外では美作・備前・讃岐と、出土道跡数も乏しく、地域も限定されるといった相違がある。A形が主流、B形は傍系とでも表現されるが、その差異の要因については今

後の課題としたい。

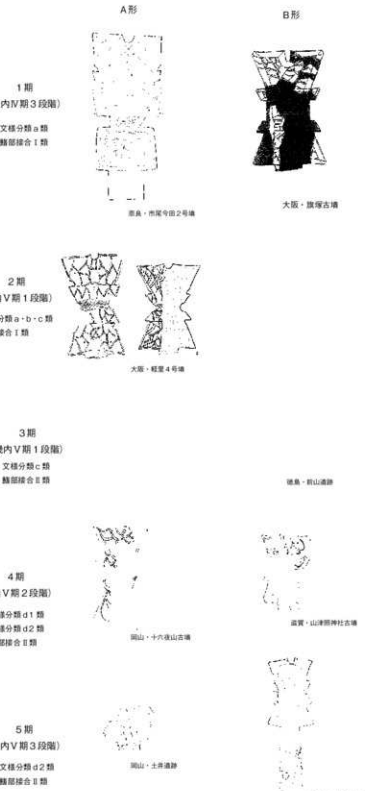
次に編年については、上下段帯の表現方法よりａ～ｃの３手法の存在を指摘した河内氏の研究（河内2007）を支持し、これを文様表現ａ～ｃ類とした上で、さらに段帯の区分表現が消失したもの（つまりは段面・段帯の周縁の沈線による圏線表現の消滅でもある）として、ｄ類を追加する。また、多くの研究者が指摘する、形象部の無文化の方向性も支持し、ｄ類のうち何らかの線刻が施されたものをｄ１類、無文のものをｄ２類として細分する。こうした形象部の文様表現の分類とは別に、形象部鰭部材と円筒部との接合方法を分類項目に追加する。つまり、円筒部の前面に粘土板を接合し、背面に支持材を補填して補強するもの（Ⅰ型）と、主に円筒部の側面に粘土板を接合し、接合部を中心に粘土を補充して補強するもの（Ⅱ型）に分類し、前者から後者への変化を想定する。それは円筒部の個立調整技法の導入ともリンクする。

上記した属性分類を踏まえ、石見型埴輪を第138図に示したように、１～５期の変遷案を提示する。基本的に先学の編年案と大きな変更点はない。Ａ形とＢ形が初期から終期まで併存し、模様表現ｃ類、鰭部接合Ⅱ類の出現する２～３期に大きな変化の画期があり、この段階に広く地方へ拡散することが知られている。仲戸東遺跡出土資料は、文様分類ｄ1類とｄ2類、鰭部接合Ⅱ類であり、４期の資料と考えられる。

さて、徳島県前山遺跡出土の石見型埴輪については、形象部の線刻文様から三島や紀伊との関係が指摘されている（河内2009・西本2015）。近年、近接する田浦遺跡において淡輪技法の可能性のある円筒埴輪が報告（小松島市教委2015）され、本地域と紀伊との関係は５世紀中葉前後にまで遡る可能性も生じ、その要因に興味がもたれるところである。

一方、仲戸東遺跡出土資料はＡ形であり、前山遺跡出土資料とは系統が異なる。Ａ形の資料は、市尾今田２号墳や軽里４号墳のほか、岡山県十六夜山古墳や同土井遺跡２号窒、同前内池１・４号墳等吉備地域に類例が多く、本遺跡出土資料も吉備地域との関係の中でもたらされた可能性が高いと考えられる。

石見型埴輪の地域的展開については、しばしば畿内との関係を示すものとして語られてきた（尾上2000・河内2008a・山内2012）。それは一方で事実ではあろうが、今後は紀伊と阿波、吉備と讃岐といった地域間での情報の共有の可能性も含め、畿内に限定されない検討を進めることが必要であろうし、それは出土した埴輪すべてに共通する課題でもある。



第138図　石見型埴輪編年案

6　まとめ

既述してきたように、仲戸東遺跡埴輪窯は、特定の古墳への埴輪供給を目的とした、短期操業の窯であった可能性が高い。遺跡成立まで埴輪を持たない古墳を築造していた本地域への埴輪窯導入の背景を考察する上で、重要な資料である。

古川の下流、扇状地の扇端に近い位置に、集落遺跡である住屋遺跡が所在する。埴輪窯開窯期には遺跡は成立していたようで、埴輪窯廃絶後も住屋での集落経営は存続するようだ。こうした周辺の集落の動向も、本埴輪窯の経営環境を考える上で重要となるが、正式報告書が未刊であるため、具体的な検討は住屋遺跡報告書の中でなされるものと期待したい。

原間・樋端・神越古墳群は、14基以上の円墳で構成された古墳群で、2基の横穴式石室墳を除くと、いずれも丘陵上に築造された中期から後期初頭の古墳群である。群形成の初期段階の原間6号墳は、径30ｍの円墳で、埋葬施設に朝鮮半島洛東江下流域系の木棺を採用し、朝鮮半島系の三累環頭大刀や刀子転用の鉄、U字形鋤先などが副葬されていた。TK216型式併行期の築造が想定されている。高田氏はその被葬者に、「洛東江下流域から渡ってきた渡来人、もしくは彼らと密接な関わりを有する人物」で、瀬戸内地域に分布するこうした渡来系墓制を採用した古墳の被葬者間で「地域ネットワーク」が形成され、その参与主体は「海上交通の経験を背景として、対外交渉経路の一元的な掌握を目指す王権と積極的に結びつき、先進文化の安定的な受容を目指す中小首長層」であったと評価した（高田2014）。

原間6号墳に続いて築造された原間5号墳では、埋葬施設は箱形木棺となり、副葬品は出土していない。墳丘上から出土した須恵器から、TK208型式併行期の築造が想定されている。5号墳以降は、径10ｍ前後と大きく墳丘規模を縮小し、埋葬施設も箱形木棺、粘土槨、箱式石棺となり、少量の鉄製武器・工具やガラス玉等しか副葬しなくなる。TK23型式併行期からTK47型式併行期、一部MT15型式併行期の築造とされる。原間5号墳を境にその勢力は大きく後退し、地域ネットワークから離脱した可能性が考えられる。

そして群形成の最末期に、仲戸東遺跡の埴輪窯が築窯される。その埴輪には、石見型埴輪や船形埴輪等、在地の埴輪系譜にはない、新たな器種が導入され、鏡内や吉備等の地域からの製作技術の援助をなくしてはその成立は考え難い。仲戸東遺跡の埴輪を樹立した古墳の被葬者は、原間6号墳の被葬者に代わり、新たに王権との関係を構築して、地域ネットワークへ参与した中小首長層と考えられる。

仲戸東遺跡で焼成された埴輪が、どこの古墳に樹立されたのかは明らかとなっていない。その探索は今後の課題である。またそれと共に、今回の整理作業では、仲戸東遺跡の埴輪製作の具体的な様相を出土資料から明らかにすることはできなかった。どれほどの工人集団により経営され、それぞれの工人がどのような埴輪を分担製作したか、重要な作業ではあるが、今後の課題としたい。

補註

1　報告書では、埴輪の出土したSD1001は墓祀遺構とされる。しかし、溝の一部が途切れ陵線状を呈すること、地形の傾斜方向を無視し弧状に配されること、場所により一定しない埋土の堆積状況、出土遺物がほぼ埴輪に限定され、溝内弧側に傾斜して出土していること等より、通常の導・排水路とは考え難く、また無理に埴輪祭祀に限定する必要もないと思われる。したがって古墳周溝の可能性を想定したい。

2　資料所蔵先の尽誠学園には、4条5段に復元された円筒埴輪が展示されているが、3段目は完全に石膏で復元されており、3段目より上の資料と下の資料が同一個体である確証はなく、突帯間隔等からも3条4段である可能性が高い。

3　残念ながら本資料については現在所在不明となっており、実見して観察することがかなわなかった。したがって、以下の記述は過去に調査された資料から判断したものである。

引用・参考文献

一瀬和夫2003「円筒埴輪の外面調整から」『埴輪　－円筒埴輪製作の観察・認識・分析－』埴輪文化財研究会
尾上元規2000「古備の形象埴輪－石見型埴輪を中心に－」『国家形成過程の諸変革』考古学研究会
鎌方正樹・中島和彦・根上直子1995「奈良市秋篠町奈良少年院出土埴輪の研究（上）」『古代文化』第47巻第5号
河内一浩1999「曽田白鳥埴輪窯出土の石見型盾形埴輪」『埴輪論叢』第1号
河内一浩2000「紀伊にみる石見型埴輪の様相」『紀伊考古学研究』第3号
河内一浩2007「イミテーションと祭祀空間」『原始・古代日本の祭祀』同成社
河内一浩2008a「吉備地域における石見型埴輪の伝播と受容」『埴輪研究会誌』第12号
河内一浩2008b「河内における“いわゆる石見型埴輪”の様相　－施文方法からの分析（予察）－」『古代学研究』第180号
河内一浩2009「阿波における石見型埴輪の受容」『一山典還暦記念論集　考古学と地域文化』
川西宏幸1988「円筒埴輪総論」『古墳時代政治史序説』
蔵本晋司2012「四国」『古墳出現と展開の地域相』同成社
高田貫太2014「瀬戸内地域の対朝鮮半島交渉」『古墳時代の日朝関係』吉川弘文館
千賀久1988『大和考古資料目録』第15集
西本和哉2015「徳島県小松島市前山遺跡出土の石見型埴輪」『徳島県埋蔵文化財センター研究紀要　真珠』第11号
埴輪検討会報2003『埴輪論叢』第4号・第5号
廣瀬覚2010「近畿における前期古墳の埴輪」『中国四国前方後円墳研究会第13回研究会「円筒埴輪の導入とそ

の画期」』
藤川智之 1991「徳島県の墳輪に関する一、二の問題」『徳島県埋蔵文化財センター年報』vol. 2
藤川智之 1999「徳島県下の墳輪出土遺跡と祭祀的傾向」『中央構造線断層帯調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　川端遺跡』徳島県埋蔵文化財センター
松本和彦 2010「四国北東部の墳輪の様相」『円筒埴輪の導入とその画期』中国四国前方後円墳研究会
山内英樹 2001「愛媛県出土埴輪の基礎的研究（2）」『紀要愛媛　第2号』
山内英樹 2012「四国西部における古墳時代後期の埴輪」『後期埴輪の特質とその地域的展開』中国四国前方後円墳研究会
吉田野々 2005「石見型の樹立物の原形について」『龍谷大学考古学論集Ⅰ』
立命館大学考古学論集刊行会 2013『原始・古代の船Ⅰ』

報告書等

阿波市教育委員会 2010『土成丸山古墳発掘調査報告書』
大川町教育委員会 1992『大井七つ塚古墳群発掘調査報告書』
岡山県教育委員会 1998『十六夜山古墳・十六夜山遺跡　県立津山高等学校校舎改築に伴う発掘調査』
岡山県教育委員会 2005『土井遺跡・谷の前遺跡・乗運寺跡　主要地方道笹伯長船線（美作岡山道路）道路改築に伴う発掘調査4』
香川県教育委員会 1976『末川古墳調査概報』
香川県教育委員会 1988『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和59～62年度』
香川県教育委員会 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第25冊　中間西井坪遺跡Ⅰ』
香川県教育委員会 1998a『陥穴跡　盛土山古墳』
香川県教育委員会 1998b『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第29冊　龍川五条遺跡Ⅱ・飯野東分山崎南遺跡』
香川県教育委員会 2000『陥道高松王越坂出線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　雄山古墳群』
香川県教育委員会 2002『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊　空港跡地遺跡Ⅴ』
香川県教育委員会 2003『陥道多度津丸亀線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　中東遺跡』
香川県教育委員会 2010『一般国道11号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　別宮北遺跡・別宮北古墳群』
観音寺市教育委員会 1999『丸山古墳』
観音寺市教育委員会 2000『丸山古墳Ⅱ』
観音寺市教育委員会 2004『詳細分布調査概要報告書Ⅲ』
京都大学文学部考古学研究室 1995『琵琶湖周辺の6世紀を探る　平成6年度科学研究費補助金一般研究B調査研究成果報告書』
小松島市教育委員会 2015『新居見遺跡・田浦遺跡発掘調査報告書』
財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1994『蔵single遺跡（1）　四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告4』
財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1995『真蔵谷西山A遺跡　四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告13』
財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1995『川端遺跡　中央構造線断層帯調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2005『勝明寺谷古墳群　四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』
財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2006『尼塚古墳・カニ塚古墳　指定史跡等保存活用事業埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』
財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2010『萩原2号墓発掘調査報告書』
普通寺市教育委員会 1992『史跡有岡古墳群（王墓山古墳）保存整備事業報告書』
高取町教育委員会 1983『高取町文化財調査概報第1冊　市尾今田古墳群』
高松市教育委員会 2010『相作牛塚古墳』
高松市教育委員会 2011『空港跡地遺跡　住宅型有料老人ホームリトモ高松新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
高松市教育委員会 2015『相作馬塚』
天理市教育委員会 1985『岩室池古墳　平等坊・岩室遺跡』
長尾町教育委員会 1991『川上・丸井古墳発掘調査報告書』
羽曳野市遺跡調査 1992『古市大溝（軽里4号墳）発掘調査概報』
三豊市教育委員会 2015『大塚古墳　－平成26年度国庫補助事業報告書－』
綾南町教育委員会 1977『岡の御堂古墳群調査概報』

挿図出典

第2図　国土地理院ウエブサイト（http://maps.gsi.go.jp/）電子地形図25000『讃岐津田』・『三本松』・『引田』をもとに作成
第3図　国土地理院ウエブサイト（http://maps.gsi.go.jp/）数値地図25000（土地条件）を一部改変・転載
第4図　アジア航測株式会社製『東かがわ市都市計画図10』を一部改変・転載
第83図　十河2003図1より転載
第84図　十河2003図2より転載
第138図　岡山県1998 第28図、同2005 第61図、河内2007図6、同2008b図1、同2009図4、京都大学1995 第23図、高取町1983、天理市1985図16、羽曳野市1992図7より一部転載

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	口径	器高	底径	その他		
1	25	SR01	中層	縄文土器	浅鉢	口縁：ナデ・条痕文	口縁：ナデ？	5Y5/1 灰	5Y7/2 灰白	中・多				32.0				1/8未満	
2		SR01	下層	縄文土器	浅鉢	口縁：マメツ	口縁：マメツ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y3/1 黒褐	中・多								1/8未満	
10	25	SR03	下層	縄文土器	浅鉢	体～底部：ケズリ後ミガキ	体～底部：ミガキ・マメツ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・多						5.0		1/8	
12		SR06	下層	縄文土器	深鉢	口縁：ナデ・刻み目突帯1条、体部：ケズリ	口縁～体部：ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR2/1 黒	中・多								1/8未満	
13		SR06	下層	縄文土器	浅鉢	口縁：縄文・沈線2条	口縁：ナデ？マメツ	10YR7/6 明黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多								1/8未満	
14		SR06	下層	縄文土器	浅鉢？	体部：沈線3条・マメツ	体部：マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	中・多								破片	
15		SR06	下層	縄文土器	深鉢	口縁：ナデ	口縁：ナデ・ケズリ？マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/3 淡黄	中・多								1/8未満	
16	25	SR06	下層	縄文土器	深鉢	口縁：ナデ？沈線2条・S字状文	口縁：指オサエ・ナデ？マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄	中・多		細・少						1/8未満	
17		SR06	下層	縄文土器	深鉢？	底部：ケズリ・ナデ	底部：ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	中・多								1/8	
18		SR06	下層	縄文土器	深鉢	口縁：爪型文2、体部：縄文	口縁：爪型文、体部：ハケ・ナデ・ミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	中・多				33.2				1/8未満	
22		SR06	中層	縄文土器	浅鉢	口縁：波状文・マメツ	口縁：ナデ？マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・多								1/8未満	
23		SR06	中層	縄文土器	浅鉢	口縁：マメツ	口縁：マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多								1/8未満	
24		SR06	中層	縄文土器	深鉢	口縁：ナデ？マメツ	口縁：ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・多								1/8未満	
25		SR06	中層	縄文土器	深鉢	口縁：ナデ・押捻突帯1条	口縁：ナデ・沈線1条	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・並								1/8未満	
26		SR06	下層	縄文土器	深鉢	口縁：ナデ・押捻突帯1条、体～底部：ケズリ後ナデ	口縁～底部：ケズリ？後ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	中・多				35.8				2/8	外面煤付着
27	25	SR06	中層	縄文土器	異形土器	口縁～体部：沈線・マメツ	口縁～体部：マメツ	10YR2/8 灰白色	10YR2/8 灰白	中・多								1/8未満	
35	25	SR06	上層	縄文土器	深鉢	口縁：ナデ・押捻？突帯1条、体部：ケズリ	口縁～体部：ミガキ？	7.5YR7/6 橙	10YR3/1 黒褐	中・多								1/8	外面煤付着
36		SR06	上層	縄文土器	深鉢	口縁：ナデ、体部：ケズリ？	口縁～体部：ミガキ？	2.5Y7/2 灰黄	10YR6/2 灰黄褐	中・多								1/8未満	
43		SD02	上層	弥生土器	甕	口縁～頸部：マメツ・押縁2条？	口縁～頸部：マメツ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・多					21.5			1/8未満	
44		SD02	上層	弥生土器	甕	底部：ナデ？マメツ	底部：指オサエ？マメツ	5Y8/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・多					6.0			7/8	
45		SD02	上層	弥生土器	甕	底部：板ナデ？マメツ	底部：ナデ？マメツ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	粗・多					10.1			3/8	
46		SD02	上層	弥生土器	甕	底部：ナデ・板ナデ？マメツ	底部：ナデ・板ナデ？マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/3 淡黄	中・並					9.0			2/8	
47		SD02	上層	弥生土器	壺	底部：ミガキ？マメツ	底部：指オサエ・ナデ？マメツ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・多					10.7			1/8	
48		SD02	上層	弥生土器		底部：マメツ	底部：指オサエ？マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・多					7.9			3/8	
54		SD05		弥生土器	鉢	底部：タタキ後ハケ	底部：指オサエ・ナデ・ハケ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/2 灰黄	中・少					4.0			1/8	
56		SD06	下層	弥生土器	広口壺	口縁：ヨコナデ	口縁：マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	中・並				17.8				1/8	
57		SD06	中層	弥生土器	広口壺	口縁：ヨコナデ？凹線2条、頸部：ヨコナデ？斜縄文	口縁～頸部：ヨコナデ？マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並		細・少		13.1				1/8未満	
58		SD06	下層	弥生土器	広口壺	口縁～頸部：ヨコナデ・刻み目	口縁～頸部：マメツ	7.5YR7/6 橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・少				21.9				1/8未満	
59		SD06	中層	弥生土器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ・マメツ。体部：ナデ？マメツ	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：ケズリ・指オサエ・ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・少								1/8	
60		SD06	下層	弥生土器	甕	口縁：マメツ、体部：ハケ	口縁：ヨコナデ、体部：ハケ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y7/2 灰黄	中・並				15.8				1/8	

第15表　仲戸遺跡土器観察表（1）

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 結晶片岩	計測値（cm） 口径	計測値（cm） 器高	計測値（cm） 底径	計測値（cm） その他	残存	備考
61		SD06	中層	弥生土器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ・マメツ、体部：ナデ？マメツ	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：指オサエ・マメツ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/3浅黄橙	中・並				21.1				1/8未満	
62		SD06	中層	弥生土器	壺	底部：ハケ	底部：マメツ	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/2灰黄褐	中・並						3.4		3/8	
63		SD06	下層	弥生土器	甕	口縁：ヨコナデ？、体部：板ナデ後櫛描沈線7条	口縁～体部：マメツ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・多				17.7				1/8未満	
64		SD06	中層	弥生土器	高杯	口縁：ヨコナデ・凹線2条、杯部：ミガキ	口縁：ヨコナデ、杯部：ミガキ・マメツ	2.5Y6/2灰黄	2.5Y6/2灰黄	中・並		細・並		18.2				1/8未満	高松平野周縁部搬入
65		SD06	中層	弥生土器	広口壺	口頸部：ヨコナデ・凹線3条	口頸部：ヨコナデ？マメツ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/4褐	中・少		細・多				22.1		1/8未満	高松平野周縁部搬入
66		SD06	下層	弥生土器	壺	底部：板ナデ？マメツ	底部：指オサエ・ナデ？マメツ	10YR7/4にぶい黄橙	2.5Y6/2灰黄	中・多						6.0		8/8	
67		SD06	下層	弥生土器	壺	底部：ナデ？マメツ	底部：指オサエ・ハケ	7.5YR7/3にぶい橙	10YR2/1黒	中・並						6.8		8/8	
68		SD06	中層	弥生土器	甕	底部：ハケ	底部：指オサエ・ナデ？マメツ	10YR6/4にぶい黄橙	2.5Y4/1黄灰	中・多						3.8		5/8	
69		SD06	下層	弥生土器	鉢	体～底部：ミガキ、底面：ケズリ後ミガキ	体～底部：ミガキ	10YR6/3にぶい黄橙	2.5Y7/2灰黄	中・並						4.5		8/8	
70		SD06	最下層	弥生土器	鉢	口縁～体部：ヨコナデ・マメツ	口縁～体部：ハケ後ミガキ	2.5Y7/3浅黄	2.5Y6/2灰黄	中・並				22.2				1/8未満	外面焼成時破裂痕
71		SD06	下層	弥生土器	高杯	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	7.5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	中・少	細・並	細・少		20.7				1/8未満	香東川下流域産土器
72		SD06	上層	弥生土器	高杯	脚部：マメツ・沈線4条	脚部：シボリ目・ナデ？マメツ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	中・並								破片	
73		SD07	下層	弥生土器	広口壺	口縁：ヨコナデ・凹線3条、頸部：ハケ	口縁～頸部：ヨコナデ・ナデ・マメツ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	中・並				13.5				1/8未満	
74		SD07	下層	弥生土器	広口壺	口縁：ヨコナデ？マメツ、頸部：ハケ	口縁：マメツ、頸部：指オサエ？マメツ	2.5Y6/4にぶい黄	5YR6/6橙	中・多				13.1				1/8	
75		SD07	下層	弥生土器	長頸壺	口縁～頸部：ヨコナデ後ミガキ	口縁～頸部：指オサエ・ナデ後ハケ	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	中・多				12.4				2/8	
76		SD07	上層	弥生土器	広口壺	体～底部：ハケ後ミガキ？マメツ	体～底部：ハケ後指オサエ・ナデ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	中・少								2/8	
77		SD07	上層	古式土師器	甕	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	中・並				14.8				2/8	外面煤付着
78		SD07	上層	弥生土器	甕	口縁：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁：ヨコナデ、体部：ナデ	10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	細・少	細・多	細・並		14.4				1/8未満	香東川下流域産土器
79		SD07	下層	弥生土器	甕	口縁：ヨコナデ、体部：タタキ後ナデ・マメツ	口縁～体部：ハケ後ナデ	10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	中・並				13.8				2/8	
80		SD07	上層	弥生土器	甕	口縁：ヨコナデ、体部：タタキ	口縁：ヨコナデ？マメツ、体部：ナデ？マメツ	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	細・並				15.8				1/8	庄内甕模倣
81		SD07	上層	弥生土器	甕	口縁：ヨコナデ？マメツ、体部：ハケ・マメツ	口縁：ヨコナデ、体部：指オサエ・マメツ	10YR7/6明黄褐	5YR7/6橙	中・並				17.8				1/8	
82		SD07	下層	弥生土器	甕	底部～底面：ミガキ	底部：ケズリ後ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	2.5Y5/3黄褐	細・並	細・並					6.0		8/8	香東川下流域産土器
83		SD07	下層	弥生土器	甕	底部～底面：ケズリ	底部：ケズリ後一部ナデ	7.5YR3/4暗褐	5Y3/1オリーブ黒	中・多						6.2		8/8	
84		SD07	下層	弥生土器	甕	底部：ハケ・マメツ	底部：ケズリ	2.5Y6/3にぶい黄	2.5Y6/2灰黄	中・多						5.6		1/8	焼成時破裂？
85		SD07	下層	弥生土器	甕	底部：ハケ後マメツ	底部：ケズリ後一部ハケ・ナデ	7.5YR6/4にぶい橙	10YR4/1褐灰	中・並						7.0		2/8	
86		SD07	上層	弥生土器	甕	体～底部：タタキ後板ナデ	体～底部：指オサエ後板ナデ	2.5Y8/4淡黄	2.5Y7/4浅黄	中・並						3.5		8/8	
87		SD07	上層	古式土師器	高杯	口縁：ヨコナデ	口縁：ハケ後ヨコナデ	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	細・少				18.8				1/8	
88		SD07	下層	弥生土器	高杯	口縁：ヨコナデ・凹線2条、杯部：ヨコナデ後分割ミガキ	口縁：ヨコナデ、杯部：ヨコナデ後分割ミガキ？	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	細・並	細・並			26.2				1/8未満	香東川下流域産土器
89		SD07	下層	弥生土器	高杯	脚部：ヨコナデ・ミガキ	脚部：ヨコナデ・ケズリ	2.5Y6/4にぶい黄	2.5Y6/3にぶい黄	中・並						15.8		1/8	
90		SD07	上層	弥生土器	鉢	口縁：ヨコナデ、体部：ハケ？マメツ	口縁：ヨコナデ、体部：ハケ	2.5Y6/4にぶい黄	2.5Y8/2灰白	中・並				31.2				1/8未満	

第16表　仲戸遺跡土器観察表（2）

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	口径	器高	底径	その他		
91		SD07	上層	弥生土器	鉢	口縁：ヨコナデ？マメツ、底部：タタキ後ナデ・マメツ	口縁：ヨコナデ？マメツ、底部：板ナデ	10YR7/8 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	中・並				12.8	5.5	3.4		8/8	
97		包含層Ⅱ		弥生土器	広口壺	口縁～頸部：ヨコナデ・ミガキ？	口縁～頸部：ヨコナデ？マメツ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	粗・並				19.2				2/8	
98		SB04	上層	弥生土器	長頸壺	口縁～頸部：ヨコナデ・マメツ・円線上条・刺突文、体部：マメツ、底部：ミガキ	口縁～頸部：ヨコナデ・指オサエ・マメツ、体部：指オサエ・マメツ、底部：指オサエ後ミガキ・マメツ	2.5Y7/3 浅黄	5Y5/1 灰	中・多				12.5	(28.0)	7.7		2/8	
99		包含層Ⅱ		弥生土器	甕	口縁：ヨコナデ・マメツ	口縁：ハケ後ヨコナデ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	中・並				16.2				1/8	
100		包含層Ⅱ		弥生土器	甕	口縁～体部：タタキ後ハケ	口縁～体部：指オサエ・ナデ後ハケ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	中・並				10.3				1/8	
101		SB04	下層	弥生土器	壺	底部：ミガキ・ヨコナデ？マメツ	底部：ミガキ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y4/1 黄灰	中・多						4.8		1/8	
102		包含層Ⅱ		弥生土器	壺	底部：ナデ？マメツ	底部：板ナデ？マメツ	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	中・多						7.4		3/8	
103		SB04	下層	弥生土器	壺	底部：ナデ・板ナデ？マメツ	底部：マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	中・多						12.0		1/8	
104		SB04	上層	弥生土器	台付鉢	口縁：ヨコナデ？四線3条、受部：ミガキ？マメツ	口縁：ヨコナデ、受部：ハケ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並						27.6		1/8 未満	
105		包含層Ⅱ		弥生土器	高杯？	脚部：ヨコナデ？四線2条	脚部：マメツ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	中・少						11.4		1/8	
106		SB04	下層	縄文土器	浅鉢	口縁：マメツ	口縁：マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y8/2 灰白	中・多								1/8 未満	
107	25	SB04	下層	縄文土器	浅鉢	口縁：縄文・竹管文・沈線	口縁：縄文・ナデ？	2.5Y5/3 黄褐	2.5Y5/3 黄褐	中・多		細・少						1/8 未満	
108		SB04	下層	縄文土器	浅鉢	口縁：ナデ？沈線2条・マメツ	口縁：ナデ？マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白	中・多								1/8 未満	
109		SB04	下層	縄文土器	深鉢？	体部：縄文	体部：ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	中・多								破片	
110		SB04	下層	縄文土器	深鉢？	体部：磨消縄文	体部：ナデ？	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y4/1 黄灰	細・多								破片	
111		SB04	下層	縄文土器	深鉢	体部：縄文・沈線	体部：ナデ？マメツ	10YR5/4 にぶい黄褐	2.5Y4/4 オリーブ褐	中・多								破片	
118		SD01	下層	黒色土器	椀	高台：ヨコナデ	底部：マメツ	7.5Y4/1 灰	7.5Y3/1 オリーブ黒	細・少						8.0		1/8 未満	A類
120		包含層Ⅰ		土師質土器	皿	口縁：回転ナデ？マメツ、底面：回転ヘラ切り・マメツ	口縁～底部：回転ナデ？マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐	中・少				5.7	1.1	5.0		1/8	
121		旧耕土層		白磁	皿	口縁：施釉	口縁：施釉	釉：5Y8/1 灰白	胎：5Y7/1 灰白					13.6				1/8 未満	中国・景徳鎮窯系白磁
122		包含層Ⅰ		青磁	碗	底部～高台：施釉、高台内：露胎	底部：施釉・印花文	釉：2.5GY6/1 オリーブ灰	胎：N8/ 灰白							5.7		8/8	中国・龍泉窯系青磁
123		旧耕土層		土師質土器	鍋	口縁～体部：ヨコナデ・ナデ	口縁：ヨコナデ？マメツ、体部：板ナデ？マメツ	10YR8/2 灰白	10YR8/4 浅黄橙	中・多								1/8 未満	
124		旧耕土層		土師質土器	足釜	口縁：ヨコナデ、体部：指オサエ・ナデ	口縁～体部：板ナデ？マメツ	2.5Y8/3 淡黄	10YR7/4 にぶい黄橙	中・並								1/8 未満	
125		包含層Ⅰ		土師質土器	足釜	脚部：ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙		中・並								破片	

第17表　仲戸遺跡土器観察表（3）

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	調整	色調	焼成	胎土			計測値（cm・g）					残存	備考
								石英・長石	角閃石	雲母	長	幅・長径	厚・短径	孔径	重量		
3		SB01	下層	焼土塊		5YR7/4 にぶい橙・10YR7/2 にぶい黄橙・2.5Y5/1 黄灰	軟	細・少			6.0	8.6	3.4				
92	25	SD07	下層	土錘	ナデ	2.5Y6/3 にぶい黄	良好	中・並			6.0	2.8	2.3	0.7	47.75	完存	

第18表　仲戸遺跡土製品観察表

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	計測値（cm・g）				石材	残存	備考
					現存長	最大幅	最大厚	重量			
4	26	SR02	上層	石鏃	2.8	1.5	0.3	0.91	サヌカイト	先端折損	凹基式
5	26	SR02	下層	スクレイパー	10.0	3.5	0.8	28.23	サヌカイト		
6	27	SR02	下層	楔形石器	5.4	6.4	1.3	34.52	サヌカイト		
7	27	SR01	下層	2次加工のある剥片	8.5	4.3	0.75	22.93	サヌカイト		
8	27	SR02	下層	石核	10.0	7.1	2.7	206.65	サヌカイト		
9	28	SR02	上層	叩石	10.9	11.3	7.7	1049.35	デイサイト	一部残存	
11	26	SR03	下層	石鏃	1.15	1.5	0.2	0.37	サヌカイト	先端折損	凹基式、未成品？
19	28	SR06	下層	叩石	12.0	8.2	5.2	809.45	ランプロファイア	完存	
28	26	SR06	中層	石鏃	1.95	1.6	0.3	0.84	サヌカイト	完存	凹基式・未成品？
29	26	SR06	中層	石鏃	2.7	1.4	0.3	0.92	サヌカイト	完存	平基式
30	26	SR06	中層	石匙	5.0	2.65	0.6	7.38	サヌカイト	下半折損	縦長
31	27	SR06	中層	楔形石器	2.85	2.7	1.0	6.13	サヌカイト		
32	27	SR06	中層	石核	7.4	7.2	0.9	50.96	サヌカイト		
33	26	SR06	中層	スクレイパー	5.5	3.65	0.6	13.27	サヌカイト		
34	26	SR06	中層	スクレイパー	7.4	5.6	1.3	33.84	サヌカイト	ほぼ完存	
37	26	SR06	上層	石鏃	1.9	1.8	0.35	0.57	サヌカイト	先端折損	凹基式
38	26	SR06	上層	石鏃	3.1	1.8	0.3	1.18	サヌカイト	一部折損	凹基式
39	27	SR06	上層	石錐？	7.3	3.8	1.0	33.98	紅簾石石英片岩	完存	
40	27	SR06	上層	石錐？	9.3	5.0	0.7	53.59	点紋流紋岩	完存	
41	28	SR06	上層	叩石	15.5	7.6	3.5	586.07	砂岩	一部欠損	
49	26	SD02	上層	石鏃	2.1	1.5	0.4	1.15	サヌカイト	完存	平基式
50	26	SD02	下層	石鏃	2.15	1.8	0.4	1.50	サヌカイト	先端折損	平基式
51	26	SD04	下層	有舌尖頭器	4.5	1.5	0.5	2.70	サヌカイト	先端折損	
52	28	SD02	上層	砥石	7.7	8.6	4.2	318.03	砂岩	一部残存	
55	26	SD05	上層	削器	6.0	2.65	0.9	12.24	サヌカイト		
93	26	SD07	上層	石鏃	2.6	1.55	0.3	1.24	サヌカイト	完存	凹基式
94	26	SD07	下層	石鏃	1.9	2.5	0.4	2.50	サヌカイト	上半折損	
95	26	SD07	下層	石錐	5.7	3.2	1.0	28.30	サヌカイト		楔形石器転用
96	28	SD07	上層	片刃石斧	2.3	2.6	0.8	5.55	珪質泥岩	一部残存	
112	26	SR04	下層	石鏃	1.9	1.15	0.25	0.40	サヌカイト	基部折損	凹基式
113	26	SR04	上層	石鏃	2.2	1.25	0.2	0.42	サヌカイト	一部折損	凹基式
114	26	SR04	包含層Ⅱ	石鏃	2.1	1.2	0.3	0.60	サヌカイト	一部折損	
115	26	SR04	上層	石鏃	2.7	1.35	0.35	1.16	サヌカイト	完存	未成品
116	26	SR04	下層	石鏃	2.35	1.6	0.42	1.33	サヌカイト	完存	凹基式、表面磨滅
117	26	SR04	下層	石鏃	3.5	1.6	0.4	2.53	サヌカイト	完存	凸基式
119		SD01	下層	楔形石器	5.2	3.4	0.7	15.43	サヌカイト		
126	26	包含層Ⅰ		石鏃	2.1	0.95	0.22	0.41	サヌカイト	下端折損	凹基式
127	26	包含層		石鏃	3.0	1.0	0.45	1.40	サヌカイト	完存	平基式
128	27	包含層Ⅰ？		楔形石器	3.0	1.4	0.95	4.93	サヌカイト		
129	27	包含層Ⅱ		石錐？	5.5	3.8	0.9	27.30	紅簾石石英片岩	完存	
130	28	包含層Ⅰ？		叩石	11.5	4.6	4.4	418.53	砂岩	完存	

第 19 表　仲戸遺跡石器観察表

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	計測値（cm）			樹種	木取り	残存	備考
					現存長	現存幅	最大厚				
20		SR06	下層	板材	32.4	2.9	0.7	ヒノキ属	柾目	上下端折損	
21	28	SR06	下層	板材	25.9	4.0	1.0	ヒノキ属	板目	右半部折損	
42		SR06	上層	板材	95.0	6.8	2.0	カヤ	柾目	一部折損	寄食跡著
53		SD02	下層	杭	70.8	7.2	7.8	コナラ属クヌギ節	芯持ち	上端折損	

第 20 表　仲戸遺跡木器観察表

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	口径	器高	底径	その他		
1		SB01 (SP02)		土師器	高杯	脚部：ハケ後ナデ	脚部：ナデ・シボリ目	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	細・少								4/8	
3		SK03		土師器	小型丸底土器	口縁～体部：指オサエ・ナデ？マメツ	口縁部：ナデ、体部：シボリ目・指オサエ・ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	7.5YR8/3 浅黄橙	細・少								1/8	
4		SK03		弥生土器	高杯？	脚部：ハケ後ミガキ、脚端部：ヨコナデ	脚部：板ナデ、脚端部：ヨコナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・少								1/8	
5		SK03		土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ・マメツ	口縁部：ヨコナデ、頸部：指オサエ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・少				14.1				1/8	
6		SK03		須恵器	甕	口縁部：回転ナデ・平行タタキ後カキメ、体部：回転ナデ	口縁～体部：回転ナデ	N4/ 灰	N6/ 灰	中・少				18.8				6/8	
9		SK05		土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ？マメツ	口縁～頸部：ヨコナデ？マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・少				14.0				1/8	口縁端部に煤付着
10		SK05		土師器	甕	口縁部：ヨコナデ？マメツ	口縁部：ヨコナデ？マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・並				13.1				1/8 未満	
11		SK04		土師器	甕	口縁～頸部：マメツ・ハクリ	口縁～頸部：マメツ・ハクリ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並				15.2				2/8	
16		SK11		土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ、体～底部：ハケ	口縁～頸部：ヨコナデ、体～底部：指オサエ・ナデ	2.5Y7/3 浅黄	10YR7/4 にぶい黄橙	中・少				15.7	28.9			4/8	SK28 より同一個体出土、体～底部外面煤付着
17		SK12		弥生土器	鉢	口縁～体部：ヨコナデ？マメツ	口縁～体部：マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	中・少				19.5				1/8 未満	
18		SK11		弥生土器	高杯	脚部：ヨコナデ？マメツ・円孔2条	脚部：ヨコナデ？マメツ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/3 にぶい黄	中・並						13.0		1/8	
20		SK20		土師器	甕	口縁～体部：マメツ	口縁部：マメツ、体部：ハケ・マメツ	10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	粗・少				18.4				1/8 未満	
21		SK20		土師器	甕	口縁～体部：マメツ	口縁部：マメツ、体部：指オサエ・マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・並				15.5				2/8	
22		SK20		土師器	鉢	口縁～体部：ハクリ	口縁～体部：ハクリ	5YR8/4 淡橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・多				25.6				1/8 未満	SK21 より同一個体出土
23		SK23		土師器	小型丸底土器	口縁部：ヨコナデ、体部：ナナメハケ・ナデ	口縁部：ヨコナデ、体部：指オサエ・ナデ	10YR8/2 灰白	10YR6/1 褐灰	中・並				10.6				1/8	
24		SK24		土師器	甕	ヨコナデ？マメツ	ヨコナデ？マメツ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	中・多				13.9				1/8 未満	
25		SK24		土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ？マメツ	口縁部：ヨコナデ？マメツ、頸部：指オサエ？マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR5/1 褐灰	中・並				14.9				1/8 未満	
26		SK24		土師器	甕	ヨコナデ？マメツ	口縁部：ヨコナデ？マメツ、体部：指オサエ？マメツ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	中・並				12.9				2/8	
29		SK27		土師器	小型丸底土器	口縁～頸部：マメツ・ハクリ	口縁～頸部：マメツ・ハクリ	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR8/3 浅黄橙	中・少				11.6				2/8	
31		SK28		土師器	鉢	体部：板ナデ？マメツ、底部：ナデ？マメツ	体～底部：ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・少						4.2		5/8	
32		SK28		弥生土器	甕	底部：マメツ	底部：マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙	2.5Y8/2 灰白	中・多						5.4		2/8	
34		SK29		土師器	二重口縁壺	頸部：ヨコナデ	頸部：指オサエ？マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	中・多								1/8	SK28 より同一個体出土
35		SK29		土師器	鉢	口縁～頸部：ヨコナデ・ハクリ、体部：ハケ後ナデ	口縁～頸部：ヨコナデ・ハクリ、体部：ハケ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	中・多				15.4				2/8	
36		SK30		土師器	甕	口縁部：ハクリ	口縁部：ハクリ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・並				18.4				1/8	
37	53	SK30		土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ、体～底部：板ナデ？マメツ	口縁部：ヨコナデ、体～底部：指オサエ・ナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並				17.8	30.7			4/8	体部下半煤付着

第 21 表　仲戸東遺跡土器観察表（1）

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	口径	器高	底径	その他		
38	53	SK30		土師器	椀	口縁～頸部：指オサエ後ヨコナデ、体～底部：指オサエ後ハケ	口縁部：ヨコナデ？マメツ、体～底部：ケズリ後一部ハケ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・少				17.8	18.8			8/8	口縁部内面炭化物付着、SK28 より同一個体出土
42		SK31		土師器	高杯	杯部：マメツ、脚柱部：メントリ？マメツ、脚裾部：ヨコナデ？マメツ	杯部：マメツ、脚柱部：シボリ目？マメツ、脚裾部：マメツ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	中・少						10.3		4/8	SK32 より同一個体出土
43		SK31		弥生土器	広口壺	頸部：突帯貼付後刻み目	頸部：指オサエ・ナデ？マメツ	7.5YR6/6 橙	2.5Y7/3 浅黄	中・並								1/8	
44		SK33		須恵器	皿	口縁部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	N8/ 灰白	N7/ 灰白	細・少				17.9				1/8 未満	
45		SK33		須恵器	杯	高台：ヨコナデ、高台内：回転ヘラ切り後ナデ？	底部：回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	中・少						12.0		2/8	
46		SK33		須恵器	杯	高台：ヨコナデ	底部：回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	中・少						9.3		1/8	
52		SD01		土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ、体～底部：板オデ・ハケ後ナデ	口縁～頸部：ヨコナデ、体～底部：板オデ・ハケ後ナデ	10YR7/6 明黄褐	7.5YR7/6 橙	中・少				7.1				2/8	
53		SD01		土師器	小型丸底土器	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：指オサエ・ナデ	口縁部：ヨコナデ、体部：板オデ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	粗・少				9.8				1/8	
54		SD01		土師器	甕	口縁部：ヨコナデ？指オサエ・マメツ	口縁部：ヨコナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	細・少				14.3				1/8 未満	
55		SD01		土師器	甕	口縁～頸部：ハケ後ヨコナデ、体部：板オデ	口縁部：ヨコナデ、頸部：シボリ目・ナデ、体部：ケズリ後板ナデ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・少				13.9				1/8	体部外面煤或時破裂痕
56		SR01		須恵器	短頸壺？	口縁部：回転ナデ？自然釉付着	口縁部：回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	N7/ 灰白	細・少				14.5				1/8 未満	
57		SR01		須恵器	杯身	底部：回転ナデ、高台内：ヨコナデ	底部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	細・少						8.1		1/8	
58		SR01		須恵器	高杯	杯～脚部：回転ナデ	杯部：回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	細・少								4/8	
59		SR02	下層	弥生土器	広口壺	口縁部：ヨコナデ？凹線２条、マメツ	口縁部：ヨコナデ？ヘラ描斜線文、マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄	中・並			中・少	23.3				1/8	阿波搬入
60		SR02	下層	弥生土器	甕	口縁～頸部：縦ハケ後ヨコナデ	口縁部：横ハケ、頸部：指オサエ・ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	細・多				14.4				1/8 未満	
61		SR02	下層	弥生土器	甕	口縁～体部：ヨコナデ？マメツ	口縁～頸部：ヨコナデ？マメツ、体部：指オサエ・ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	中・並				16.6				1/8	下川津B類褒模倣
62		SR02	下層	弥生土器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ？マメツ	口縁～頸部：ヨコナデ？マメツ	2.5Y7/2 灰黄	10YR8/2 灰白	中・並				20.4				1/8 未満	下川津B類褒模倣
63	53	SR02	下層	弥生土器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ、体～底部：ハケ・ナデ	口縁～頸部：ヨコナデ、体～底部：ハケ後指オサエ・ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y4/1 黄灰	中・並				8.9	14.1			7/8	
64		SR02	下層	土師器	甕	口縁～体部：ヨコナデ	口縁部：横板オデ後ヨコナデ、体部：ケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並				14.4				1/8	外面に煤付着
65		SR02	下層	土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ヨコハケ後ヨコナデ、体部：ヨコハケ後指オサエ・ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	中・少				19.0				1/8	内外面に炭化物付着
66	53	SR02	下層	土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ヨコナデ、体～底部：ハケ・指オサエ・ナデ	2.5Y6/2 灰黄	10YR7/3 にぶい黄橙	中・少				14.4	24.6			2/8	
67	54	SR02	下層	弥生土器	鉢	口縁～底部：ナデ	口縁部：ヨコナデ、体～底部：指オサエ・ナデ後ヘラナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並				11.3				6/8	底部外面煤或時破裂痕
68		SR02	下層	弥生土器	鉢	口縁～体部：指オサエ・ナデ？マメツ	口縁部：ヨコナデ？マメツ、体部：ミガキ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	細・少				11.8				1/8	
69		SR02	下層	弥生土器	鉢	口縁～底部：指オサエ・ナデ？マメツ	口縁～体部：ナデ？マメツ、底部：指オサエ	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR5/1 褐灰	中・並				15.1	7.6			3/8	
70		SR02	下層	弥生土器	高杯	杯～脚部：ミガキ	杯部：マメツ、脚部：シボリ目・マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・多								2/8	

第 22 表　仲戸東遺跡土器観察表（2）

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	その他	口径	器高	底径		
71		SI802	下層	弥生土器	台付鉢	脚部：マメツ・凹線２条	脚部：指オサエ・マメツ	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白	中・並							14.2	1/8	
74		SI803	下層	弥生土器	壺	底部：板ナデ？マメツ，底面：ナデ？	底部：マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並							7.0	2/8	
75		SI803	下層	土師器	壺	口縁部：横ハケ後ナデ	口縁部：ヨコナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	細・並					12.5			2/8	
76		SI803	中層（灰層）	土師器	壺	口縁～頸部：ヨコナデ，体部：ハケ後一部ナデ	口縁～頸部：ヨコナデ，体部：指オサエ・ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・少					11.4			8/8	
77		SI803	下層	土師器	杯	口縁：ヨコナデ，体～底部：ミガキ	口縁：ヨコナデ，体～底部：ヨコナデ後放射状暗文	2.5Y5/3 黄褐色	2.5Y5/3 黄褐色	中・少					14.7	5.9		2/8	
78		SI803	下層	土師器	杯	口縁部：ヨコナデ，体～底部：指オサエ・ナデ	口縁～底部：ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・少					14.8	4.7		2/8	
79		SI804	下層	土師器	杯	口縁：ヨコナデ，体部：ミガキ	口縁～体部：ヨコナデ後放射状暗文	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	細・少					10.5			1/8	
80		SI803	下層	土師器	高杯	杯部：ヨコナデ	杯部：ヨコナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	細・少					12.8			1/8	
81		SI803	上層	土師器	壺	口縁～頸部：ヨコナデ・沈線１，体部：ハケ	口縁：ハケ，体部：ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並					23.9			1/8	
82		SI803	中層（灰層）	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ，底部：回転ケズリ	口縁～底部：回転ナデ	N7/ 灰白	5Y7/1 灰白	細・少					12.1			1/8	
83		SI803	下層	須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	7.5Y6/1 灰	7.5Y7/1 灰白	細・少					11.1			1/8未満	
84	54	SI803	下層	須恵器	杯蓋	口縁～体部：回転ナデ，天井部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～天井部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	細・少					10.8	3.8		2/8	
85		SI803	下層	須恵器	杯蓋	口縁～体部：回転ナデ，天井部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～天井部：回転ナデ	2.5Y8/3 淡黄	5Y4/1 灰	中・少					12.4	4.2		2/8	
86		SI803	下層	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ	口縁～体部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	細・少					9.2			1/8	
87	54	SI803	下層	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ，底部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	細・少					9.2	2.9		7/8	
88	54	SI803	上層	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ，底部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	細・少					9.7	3.5		7/8	
89		SI803	下層	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ・沈線１条，底部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	5Y5/1 灰	5Y6/1 灰	細・少					9.1	3.7		1/8	
90		SI803	下層	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ，底部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	N7/ 灰白	5Y6/1 灰	中・少					11.6	3.1	6.2	4/8	
91		SI803	中層（灰層）	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ	口縁～体部：回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰	中・少					11.0			1/8未満	
92		SI803	下層	須恵器	高杯	脚部：回転ナデ	脚部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	細・少							9.6	1/8	
93		SI803	下層	須恵器	高杯	脚部：回転ナデ	脚部：回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白	細・少								1/8	
94		SI803	下層	須恵器	高杯	脚部：回転ナデ，沈線１条	脚部：シボリ目・回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	細・少							9.5	6/8	
95		SI803	上層	須恵器	鉢	口縁～体部：回転ナデ	口縁～体部：回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	細・少					15.8			1/8未満	
96		SI803	下層	須恵器	横瓶	口縁～頸部：回転ナデ，体部：格子タタキ後カキメ	口縁～頸部：回転ナデ，体部：同心円当て具	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・少					11.3			4/8	
142		SD02	上層	土師器	杯	口縁～体部：マメツ	口縁～体部：ヨコナデ後斜放射状暗文	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・少					9.0			2/8	
143		SD02	上層	土師器	杯	口縁～底部：ヨコナデ？マメツ	口縁～底部：ヨコナデ後斜放射状暗文	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・少					9.2	7.2		1/8	
144		SD02	下層	土師器	杯	口縁～体部：ヨコナデ後ミガキ	口縁～体部：ヨコナデ・ハケ後ミガキ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	細・並					13.1			1/8未満	
145		SD02	上層	土師器	鉢	口縁～底部：ヨコナデ後ミガキ	口縁～底部：ヨコナデ後ミガキ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	細・並					15.0			1/8未満	
146		SD02	下層	土師器	高杯	杯部：ヨコナデ	杯部：ヨコナデ，脚部：シボリ目	10YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	中・並					13.8			7/8	

第 23 表　仲戸東遺跡土器観察表（3）

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	口径	器高	底径	その他		
147		SD02	上層	土師器	高杯	脚部：ナデ？マメツ	脚柱部：シボリ目・ナデ？脚裾部：板ナデ	5YR8/1 灰白	5YR8/1 灰白	細・少								8/8	
148		SD02	下層	土師器	高杯	脚部：マメツ	脚柱部：シボリ目・ナデ？脚裾部：マメツ	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	細・少								7/8	
149		SD02	下層	土師器	高杯	脚部：メントリ後ナデ、脚裾部：ヨコナデ	脚部：板ナデ後ナデ、脚裾部：ヨコナデ	5YR8/3 淡橙	10YR8/2 灰白	細・多					9.3			4/8	
150		SD02	下層	古式土師器	広口壺	口縁～頸部：ヨコナデ・マメツ	口縁部：ハケ後ヨコナデ・マメツ、頸部：ケズリ後ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・並				23.3				1/8 未満	
151		SD02	下層	古式土師器	二重口縁壺	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：ハケ後ミガキ	口縁部：ヨコナデ？マメツ、体部：指オサエ・マメツ	7.5YR8/4 浅黄橙	5YR7/6 橙	中・並			中・並	21.9				3/8	阿波搬入
152		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ヨコナデ	口縁部：ハケ、体部：ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR3/1 黒褐	細・少				14.8				1/8	
153		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ハケ後ナデ、体部：ナデ	7.5YR6/4 にぶい	10YR7/2 にぶい黄	中・少				14.6				1/8	体部外面煤付着
154		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ヨコナデ	口縁部：ヨコナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	中・並				17.4				1/8 未満	
155		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ハケ後ヨコナデ	口縁部：ハケ	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y8/2 灰白	細・少				15.3				1/8	
156		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ハケ後ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ヨコナデ、体部：ナデ・ケズリ	10YR7/2 にぶい黄橙	10UR7/2 にぶい黄橙	中・少				13.6				3/8	
157		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ヨコナデ？マメツ	口縁部：ヨコナデ？マメツ	10YR8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	中・多				16.8				1/8 未満	
158		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ヨコナデ、体部：ケズリ後ナデ・指オサエ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y5/2 暗灰黄	細・並				14.5				1/8	内面炭化物付着
159		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ハケ後ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：マメツ、体部：ナデ？	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐	中・並				17.0				1/8 未満	
160		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ハケ・ナデ、体部：板ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	中・少				14.7				1/8	破断面にも煤付着
161		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ハケ後ヨコナデ、体部：ハケ？後ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並				15.4				1/8	体部外面煤付着
162		SD02	上層	土師器	壺	口縁部：ハケ後ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ハケ後ヨコナデ、体部：板ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並				22.9				1/8	体部内面炭化物付着
163		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ハケ後ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ヨコナデ、体部：板ナデ後指オサエ・ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/1 黄灰	中・少	細・少			18.1				2/8	
164		SD02	下層	土師器	壺	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁～頸部：ハケ後ヨコナデ、体部：ハケ後指オサエ・ナデ	2.5Y6/4 にぶい黄	10YR5/4 にぶい黄褐	中・少				21.1				8/8	内面炭化物付着
165		SD02	下層	土師器	壺	口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ハケ、体部：板ナデ・ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	中・少				30.3				2/8	
166		SD02	上層	土師器	壺	把手：指オサエ・ナデ		10YR8/2 灰白		細・並								破片	
167		SD02	下層	土師器	壺	把手：指オサエ・ナデ		10YR8/2 灰白		中・少								破片	
168		SD02	上層	土師器	壺	把手：ナデ・ハケ目	把手：ナデ	2.5Y8/2 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並								破片	
169		SD02	下層	弥生土器	鉢	口縁部：ヨコナデ、体～底部：指オサエ・ナデ？マメツ	口縁部：ヨコナデ、体～底部：板ナデ後ミガキ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・並				14.6	4.4			1/8	
170		SD02	下層	土師器	杯	口縁～体部：ミガキ	口縁～体部：ヨコナデ後放射状暗文・螺旋状暗文	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並	細・少				19.0			1/8	
171		SD02	下層	土師器	杯	口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁～体部：ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・少				16.1				1/8 未満	
172		SD02	下層	土師器	鉢	口縁部：ヨコナデ、体部：指オサエ・ナデ後ハケ	口縁部：ヨコナデ、体部：ナデ後ミガキ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	細・並				19.6				1/8 未満	
173		SD02	下層	土師器	鍋	口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ後指オサエ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並	細・少			32.9				1/8	
174		SD02	上層	土師器	甑	底部：ヨコナデ・沈線1条、体部：ハケ後指オサエ	底部：ヨコナデ、体部：マメツ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	中・並						13.1		1/8 未満	破断面にも煤付着

第 24 表　仲戸東遺跡土器観察表（4）

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	口径	器高	底径	その他		
175		SD02	下層	土師器	鉢	口縁部：ヨコナデ・沈線1条、体部：指オサエ・ハケ	口縁部：ヨコナデ、体部：板ナデ？	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・少				20.9				1/8	
176		SD02	下層	須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ、天井部：回転ナデ・回転ヘラ切り後ナデ	口縁～天井部：回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	細・少				8.4		3.5		5/8	焼け歪み著
177	54	SD02	下層	須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ、天井部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～天井部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	細・少				10.0	3.4			7/8	
178		SD02	下層	須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	細・少				11.2				1/8	
179	54	SD02	下層	須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ、天井部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～天井部：回転ナデ	N7/ 灰白	N3/ 暗灰	細・少				11.2	3.7			4/8	
180		SD02	下層	須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ、天井部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～天井部：回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰	細・並				12.2				1/8	
181		SD02	上層	須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ・沈線1条	口縁部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	中・少				13.6				1/8	
182		SD02		須恵器	杯蓋	口縁～体部：回転ナデ、天井部：回転ヘラケズリ	口縁～天井部：回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	細・少				8.5				1/8	
183		SD02	下層	須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ、天井部：回転ケズリ後ナデ	口縁～天井部：回転ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/1 灰白	細・少				14.4				1/8	
184		SD02	下層	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ、底部：回転ケズリ後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白	中・少				11.5				1/8	
185		SD02	上層	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ、底部：回転ヘラ切り後ナデ？	口縁～底部：回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白	中・少				11.7				1/8未満	
186		SD02	上層	須恵器	杯身	口縁部：回転ナデ、底部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	2.5Y5/1 黄灰	N6/ 灰	細・少				10.4				1/8	
187		SD02	上層	須恵器	杯身	口縁部：回転ナデ、底部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	中・並				9.8				1/8	
188		SD02	上層	須恵器	杯身	口縁部：回転ナデ、底部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	細・少				9.0				1/8	
189		SD02	上層	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ、底部：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	細・少				8.6		5.6		1/8未満	
190		SD02	下層	須恵器	杯身	口縁～底部：回転ナデ、底面：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	細・少				10.1	3.3	6.1		1/8	
191	54	SD02	下層	須恵器	杯身	口縁～底部：回転ナデ、底面：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白	細・少				11.0	3.5	8.1		8/8	
192	54	SD02	下層	須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ、高台：ヨコナデ、高台内：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	10YR7/1 灰白	N8/ 灰白	中・少				12.0	4.5	7.9		7/8	
193	54	SD02	下層	須恵器	皿	口縁部：回転ナデ、底面：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	5Y7/1 灰白	N7/ 灰白	中・少				13.2	3.0	8.9		7/8	火襷
194		SD02	上層	須恵器	杯蓋	天井部：回転ナデ	天井部：回転ナデ	N8/1 灰白	N8/1 灰白	中・並								3/8	
195		SD02	下層	須恵器	高杯	口縁部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	細・少				14.4				2/8	
196		SD02	下層	須恵器	高杯	杯部：回転ナデ	杯部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	中・少				13.4				1/8	
197		SD02	下層	須恵器	高杯	口縁部：回転ナデ、杯部下端：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～杯部底部：回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白	細・少				11.9				3/8	
198		SD02	下層	須恵器	高杯	口縁～杯部：回転ナデ・沈線1条	口縁～杯部：回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	細・少				12.2				2/8	
199		SD02	下層	須恵器	高杯	脚部：回転ナデ・沈線1条	脚部：シボリ目・回転ナデ	N8/ 灰白	N7/ 灰白	細・少								破片	
200		SD02	上層	須恵器	高杯	脚部：回転ナデ・沈線1条	脚部：ナデ・回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	細・少								破片	
201		SD02	下層	須恵器	高杯	脚部：回転ナデ・沈線1条	脚部：シボリ目・回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	N5/ 灰	細・少								破片	
202		SD02	下層	須恵器	高杯	脚部：回転ナデ	脚部：シボリ目・回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰	細・少						9.1		2/8	
203		SD02	下層	須恵器	高杯	脚部：回転ナデ	脚部：シボリ目・回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	中・少						8.9		8/8	
204		SD02	上層	須恵器	高杯	脚部：回転ナデ・沈線1条	脚部：シボリ目・回転ナデ	N7/ 灰白	N4/ 灰	細・少						10.0		3/8	

第25表　仲戸東遺跡土器観察表（5）

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	口径	器高	底径	その他		
205		SD02	下層	須恵器	高杯	杯部：回転ナデ・回転ヘラ切り後回転ナデ、脚部：回転ナデ	杯部：回転ナデ、脚部：シボリ目・回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	中・少						7.9		8/8	
206	53	SD02	下層	須恵器	高杯	杯部：回転ナデ、下半回転ヘラ切り後回転ナデ、脚部：回転ナデ	杯部：回転ナデ、脚部：ナデ・回転ナデ	5B5/1 青灰	5B6/1 青灰	中・並				11.1	8.7	8.3		8/8	焼歪み著
207		SD02	上層	須恵器	長頸壺	口縁～頸部：回転ナデ・沈線２条	口縁～頸部：回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	細・少				8.0				1/8	
208		SD02	上層	須恵器	甕	体部：回転ナデ・沈線１条、底部：ケズリ	体～底部：シボリ目・回転ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰	細・少								破片	
209		SD02	下層	須恵器	平瓶	口縁～頸部：回転ナデ	口縁～頸部：回転ナデ	5Y7/1 灰白	N7/ 灰白	細・少				6.6				3/8	
210		SD02	下層	須恵器	平瓶	口縁部：回転ナデ、沈線１条	口縁部：回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	細・並				7.0				7/8	
211		SD02	上層	須恵器	短頸壺？	底部：回転ナデ、底面：回転ヘラ切り後ナデ	底部：回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰	中・少						6.4		1/8	
212		SD02	下層	須恵器	壺	口縁～頸部：回転ナデ	口縁～頸部：回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	細・少				12.0				1/8	
213		SD02	下層	須恵器	甕	口縁～頸部：回転ナデ・沈線１条	口縁～頸部：回転ナデ	5Y8/1 灰白	N8/1 灰白	細・少				12.1				3/8	
214		SD02	上層	須恵器	甕	口縁～頸部：回転ナデ	口縁～頸部：回転ナデ	N4/ 灰	N7/ 灰白	細・少				18.6				1/8 未満	
215		SD02	下層	須恵器	甕	口縁～頸部：回転ナデ	口縁～頸部：回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・少				23.2				1/8	
216		SD02	下層	須恵器	壺	体部：回転ナデ、底部：回転ケズリ後ナデ	体～底部：回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	中・少								8/8	
290		SR04		弥生土器	細頸壺	口縁部：ヨコナデ？マメツ	口縁部：ヨコナデ？マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	中・並				12.2				1/8	
291		SR04		弥生土器	広口壺	口縁部：ヨコナデ？四線２条	口縁部：ヨコナデ？	2.5Y7/3 浅黄	10YR7/3 にぶい黄橙					29.6				1/8 未満	
292		SR04		弥生土器	壺	底部：板ナデ？マメツ	底部：マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y4/1 黄灰	粗・並						5.9		2/8	
293		SR04		弥生土器	壺	底部：ナデ？マメツ	底部：ナデ？マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・少						6.6		1/8	
294		SR04		弥生土器	甕	底部：ミガキ？マメツ	底部：マメツ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	粗・並						5.8		2/8	
295		SR04		弥生土器	壺	体～底部：板ナデ？マメツ	体～底部：マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/1 灰白	粗・並						7.9		1/8	
296		SR04		弥生土器	壺	体～底部：板ナデ？マメツ	底部：指オサエ・マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄	中・多						14.9		1/8 未満	
297		SR04		弥生土器	壺	口縁部：ヨコナデ？マメツ	口縁部：ヨコナデ？マメツ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・並				21.7				1/8	
298		SR04		古式土師器	甕	口縁部：ヨコナデ、体部：ハケ目	口縁部：マメツ、体部：指オサエ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	中・並				12.3				1/8	
299		SR04		土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：ハケ目	口縁部：ハケ目、体部：ケズリ後ナデ	5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並				15.6				2/8	
300		SR04		弥生土器	器台？	口縁部：ヨコナデ・四線２条・マメツ	口縁部：マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	中・並				25.0				1/8 未満	
301		SR04		古式土師器	高杯	杯部：マメツ、脚部：ミガキ・マメツ	杯部：マメツ、脚柱部：ケズリ後ナデ、脚裾部：マメツ	7.5YR8/4 浅黄橙	5YR8/4 淡橙	中・少								破片	
302		SR04		古式土師器	高杯	杯部：ナデ、脚部：マメツ	杯部：マメツ、脚柱部：ケズリ後ナデ、脚裾部：マメツ	2.5Y6/2 灰黄	10YR6/1 褐灰	中・少						9.0		1/8	
303	54	SR04		ミニチュア土器	鉢	口縁～底部：指オサエ・ナデ	口縁～底部：指オサエ・ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並				2.2	2.0			8/8	
304		SR04		須恵器	皿	口縁～底部：回転ナデ・沈線１条、底面：回転ケズリ後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	細・少				30.9	2.4	27.7		1/8 未満	
305		SR04		土師器	皿	底部：マメツ、底面：回転ヘラ切り	底部：マメツ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	細・少						10.2		1/8	内面赤彩
306		SR04		土師器	杯身？	高台：ナデ	底部：マメツ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	細・少						11.9		1/8	
307		SR04		土師器	壺？	底部～高台：回転ナデ	底部：回転ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・少						10.1		1/8	
308		SR04		須恵器	皿	底部：回転ナデ、底面：回転ヘラ切り後ナデ	底部：回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	細・少						11.0		2/8	転用硯

第 26 表　仲戸東遺跡土器観察表（6）

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	口径	器高	底径	その他		
309		SR04		須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	中・少								1/8未満	
310		SR04		須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ、天井部：回転ケズリ後ナデ	口縁～天井部：回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	細・少				11.5				1/8未満	
311		SR04		須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	細・並				11.8				1/8未満	
312		SR04		須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ、天井部：回転ケズリ後ナデ	口縁～天井部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	細・少				14.0				1/8未満	
313		SR04		須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	細・少				14.2				1/8未満	
314		SR04		須恵器	杯蓋	口縁部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	中・少				17.0				1/8未満	
315		SR04		須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	中・少				12.5				1/8未満	
316		SR04		須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ	口縁～体部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	細・少				10.5				1/8未満	
317		SR04		須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ	口縁～体部：回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	細・少				10.4				1/8未満	
318		SR04		須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ	口縁～体部：回転ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰	中・少				16.5				1/8	
319		SR04		須恵器	杯身	体部：回転ナデ、底面：回転ヘラ切り後ナデ	体～底部：回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y8/1 灰白	細・少						9.0		2/8	
320		SR04		須恵器	杯身	体部：回転ナデ、底面：回転ヘラ切り後ナデ	体～底部：回転ナデ後ナデ	N8/ 灰白	N7/ 灰白	細・少						9.6		2/8	
321		SR04		須恵器	杯身	底部：マメツ	底部：マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	細・少						9.2		1/8	
322		SR04		須恵器	杯身	体部～高台：回転ナデ、高台内：回転ヘラ切り後ナデ	体～底部：回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	中・並						7.8		3/8	
323		SR04		須恵器	杯身	底部～高台：回転ナデ	底部：回転ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	細・少						13.0		1/8未満	
324		SR04		須恵器	杯身	底部～高台：回転ナデ	底部：回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	中・少						16.0		1/8未満	
325		SR04		須恵器	高杯	杯～脚部：回転ナデ	杯部：回転ナデ	5Y6/2 灰オリーブ	2.5Y6/2 灰黄	中・少								破片	
326		SR04		須恵器	甕	体部：回転ナデ、沈線1条	体部：シボリ目・回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	細・少								1/8	
327		SR04		須恵器	壺	口縁～頸部：回転ナデ	口縁～頸部：回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	細・少								1/8	
328		SR04		須恵器	壺	底～高台：回転ナデ、高台内：回転ヘラ切り後ナデ	底部：回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	5Y7/2 灰白	細・並						11.3		2/8	
329		SR04		須恵器	壺	底部～高台：回転ナデ、高台内：回転ヘラ切り後ナデ	底部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	中・少						12.5		1/8	
330		SR04		須恵器	壺	底部：回転ナデ・回転ケズリ、高台内：回転ヘラ切り後ナデ	底部：回転ナデ	5Y6/1 灰	N6/ 灰	中・少						8.7		5/8	
331		SR04		須恵器	壺	体部～高台：回転ナデ	体～底部：回転ナデ・ナデ	5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白	細・少						18.0		1/8未満	
332		SR04		須恵器	甕	口縁部：回転ナデ	口縁部：回転ナデ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	細・少				20.0				1/8未満	
333		SR04		須恵器	甕	口縁～頸部：回転ナデ、体部：平行タタキ？後カキメ	口縁～頸部：回転ナデ、体部：同心円当て具	2.5Y6/2 灰黄	10YR6/2 灰黄褐	中・少				20.1				1/8未満	
334		SR04		須恵器	甕	口縁～頸部：回転ナデ	口縁～頸部：回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	中・少				22.0				3/8	外面自然釉
335		SR04		須恵器	甕	口縁～頸部：回転ナデ	口縁～頸部：回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	細・少				23.2				1/8未満	
336		SR04		須恵器	鉢	口縁～体部：回転ナデ、底部：回転ケズリ後ナデ、底面：回転ヘラ切り後ナデ	口縁～底部：回転ナデ	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	中・少				13.4	6.9	6.5		5/8	
337		SR04		黒色土器	碗	口縁部：マメツ	口縁部：マメツ	2.5Y2/1 黒	2.5Y3/1 黒褐	細・少				16.0				1/8	

第 27 表　仲戸東遺跡土器観察表（7）

報告番号	図版	遺構名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				計測値（cm）				残存	備考
						外面	内面	外面	内面	石英・長石	角閃石	雲母	結晶片岩	口径	器高	底径	その他		
338		S804		黒色土器	椀	高台：ヨコナデ・マメツ	底部：マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	5Y4/1 灰	細・少						7.8		1/8	
339		S804		瓦器	椀	高台：ナデ	底部：ナデ後平行暗文	N4/ 灰	N4/ 灰	細・少						3.3		1/8	
368		SK01		土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：ハケ	口縁～頸部：ハケ後ヨコナデ、体部：ヨコハケ後ケズリ	10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・並				15.8				1/8	外面煤付着
369		包含層		弥生土器	広口壺	口縁部：ヨコナデ？凹線３条・マメツ	口縁部：マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	中・並			中・並	31.4				1/8	阿波搬入
370		包含層		須恵器	杯身	口縁～体部：回転ナデ	口縁～体部：回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	中・少				8.6				1/8	
371		包含層		須恵器	杯身	体～高台：回転ナデ、高台内：回転ヘラ切り	体～底部：回転ナデ	N6/ 灰	5PB6/1 青灰	細・少						6.8		7/8	
372		包含層		須恵器	杯身	体～高台：回転ナデ？マメツ	体～底部：回転ナデ？マメツ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	細・少						11.8		1/8 未満	
373		包含層		須恵器	杯身	底部：ヨコナデ、高台内：回転ヘラ切り後ナデ？	底部：回転ナデ	N8/ 灰白	7.5Y7/1 灰白	中・並						11.6		3/8	
374		包含層		須恵器	杯	体部：回転ナデ、底部：高台貼付後ナデ	体部：回転ナデ、底部：回転ヘラ切り後高台貼付・ナデ	5Y7/1 灰白	5Y8/1 灰白	中・少						12.2		1/8	
375		包含層		須恵器	壺	体部：回転ナデ後沈線２、刺突文	体部：回転ナデ	10YR6/1 褐灰	10YR8/1 灰白	細・少								1/8	
376		包含層		須恵器	横瓶	口縁～頸部：回転ナデ、体部：格子タタキ後カキメ	口縁～頸部：回転ナデ、体部：同心円当て具	5Y6/1 灰	2.5Y7/1 灰白	細・並				8.5				3/8	
377		包含層		土師器	甕	口縁～頸部：ヨコナデ、体部：ハケ・マメツ	口縁～頸部：マメツ、体部：指オサエ・マメツ	7.5YR6/2 灰褐	7.5YR7/3 にぶい橙	中・並				14.8				2/8	外面煤付着
378		包含層		土師質土器	杯	底部：マメツ、底面：回転ヘラ切り後板状圧痕	底部：回転ナデ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	中・少						6.0		8/8	
598		大亀古墳		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白	細・少								1/8 未満	
599		大亀古墳		土師器	高杯	ヨコナデ・ナデ・マメツ	マメツ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・少								5/8	
730		仲戸１号墳		須恵器	高杯	脚部：回転ナデ	脚部：シボリ目	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	中・少								1/8	
822		ひさご塚古墳		須恵器	杯身	回転ナデ・回転ケズリ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰	中・並				13.6				2/8	
823		ひさご塚古墳		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	5Y2/1 黒	細・少						7.4		2/8	
824		ひさご塚古墳		須恵器	短頸壺	口縁：回転ナデ、体部：カキメ、底部：回転ケズリ	口縁～体部：回転ナデ、底部：同心円当て具痕後回転ナデ	N4/ 灰色	N3/ 暗灰色	中・少				8.4	7.4			5/8	
825		ひさご塚古墳		須恵器	器台	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y6/1 灰	N6/ 灰	細・少				29.6				1/8 未満	

第 28 表　仲戸東遺跡土器観察表（8）

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	調整		色調		焼成	胎土			計測値（cm・g）					残存率	備考
					外面	内面	外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	現存長	長径	短径	孔径	重量		
39	54	SK30		精錬単	ナデ・マメツ		2.5Y8/2灰白		良好	中・並			2.5	4.8	2.9	0.8	52.0	ほぼ完存	
72	54	SD02	上層	フイゴ口口	指オサエ・ナデ	ナデ?	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/3浅黄	軟質	中・並			8.3	11.2		4.0		破片	
217	54	SD02	下層	管状土錘	ナデ		2.5Y6/2灰黄		良好	中・少			5.2	1.5		0.4	9.27	一部欠損	
218	54	SD02	上層	管状土錘	ナデ		2.5Y7/1灰白		良好	細・並			5.1	1.9		0.5	15.78	一部欠損	
219	54	SD02	下層	棒状土錘	ナデ		2.5Y8/2灰白		良好	細・少			6.3	1.6	1.6	0.4	18.42	破片	
220	54	SD02	下層	棒状土錘	ナデ		2.5Y8/2灰白		良好	中・少			5.5	1.9	1.6	0.5	19.97	破片	
340	54	SR04		棒状土錘	ナデ		2.5Y8/2灰白		良好	中・少			2.1	1.3	1.2	0.4	3.19	破片	
341	54	SR04		棒状土錘	ナデ		2.5Y8/2灰白		良好	細・並			2.3	1.4	1.1	0.4	3.46	破片	
342	54	SR04		棒状土錘	ナデ		2.5Y8/2灰白		良好	細・並			3.6	1.5	1.3	0.4	7.11	破片	
343	54	SR04		棒状土錘	ナデ		2.5Y8/2灰白		良好	中・並			3.6	1.4	1.3	0.4	6.47	破片	
344	54	SR04		棒状土錘	ナデ		2.5Y8/2灰白		良好	中・少			4.0	1.5	1.3	0.4	8.33	破片	
345	54	SR04		棒状土錘	ナデ		2.5Y8/2灰白		良好	中・少			4.2	1.4	1.3	0.5	9.31	破片	
346	54	SR04		棒状土錘	ナデ		2.5Y8/2灰白		良好	中・並			4.4	1.6	1.5	0.4	10.60	破片	
347	54	SR04		棒状土錘	ナデ		10YR8/3にぶい黄橙		良好	中・少	細・少		4.0	1.6	1.5	0.4	11.26	破片	
348	54	SR04		棒状土錘	ナデ・ハケ目		2.5Y6/2灰黄		良好	細・並	細・少		5.6	1.6	1.5	0.4	17.81	破片	
379		包含層		管状土錘	ナデ		5Y7/2灰白		良好	中・並		細・少	6.7	1.9	1.8	0.4	19.41	一部欠損	

第 29 表　仲戸東遺跡土製品観察表

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	部位	調整		口縁部形態	突帯形状	色調		焼成	胎土			計測値（cm）					突帯高	残存	備考
						外面	内面			外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高			
382	55	SD02	下層	円筒埴輪	口縁部	タテハケ後指オサエ・横ナデ	ヨコナデ後ナデ	Ⅳa類		10YR8/3浅黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	硬質上師質	中・多			20.0						0.8	1/8未満	口縁部突帯
383		包含層		円筒埴輪	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ後ナデ	Ⅳa類		7.5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	硬質上師質	中・並									0.8	1/8未満	口縁部突帯
384	55	包含層		円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ	Ⅳa類		10YR8/3浅黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	硬質上師質	中・並									0.8	1/8未満	口縁部突帯
385	55	SD02	上層	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ・ヨコナデ	Ⅳa類		5Y7/1灰白	2.5Y8/2灰白	須恵質	中・並									0.6	1/8未満	口縁部突帯
386	55	包含層		円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ・ヨコナデ	Ⅳa類		5Y7/1灰白	5Y8/1灰白	須恵質	中・並										1/8未満	口縁部突帯
387	55	SR04		円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ・ヨコナデ	Ⅳa類		5Y7/1灰白	10YR8/2	須恵質	中・並									0.7	1/8未満	口縁部突帯
388		SR04		円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ	Ⅲ類		N6/灰	N6/灰	須恵質	中・並										1/8未満	
389		SD02	下層	円筒埴輪	口縁部	ハケ？後ナデ	ヨコハケ	Ⅲ類		10YR7/2にぶい黄橙	2.5Y7/3浅黄	硬質上師質	中・並										1/8未満	
390	55	SD02	下層	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	ナデ	Ⅲ類		2.5Y7/2灰黄	2.5Y8/2灰白	硬質上師質	中・並										1/8未満	
391	55	SR04		円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	ナナメハケ後ヨコナデ・ナデ	Ⅲ類		5YR6/3にぶい橙	10Y6/1灰	須恵質	粗・並										1/8未満	
392	55	SR04		円筒埴輪	口縁部	タテハケ後指オサエ・横ナデ	ヨコハケ後横ナデ・ナデ	Ⅲ類		7.5YR7/4にぶい橙	5Y6/1灰	須恵質	粗・多			20.5							2/8	
393		SR03	中層	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ？後ナデ	ナナメ・ヨコハケ	Ⅲ類		10YR8/3浅黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	硬質上師質	中・並										1/8未満	

第 30 表　仲戸東遺跡円筒埴輪観察表（1）

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値（cm） 口径	計測値（cm） 器高	計測値（cm） 底径	計測値（cm） 胴部径	計測値（cm） 口縁部高	計測値（cm） 突帯間隔	計測値（cm） 底部高	計測値（cm） 突帯高	残存	備考
394	55	SI803	上層	円筒埴輪	口縁部	タテハケ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ	Ⅲ類		7.5YR7/6 橙	7.5YR7/4 にぶい橙	軟質 上師質	中・少											1/8 未満	
395		包含層		円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ	Ⅲ類		2.5Y7/1 灰白	10YR7/3 にぶい黄橙	硬質 上師質	中・並											1/8 未満	
396	55	包含層		円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ	Ⅲ類		2.5Y6/1 黄灰	10YR7/4 にぶい黄橙	須恵質	中・並											1/8 未満	
397		SI804		円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅲ類		10YR8/3 浅黄橙	7.5YR6/1 灰	硬質 上師質	中・並											1/8 未満	
398	55	SI804		円筒埴輪	口縁部	タテハケ	ヨコハケ後ナデ	Ⅱb類		N8/ 灰	N8/ 灰	須恵質	中・並											1/8 未満	外面に弧状の擬刻
399	55	SD02	下層	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後ヨコナデ	Ⅱb類		N4/ 灰	N7/ 灰白	須恵質	粗・並											1/8 未満	
400		SI803	上層	円筒埴輪	口縁部	タテハケ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ	Ⅱb類		7.5YR7/6 橙	7.5YR8/4 浅黄橙	軟質 上師質	中・少											1/8 未満	
401	55	SI803	中層（灰層）	円筒埴輪	胴部	口縁・ナナメハケ・横ナデ	ナデ・指オサエ	Ⅱb類	3 c 類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄橙	軟質 上師質	中・多										0.6		径約 6cmの円形透孔穿孔
402		SD02	下層	円筒埴輪	胴部	マメツ			2 c 類	10YR7/3 にぶい黄橙		軟質 上師質	中・並										0.5	1/8 未満	
403		SI804		円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ？マメツ		3 b 類	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	軟質 上師質	中・少										1.0	1/8 未満	
404		SD02	上層	円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ？マメツ		2 b 類	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	軟質 上師質	中・少										0.6	1/8 未満	
405		SD02	上層	円筒埴輪	胴部	タテ・ヨナメハケ	指オサエ・ナデ		2 c 類	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y8/3 淡黄	軟質 上師質	中・並										0.5	1/8 未満	
406		SI804		円筒埴輪	胴部	マメツ	ハケリ		2 c 類	10YR7/3 にぶい黄橙		軟質 上師質	中・並										0.7	1/8 未満	
407		SD02	上層	円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ		2 c 類	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/3 浅黄	軟質 上師質	中・並										0.6	1/8 未満	
408		SI803	下層	円筒埴輪	胴部	ナデ？	ナデ		2 c 類	7.5YR8/3 浅黄橙	2.5Y7/2 灰黄	硬質 上師質	中・並										0.5	1/8 未満	径約 5cmの円形透孔穿孔
409	56	SI804		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	ナナメハケ後ナデ		2 b 類	7.5YR8/6 浅黄橙	2.5Y8/2 灰白	硬質 上師質	中・並										0.6	1/8 未満	
410		SD02	下層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ		2 c 類	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	軟質 上師質	中・並										0.5	1/8 未満	
411		SD02	上層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		2 c 類	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	軟質 上師質	中・並										0.6	1/8 未満	径 4 cm以上の円形透孔穿孔
412		SI804		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3 b 類	N6/ 灰	5Y7/1 灰	須恵質	粗・多										0.4	1/8 未満	
413		SK11		円筒埴輪	胴部	ヨコハケ？	指オサエ・ナデ		3 c 類	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	硬質 上師質	中・多										0.6	1/8 未満	
414		SD02	上層	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ナデ？マメツ		2 c 類	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y8/2 灰白	硬質 上師質	中・並										0.4	1/8 未満	
415		包含層		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナナメハケ		3 b 類	7.5YR7/6 橙	10YR7/2 にぶい黄橙	硬質 上師質	中・並										0.5	1/8 未満	
416		SD02	下層	円筒埴輪	胴部	マメツ	ハケリ		3 c 類	2.5Y8/3 淡黄		軟質 上師質	中・並										0.6	1/8 未満	
417		SK11		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ？マメツ	マメツ		3 c 類	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	軟質 上師質	中・並										0.6	1/8 未満	
418		SI804		円筒埴輪	胴部	ナデ	ナナメハケ後指オサエ		3 c 類	7.5YR7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	硬質 上師質	中・並										0.5	1/8 未満	

第 31 表　仲戸東遺跡円筒埴輪観察表（2）

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値（cm） 口径	計測値（cm） 器高	計測値（cm） 底径	計測値（cm） 胴部径	計測値（cm） 口縁部高	計測値（cm） 突帯間隔	計測値（cm） 底部高	計測値（cm） 突帯高	残存	備考
419		SR04		円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ・マメツ		3ｃ類	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y6/1 黄灰	軟質 上師質	中・並										0.3	1/8未満	径4cm以上の円形透孔穿孔
420		SD02	下層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ハクリ		3ｃ類	2.5Y7/2 灰黄		軟質 上師質	中・並										0.5	1/8未満	径4cm以上の円形透孔穿孔
421		SR04		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3ｃ類	7.5Y6/1 灰	N7/ 灰白	須恵質	中・並										0.5	1/8未満	
422		SR04		円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ・マメツ		3ｃ類	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	軟質 上師質	中・並										0.6	1/8未満	
423		SR04		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・マメツ		3ｃ類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	軟質 上師質	中・多										0.6	1/8未満	
424	56	SR04		円筒埴輪	胴部	タテハケ	ヨコハケ後指オサエ・マメツ		3ｂ類	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	軟質 上師質	中・少										0.8	1/8	
425	56	SD02	上層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ		2ｂ類	7.5YR8/4 浅黄橙	2.5Y6/1 黄灰	硬質 上師質	粗・並										0.8	1/8	
426	56	SD02	下層	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3ｂ類	7.5YR7/3 にぶい橙	N6/ 灰	硬質 上師質	中・並										0.7	1/8	
427	56	SD02	下層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		2ｂ類	7.5YR7/4 にぶい橙	5Y6/1 灰	硬質 上師質	中・多										0.8	1/8	
428		SR04		円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ		3ｂ類	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	軟質 上師質	中・少					21.6					0.7	1/8	径4cm以上の円形透孔穿孔
429	56	SD02	下層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3ｃ類	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	軟質 上師質	中・並					23.0					0.5	1/8	径5cm以上の円形透孔穿孔
430	56	SR04		円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3ｂ類	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	須恵質	中・並										0.6	1/8	
431	57	SX01	下層	円筒埴輪	胴・底部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3ｂ類	N7/ 灰白	N7/ 灰白	須恵質	中・多												径約5cmの円形透孔穿孔
432		SR03	上層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ヨコハケ後ナデ		2ｃ類	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	硬質 上師質	粗・並										0.3	1/8未満	
433		SD02	上層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		2ｂ類	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	軟質 上師質	中・並										0.6	1/8未満	径3cm以上の円形透孔穿孔
434		SR04		円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ・マメツ		4ｃ類	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/4 淡黄	硬質 上師質	中・並										0.9	1/8未満	
435		包含層		円筒埴輪	胴部	マメツ	マメツ		2ｃ類	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	軟質 上師質	中・並										0.7	1/8未満	
436	56	SK13		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナデ		4ｃ類	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y8/4 淡黄	硬質 上師質	中・多										0.6	1/8未満	
437		SR03	中層（灰層）	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・マメツ		4ｃ類	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	軟質 上師質	中・少										0.6	1/8未満	
438		包含層		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ？マメツ	指オサエ・ナデ		2ｂ類	5YR7/4 にぶい橙	5Y6/1 灰	硬質 上師質	中・並										0.6	1/8未満	径4cm以上の円形透孔穿孔
439		SR03	上層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナデ		2ｂ類	10YR8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	軟質 上師質	中・少										0.7	1/8未満	径4cm以上の円形透孔穿孔
440	56	SD02	下層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・ナデ		2ｃ類	2.5Y8/3 淡黄	N6/ 灰	硬質 上師質	中・並										0.7	1/8未満	
441	56	SR04		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ後ナデ	指オサエ・ナデ		4ｃ類	2.5Y7/1 灰白	7.5YR7/4 にぶい橙	硬質 上師質	中・並										0.4	1/8未満	

第32表　仲戸東遺跡円筒埴輪観察表（3）

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値(cm) 口径	計測値(cm) 器高	計測値(cm) 底径	計測値(cm) 胴部径	計測値(cm) 口縁部高	計測値(cm) 突帯開角	計測値(cm) 底部高	計測値(cm) 突帯高	残存	備考
442	56	SD02	上層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	掻オサエ・ナデ		4 c類	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR6/4 浅黄橙	硬質 上師質	中・並					16.2					0.5	2/8	径4 cm以上の円形透孔2孔穿孔
443		SB04		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナデ		4 c類	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	軟質 上師質	中・並					19.2					0.6	1/8	径5 cm以上の円形透孔穿孔
444	56	SD02	上層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	板ナデ?後掻オサエ・ナデ		2 c類	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	硬質 上師質	中・並					16.6					0.3	1/8	径4 cm以上の円形透孔2孔穿孔
445		SD02	下層	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	ナナメハケ後掻オサエ・ナデ		4 c類	7.5Y5/1 灰	7.5Y7/1 灰白	堅緻質	堅・並					19.1					0.6	3/8	焼け歪み顕
446	56	SB03	上層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナデ		4 c類	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	硬質 上師質	中・並										0.6	2/8	径約 7cmの楕円形透孔穿孔
447	56	SB04		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・縦刻	板ナデ?後ナデ			7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	軟質 上師質	中・並											1/8未満	縦刻
448		SK12		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	ナデ			5Y6/1 灰	2.5Y8/2 灰白	軟質 上師質	中・多											1/8未満	径約 3cmの円形透孔穿孔
449	56	SB03	灰層	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナデ・掻オサエ			2.5Y6/2 灰黄	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質 上師質	中・並											1/8未満	径約 3cmの円形透孔穿孔
450		SB03	灰層	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ後ナデ	掻オサエ・ナデ			10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/4 浅黄橙	軟質 上師質	中・並											1/8未満	
451	57	SB04		円筒埴輪	胴部	ナナメハケ後縦刻	掻オサエ・ナデ			5Y7/1 灰白	N7/ 灰白	堅緻質	堅・並											1/8未満	底縁状縦刻
452		SD02	上層	円筒埴輪	底部	ナナメハケ?マメツ	掻オサエ・ナデ			10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	硬質 上師質	中・少											1/8未満	
453		SD02	上層	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ・マメツ	ナデ			10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	軟質 上師質	中・少											1/8未満	底面に棒状工痕
454		SB04		円筒埴輪	底部	ナナメハケ・マメツ	ナデ・マメツ			10YR8/3 浅黄橙	2.5Y8/3 浅黄	軟質 上師質	中・並											1/8未満	
455		包含層		円筒埴輪	底部	ナナメハケ?マメツ	掻オサエ・マメツ			7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	軟質 上師質	中・少											1/8未満	
456		SB04		円筒埴輪	底部?					10YR7/2 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白													1/8未満	
457		SB04		円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ?マメツ	板ナデ?マメツ			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質 上師質	中・少					13.6						1/8未満	
458		SB04		円筒埴輪	底部	ヨコ・ナナメハケ後ナデ	掻オサエ・ナデ		4 c類	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質 上師質	中・並					17.0				7.3～8.1		2/8	
459		SB04		円筒埴輪	底部	ナナメハケ・ナデ・マメツ	掻オサエ・ナデ・マメツ			2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	軟質 上師質	中・多					15.8						1/8	
460	56	SD02	下層	円筒埴輪	底部	ナナメハケ・マメツ	掻オサエ・ナデ		2 c類	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	軟質 上師質	堅・並					12.0				11.8	0.5	3/8	
461		SB04		円筒埴輪	底部	ナナメハケ?マメツ	掻オサエ・ナデ			7.5Y7/1 灰白	7.5Y6/1 灰	硬質 上師質	中・並											1/8未満	外面マメツ顕著
462		SD02	上層	円筒埴輪	底部	ナナメハケ後ナデ	掻オサエ・マメツ			2.5Y6/2 灰黄	2.5Y8/2 灰白	軟質 上師質	中・少					21.8						1/8未満	
463	57	SD02	下層	円筒埴輪	底部	ナナメハケ・マメツ	掻オサエ・ナデ		3 c類	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	軟質 上師質	中・並					15.5				11.6～11.8	0.5	1/8未満	胴部第1段に径3 cm以上の円形透孔穿孔

第 33 表　仲戸東遺跡円筒埴輪観察表（4）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整		口縁部形態	突帯形状	色調		焼成	胎土			計測値（cm）						残存率	備考
					外面	内面			外面	内面		石英・灰石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高		
548		丸山古墳	円筒埴輪	口縁部	ヨコハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後ヨコナデ・ナデ	Ⅰc類		7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙	硬質土師質（良好）	中・少											1/8未満	
549		奥白方白方6号墳	円筒埴輪	口縁部	ヨコハケ	ヨコハケ後ナデ	Ⅱa類		7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/4 にぶい褐	土師質（やや軟）	中・少											1/8未満	
550		奥白方白方6号墳	円筒埴輪	胴部	ヨコハケ	板ナデ後ナデ		3c類	5YR5/6 明赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	土師質（良好）	中・少										0.6	1/8未満	
551		奥白方白方6号墳	円筒埴輪	胴部	ヨコハケ	ナデ		2c類	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	土師質（良好）	中・少										0.7	1/8未満	
552		奥白方白方6号墳	円筒埴輪	胴部	ヨコハケ	指オサエ・ナデ		2c類	10YR5/2 灰黄褐	N5/ 灰	須恵質（良好）	緻・並										0.6	1/8未満	
553		奥白方白方6号墳	円筒埴輪	胴部	ヨコハケ	指オサエ・ナデ		2b類	10YR5/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	土師質（やや軟）	中・少						11.4				0.5	1/8	
554		奥白方白方6号墳	円筒埴輪	胴部	マメツ	ナデ・マメツ		2c類	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	土師質（やや軟）	中・並						27.2				0.6	1/8	
555		滝宮万塚古墳群	円筒埴輪	底部	マメツ	指オサエ？マメツ		4c類	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	土師質（良好）	中・少				12.8				12.5	0.3	1/8	
556		滝宮万塚古墳群	円筒埴輪	底部	タテケズリ後タテ・ナナメハケ・ナデ	ヨコケズリ後指オサエ・ナデ		2c類	10YR2/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	土師質（良好）	中・少				17.2				12.6～13.9		1/8	黒斑
557		滝宮万塚古墳群	円筒埴輪	底部	タテハケ後ナデ	指オサエ・ナデ			5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	硬質土師質（良好）	中・少						13.8					2/8	
558		滝宮万塚古墳群	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	ナデ後タテハケ			10YR7/6 明黄褐	5YR6/6 橙	硬質土師質（良好）	中・少						15.8					1/8	
559		末閧古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ヨコハケ	Ⅲ類		5YS/6 明赤褐	5YS/6 明赤褐	軟質土師質	中・並		細・少									1/8未満	
560		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ	ナデ		2b類	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並	細・少	細・少								0.6	1/8未満	
561		末閧古墳	円筒埴輪	口縁部	ヨコナデ・ナナメハケ・マメツ	ヨコナデ？マメツ	Ⅱa類		7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並	細・少	細・少	27.8								1/8	
562		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ・ハクリ	指オサエ・ナデ		2b類	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・多	細・少					22.8				1.1	1/8未満	
563		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		2b類	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並	細・少					22.2				1.4	1/8	
564		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ・ハクリ	指オサエ・マメツ		2b類	7.5YR5/6 明褐	5YR4/6 赤褐	軟質土師質	中・並	細・少	細・少				21.0				1.1	1/8	
565		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・マメツ	マメツ・ハクリ		2b類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並	細・少					21.2				0.9	1/8未満	
566		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ・ハクリ	ヨコ・ナナメハケ		2b類	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	軟質土師質	中・並	細・少	細・少				21.3				1.2	1/8	
567		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ・マメツ		2b類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並		細・少				25.6				1.5	1/8	
568		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ	ナナメハケ・ナデ		2b類	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	軟質土師質	中・多	細・少	細・少				24.8				1.2	1/8	
569		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ？マメツ	ナデ・マメツ		2b類	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並	細・少					25.0				1.2	1/8	
570		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・マメツ	指オサエ・ナデ		2b類	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	軟質土師質	伸・並	細・並	細・少				24.0				0.8	1/8	
571		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・ヨコハケ？マメツ	指オサエ・マメツ		2b類	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	軟質土師質	中・並						22.2				1.1	1/8	
572		末閧古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ		3b類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並	細・少	細・少				21.3				1.3	1/8未満	

第 34 表　県内出土円筒埴輪観察表（1）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値（cm） 口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高	残存率	備考
573		末則古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ・ハクリ	指オサエ・マメツ		2b類	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	軟質土師質	中・並	細・少	細・少				22.7				0.9	1/8	
574		末則古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・マメツ	指オサエ・ナデ		2b類	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	軟質土師質	中・並						21.8				1.2	1/8	
575		末則古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ・ハクリ	指オサエ・ナデ		2b類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並	細・少					20.5				0.7	1/8未満	
576		末則古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ	マメツ		2b類	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・多	細・少	細・少				11.0				1.1	1/8	
577		末則古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ・ハクリ	指オサエ・ナデ・マメツ		4b類	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	軟質土師質	中・並	細・少					25.5				1.0	1/8	
578		末則古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・マメツ	ヨコ・ナナメハケ後ナデ		2b類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並	細・少	細・少				22.8				1.2	2/8	
579		末則古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・マメツ	タテ・ナナメハケ・マメツ		2b類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並	細・少					24.4				1.2	1/8	
580		末則古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・ハクリ	ヨコハケ後ナデ		2b類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	中・多						26.6				0.8	1/8未満	
581		末則古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ・ナデ		2b類	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並	細・少	細・少				32.8				1.0	1/8未満	
582		末則古墳	円筒埴輪	底部	マメツ・ハクリ	指オサエ・ナデ・マメツ			5YR4/6 赤褐	5YR4/6 赤褐	軟質土師質	中・並		細・少			20.9						1/8未満	
583		末則古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ？マメツ	指オサエ・マメツ			5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	軟質土師質	中・並	細・少				20.9						1/8未満	
584		末則古墳	円筒埴輪	底部	マメツ・ハクリ	指オサエ・ナデ・マメツ			5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	軟質土師質	粗・並	細・少	細・少			19.1						1/8未満	
585		末則古墳	円筒埴輪	底部	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ			5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	軟質土師質	粗・並		細・少			18.4						1/8未満	
586		末則古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ？マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	軟質土師質	中・多	細・少	細・少			18.8						1/8	
587		末則古墳	円筒埴輪	底部	マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並	細・少	細・少			18.8						1/8	
588		末則古墳	円筒埴輪	底部	マメツ	指オサエ・ナデ			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・多	細・少	細・少			16.8						1/8	
589		末則古墳	円筒埴輪	底部	マメツ・ハクリ	指オサエ・マメツ			7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並	細・少	細・少			19.0						1/8未満	
590		末則古墳	円筒埴輪	底部	指オサエ・ナデ・マメツ	指オサエ・ナデ			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	粗・多					22.8						1/8未満	
591		末則古墳	円筒埴輪？	底部	タテ・ヨコハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ			5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	軟質土師質	中・並		細・少			14.6						1/8未満	
592		末則古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ・指オサエ・マメツ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並					16.8						2/8	
593		末則古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ・ハクリ			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並	細・並	細・少			19.4						1/8未満	
594		末則古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ			5YR4/6 赤褐	5YR4/6 赤褐	軟質土師質	中・並		細・少			18.0						8/8	
595		末則古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	ナナメハケ・指オサエ・マメツ			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	粗・多					16.2						2/8	
596		末則古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ・ナデ？マメツ	指オサエ・ナデ			7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並	細・少	細・少			23.9						2/8	
597		末則古墳	円筒埴輪	底部	マメツ・ハクリ	指オサエ・ナデ			5YR4/6 赤褐	5YR4/6 赤褐	軟質土師質	中・並											1/8未満	
600		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ・マメツ	Ⅲ類		7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	軟質土師質	細・並											1/8未満	

第35表　県内出土円筒埴輪観察表（2）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値（cm） 口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高	残存率	備考
601		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ・マメツ	Ⅱb類		10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	軟質土師質	細・少											1/8未満	
602		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅲ類		10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	軟質土師質	中・少											1/8未満	
603		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅱb類		7.5YR7/6橙	5YR7/6橙	軟質土師質	細・少											1/8未満	
604		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅱb類		7.5YR7/6橙	7.5YR7/6にぶい橙	軟質土師質	中・並											1/8未満	
605		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	Bc種ヨコハケ・ナデ	ヨコハケ・ナデ	Ⅲ類		7.5YR5/6明褐	7.5YR4/6褐	軟質土師質	中・並											1/8未満	
606		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	板ナデ？後ナデ	Ⅲ類		5YR6/6橙	5YR6/6橙	軟質土師質	細・少											1/8未満	
607		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	Bc種？ヨコハケ・ナデ	指オサエ・ナデ・マメツ	Ⅱb類		10YR7/6明黄褐	2.5Y7/3浅黄	軟質土師質	細・並											1/8未満	
608		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	ナナメ・ヨコハケ後指オサエ・ナデ・マメツ	Ⅱb類		10YR8/6黄橙	5YR6/6橙	軟質土師質	細・少											1/8未満	
609		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	Bc種ヨコハケ	ナナメハケ	Ⅲ類		5YR6/6橙	5YR6/6橙	軟質土師質	細・少											1/8未満	
610		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	Bd種？ヨコハケ	ナナメハケ後ナデ・マメツ	Ⅲ類		5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	軟質土師質	中・並											1/8未満	
611		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	ナデ・マメツ	Ⅲ類		5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	軟質土師質	細・少			19.6								1/8	
612		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	Bd種ヨコハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後ヨコナデ	Ⅲ類		5YR5/4にぶい黄褐	5YR5/6明赤褐	硬質土師質	中・少			17.5								1/8未満	
613		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	指オサエ・ナデ	Ⅱb類		10YR7/4にぶい黄橙	10YR6/6明黄褐	硬質土師質	細・並											1/8	歪み顕著
614		大亀古墳	円筒埴輪	口縁部	Bc種ヨコハケ・ナデ	指オサエ・ナデ	Ⅱb類		10YR8/4浅黄橙	2.5Y8/4淡黄	軟質土師質	細・少			22.8								1/8未満	
615		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種？ヨコハケ	指オサエ・ナデ		2b類	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	軟質土師質	中・並										0.5	1/8未満	
616		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Bd種？ヨコハケ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ		2c類	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	軟質土師質	細・並										0.8	1/8未満	
617		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種ヨコハケ	板ナデ後ナデ？マメツ		2b類	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	軟質土師質	中・並										0.5	1/8未満	
618		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種ヨコハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		2c類	5YR4/4にぶい赤褐	5YR4/4にぶい赤褐	軟質土師質	中・並										0.6	1/8未満	
619		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種ヨコハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	軟質土師質	中・並										0.6	1/8未満	
620		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種？ヨコハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	軟質土師質	中・少										0.6	1/8未満	
621		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Bd種ヨコハケ	指オサエ・ナデ			10Y3/1オリーブ黒	10Y3/1オリーブ黒	須恵質	中・少											1/8未満	
622		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種？ヨコハケ	指オサエ・ナデ		2c類	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	軟質土師質	中・並										0.6	1/8未満	
623		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	ヨコハケ後ナデ	指オサエ・ナデ・マメツ		3c類	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	軟質土師質	中・少										0.5		円形透孔
624		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	ヨコハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		2c類	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	軟質土師質	中・並										0.6	1/8未満	

第36表　県内出土円筒埴輪観察表（3）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値(cm) 口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高	残存率	備考
625		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	ヨコハケ	ナナメハケ後ナデ		3b類	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	須恵質	中・並										0.7	1/8未満	
626		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Bd種ヨコハケ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	硬質土師質	中・少										0.5	1/8未満	円形透孔
627		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Bb・Bc種ヨコハケ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ		3c類	2.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	軟質土師質	中・並										0.4	1/8未満	
628		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Bd種？ヨコハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		2b類	7.5YR6/6 橙	10YR7/6 明黄褐	軟質土師質	細・並										0.7	1/8未満	円形透孔
629		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Bb種ヨコハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		2c類	10YR7/6 明黄褐	5YR5/6 明赤褐	軟質土師質	中・並						20.4				0.5	2/8	円形透孔
630		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Bc種ヨコハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並						19.7				0.6	1/8	円形透孔？
631		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種？ヨコハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3c類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	細・少										0.3	1/8未満	
632		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種ヨコハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ・マメツ		2b類	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	軟質土師質	細・少						20.2				0.5	1/8	円形透孔
633		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Bd種ヨコハケ・マメツ	指オサエ・マメツ		2c類	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	硬質土師質	中・並						24.2				0.6	1/8	円形透孔
634		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種ヨコハケ	指オサエ・ナデ		2c類	7.5YR4/4 褐	7.5YR4/3 褐	須恵質	中・並						22.0				0.6	1/8	円形透孔
635		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Bc種ヨコハケ	指オサエ・ナデ		4b類	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	硬質土師質	中・並										1.0	1/8未満	円形透孔
636		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種ヨコハケ・マメツ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ・マメツ		3b類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並						23.4				0.5	2/8	円形透孔
637		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種？ヨコハケ	マメツ		2b類	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	軟質土師質	細・並						28.4				0.9	1/8	
638		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種ヨコハケ・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ		2b類	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	軟質土師質	中・少						27.6				0.9	1/8	
639		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種？ヨコハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		3b類	10YR7/6 明黄褐	10YR8/6 黄橙	軟質土師質	細・並						27.4				0.8	1/8未満	
640		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	Ca種ヨコハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・少										0.6	1/8	
641		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		3c類	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・少										0.6	1/8未満	円形透孔
642		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ後一部ナデ・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ		2b類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	細・少						15.6				0.6	3/8	円形透孔
643		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR7/6 橙	7.5YR8/6 浅黄橙	硬質土師質	中・少						16.5				0.4	1/8	
644		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		3b類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	細・並										0.5	1/8未満	
645		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・マメツ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・少						16.2				0.3	2/8	
646		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		2c類	10YR6/6 明黄褐	10YR8/6 黄橙	軟質土師質	中・少						17.0				0.5	1/8	
647		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ		3b類	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・少						17.6				0.4	2/8	円形透孔
648		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	ナデ？マメツ		2c類	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	有黒斑	細・並						17.8				0.3	1/8	円形透孔・黒斑？
649		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	硬質土師質	中・少						18.2				0.4	1/8	黒斑？

第37表　県内出土円筒埴輪観察表（4）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値（cm） 口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高	残存率	備考
650		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・ハクリ	ヨコ・ナナメハケ後ナデ・マメツ		2b類？	5YR6/6橙	5YR6/6橙	硬質土師質	中・少						16.8				0.5	1/8	
651		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ヨコハケ後指オサエ		3c類	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	硬質土師質	中・少						20.6				0.5	1/8	円形透孔
652		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	硬質土師質	細・並						19.2				0.4	2/8	円形透孔
653		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・マメツ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ・マメツ		2c類	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	軟質土師質	中・少						21.2				0.6	1/8	
654		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	ナデ・マメツ		2c類	5YR6/6橙	5YR6/6橙	軟質土師質	細・並										0.5	1/8	
655		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ		3b類	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/6橙	軟質土師質	細・並						18.2				0.4	1/8	
656		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ		3c類	5YR6/6橙	10YR7/6明黄褐	軟質土師質	細・少						17.6				0.5	2/8	円形透孔
657		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ後ケズリ後ナデ			10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	有黒斑	中・少		細・少			16.8						2/8	底部の調整・黒斑
658		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ		2c類	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	軟質土師質	中・少					12.8	14.4			10.4～11.4	0.4	8/8	
659		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ヨコ・ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR7/6橙	10YR7/6明黄褐	軟質土師質	中・並						20.8				0.6	1/8	円形透孔
660		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	ヨコ・ナナメハケ後ナデ		2c類	10YR8/4浅黄橙	7.5YR7/6橙	軟質土師質	中・少						19.2				0.5	2/8	円形透孔
661		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		3b類	5YR6/8橙	7.5YR7/6橙	軟質土師質	細・並						20.4				0.5	1/8	
662		大亀古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ・マメツ		2c類	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	軟質土師質	細・並						19.4				0.4	1/8	
663		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ後ナデ	指オサエ・ナデ		2c類	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	軟質土師質	中・並					14.6				10.0	0.6	1/8	
664		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ後板オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	軟質土師質	細・少		細・並			14.2				11.1～11.4	0.5	7/8	円形透孔
665		大亀古墳	円筒埴輪	底部	Ca種ヨコハケ・マメツ	ナナメハケ後ケズリ・ナデ			7.5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	有黒斑	中・少					13.3						4/8	黒斑・底部の調整
666		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ヨコハケ後板オサエ	指オサエ・ナデ			5YR5/6明赤褐	7.5YR5/4にぶい褐	軟質土師質	中・並					10.8						2/8	外面焼成剥離？
667		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ後板オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ			7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	軟質土師質	中・少						15.6					2/8	
668		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・マメツ		2c類？	2.5Y7/3浅黄色	2.5Y7/3浅黄色	軟質土師質	中・少					10.9	14.4			12.0～12.6	0.4	8/8	円形透孔
669		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ・マメツ		3c類	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	有黒斑	細・少		細・並			12.8	16.6		10.3～10.8	14.2～15.4	0.4	8/8	円形透孔
670		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・ナデ		2c類	5YR7/6橙	10YR8/6黄橙	軟質土師質	中・少					11.7	12.6			11.9		1/8	円形透孔
671		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ後ケズリ？	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		2c類	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	有黒斑	中・少					14.2	16.0				0.5	2/8	黒斑・底部の調整
672		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ後ヨコナデ？	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	有黒斑	中・少		細・並			13.4				15.5～16.1	0.5	8/8	
673		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR7/6橙	7.5YR8/6浅黄橙	有黒斑	細・少					13.5	16.0			13.4～13.6	0.4	6/8	黒斑・底部の調整

第38表　県内出土円筒埴輪観察表（5）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値（cm） 口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高	残存率	備考
674		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ後板オサエ	指オサエ・ナデ			5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	中・並					19.2						1/8	
675		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・少					12.1				15.3～15.7	0.4	8/8	円形透孔
676		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ後一部ナデ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄褐	軟質土師質	細・少					13.8				12.3～14.0	0.3	8/8	円形透孔
677		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	軟質土師質	中・少					12.1	16.3				0.3	2/8	底部の調整
678		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		2c類	5YR6/8 橙	5YR6/8 橙	有黒斑	中・少					14.2	17.8			14.2～14.7	0.4	8/8	円形透孔
679		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ後板オサエ	指オサエ・ナデ・マメツ		2c類？	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	軟質土師質	中・少					16.0				13.1～13.6	0.5	5/8	
680		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ・マメツ	ケズリ後指オサエ・ナデ		2c類	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	硬質土師質	中・少					12.4	14.3			12.3	0.4	2/8	円形透孔・底部の調整
681		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ後一部ナデ	指オサエ・ナデ		3c類	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	軟質土師質	中・少					14.3				13.5～15.2	0.4	8/8	円形透孔
682		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ後一部ナデ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	有黒斑	中・少					13.0	17.1		11.1	9.7～10.1	0.3	8/8	円形透孔・黒斑・断続ナデ技法A
683		大亀古墳	円筒埴輪	胴～底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	軟質土師質	中・少		細・並			13.0	19.3		11.4～11.9	10.5～10.6	0.5	7/8	円形透孔
684		大亀古墳	円筒埴輪	胴～底部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・少					13.2			11.3～11.8	14.3～15.3	0.4	8/8	円形透孔
685		大亀古墳	円筒埴輪	胴～底部	タテ・ナナメハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	有黒斑	中・少		細・並			13.9	20.9		10.0～10.6	11.6～12.0	0.6	8/8	円形透孔
686		大亀古墳	円筒埴輪	胴～底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	有黒斑	中・少					12.9	16.2		10.2～11.7	10.8～12.0	0.3	8/8	円形透孔・黒斑
687		大亀古墳	円筒埴輪	胴～底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	有黒斑	中・少		細・並			14.9	18.9		10.3～10.8	12.8～13.9	0.5	8/8	円形透孔
688		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	有黒斑	中・少		細・並			14.7	18.9		10.2～10.7	13.2～13.7	0.3	8/8	円形透孔
689		大亀古墳	円筒埴輪	胴～底部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	有黒斑	中・少					13.9	16.6		11.2	9.8～10.4	0.4	6/8	円形透孔
690		大亀古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ	指オサエ・ナデ		3c類	2.5YR5/8 明赤褐	7.5YR6/8 橙	有黒斑	中・少		細・並			13.3	18.9		9.8～10.7	13.7～14.4	0.5	6/8	円形透孔
691		大亀古墳	円筒埴輪	胴～底部	タテ・ナナメハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3c類	2.5YR5/8 明赤褐	5YR6/8 橙	有黒斑	細・少		細・並			15.3	17.9		9.4～10.0	11.8～12.0	0.4	8/8	円形透孔・黒斑
692		大亀古墳	円筒埴輪	胴～底部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	軟質土師質	中・少					13.1			9.6～12.2	11.1～12.3	0.4	8/8	円形透孔
693		大亀古墳	円筒埴輪	胴～底部	ナナメハケ後一部ナデ	指オサエ・ナデ	Ⅲ類	2c・3c類	2.5Y8/4 淡黄色	10YR8/4 浅黄橙色	軟質土師質	中・少			(20.5)	(42.6)	13.1		(11.5)	9.0～10.2	11.4～13.2	0.6	8/8	円形透孔
694		大亀古墳	円筒埴輪	口縁～底部	ナナメハケ後一部ナデ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	軟質土師質	中・少					13.4			7.7～10.6	13.4～14.0	0.4	4/8	円形透孔
695		大亀古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ後一部ナデ	指オサエ・ナデ・マメツ		3c類	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	有黒斑	細・少					15.6	23.6		11.9～12.5	18.4～19.3	0.6	8/8	円形透孔・黒斑
696		大亀古墳	円筒埴輪	口縁～底部	タテ・ナナメハケ・マメツ	ヨコ・ナナメハケ後指オサエ・ナデ		2b類・2c類	2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR5/6 明赤褐色	有黒斑	中・少			(21.9)	(46.6)	13.2		(8.8)	11.5～13.0	13.1～14.2	0.8	6/8	円形透孔
697		大亀古墳	円筒埴輪	口縁～底部	口縁～胴部：ナナメハケ，底部：タテハケ後ナナメハケ	口縁：ナナメハケ後指オサエ，胴～底部：指オサエ・ナデ	Ⅲ類	3c類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	有黒斑	中・少			20.7	45.6	13.8		9.4～9.9	10.3～10.5	14.0～14.2	0.4	8/8	円形透孔

第39表　県内出土円筒埴輪観察表（6）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整		口縁部形態	突帯形状	色調		焼成	胎土			計測値（cm）					残存率	備考
					外面	内面			外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高	
698		大亀古墳	円筒埴輪	口縁～底部	タテ・ナナメハケ・マメツ	ヨコ・ナナメハケ後指オサエ・ナデ	Ⅲ類	2ｃ・3ｃ類	10YR8/6 黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	軟質上師質	中・少			20.3	41.8	13.3		9.8～10.3	10.7～11.7	9.8～10.6	0.5	6/8	円形透孔
699		大亀古墳	円筒埴輪	口縁～底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅲ類	3ｃ類	7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	軟質上師質	中・少			22.4	45.1	12.0		8.8	8.2～12.2	13.3～13.7	0.3	8/8	円形透孔
700		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁部	タテ・ナナメハケ	ヨコハケ			2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	軟質上師質	細・少										0.5	1/8未満	
701		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁部	タテハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後ナデ			5YR5/4 にぶい赤褐	5YR6/6 橙	硬質上師質	中・少											1/8未満	
702		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁部	タテハケ	ヨコハケ・マメツ			7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙	軟質上師質	細・少											1/8未満	
703		大亀古墳	朝顔形埴輪	肩部	タテハケ	指オサエ・ナデ・マメツ			7.5YR7/6 橙	10YR8/6 黄橙	硬質上師質	細・少											1/8	
704		大亀古墳	朝顔形埴輪	胴部	Ｃａ種ヨコハケ	指オサエ・ナデ		2ｃ類	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	硬質上師質	細・少										0.7	1/8未満	
705		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁～底部	口縁：ナナメハケ、肩～胴部：ナナメハケ、底部：ナナメ・タテハケ後ナタキ	口縁：ヨコ・ナナメハケ、肩～底部：指オサエ・ナデ		3ｃ類	7.5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	軟質上師質	中・少			(29.5)	(51.4)	14.2			8.4～10.5	11.8～12.8	0.4	8/8	円形透孔
706		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁部	タテハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後ナデ			5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	硬質上師質	中・少					37.6						1/8未満	
707		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁部	タテ・ナナメハケ	ヨコ・ナナメハケ			7.5YR6/6 浅黄橙	7.5YR7/6 橙	硬質上師質	中・少			39.8								1/8	
708		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁部	タテハケ	ヨコハケ後ナデ			5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	硬質上師質	中・少											1/8未満	
709		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁部	タテハケ	ヨコハケ			7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	硬質上師質	中・少											破片	
710		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁～底部	口縁：ナナメハケ後ヨコハケ、肩部：ナナメハケ後Ⅱ種ヨコハケ、胴部：ナナメハケ、底部：タテハケ後ナナメハケ	口縁：ナナメハケ後ヨコハケ、肩～底部：指オサエ・ナデ		3ｃ類	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	有黒斑	中・少					14.1	20.6		9.3～10.2	12.4～13.2	0.6	7/8	円形透孔
711		大亀古墳	朝顔形埴輪	口縁部	タテハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ			5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	硬質上師質	中・並											1/8未満	
714		王墓古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	Ⅲ類		10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	硬質上師質（良好）	中・少											1/8未満	
715		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ハケリ	タテハケ後ナデ？		3ｂ類	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	硬質上師質（良好）	中・少										0.5	1/8未満	
716		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ヨコハケ	ナデ？マメツ		2ｃ類	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質上師質（良好）	中・少										0.5	1/8未満	円形透孔
717		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナデ		2ｃ類	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質上師質（良好）	中・少										0.4	1/8未満	
718		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ハケリ		3ｂ類	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	硬質上師質（良好）	中・少										0.7	1/8未満	
719		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3ｂ類	7.5YR5/3 にぶい褐	2.5Y5/1 黄灰	硬質上師質（良好）	中・少										0.5	1/8未満	
720		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ハケリ	指オサエ・ナデ		2ｂ類	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質上師質（良好）	中・少					23.4					0.6	1/8	円形透孔、外面赤色顔料塗彩の可能性

第 40 表　県内出土円筒埴輪観察表（7）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整		口縁部形態	突帯形状	色調		焼成	胎土			計測値（cm）								残存率	備考
					外面	内面			外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高		
721		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・ナデ		4ｃ類	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・少						27.6				0.5	1/8未満	
722		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		2ｃ類	7.5TE6/3にぶい褐	7.5TE6/3にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・少						29.6				0.4	1/8	円形透孔
723		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・ハクリ	指オサエ・ナデ		2ｃ類	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	硬質土師質(良好)	中・並						29.6				0.5	1/8	
724		王墓古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ・ハクリ	指オサエ・ナデ			7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・並											1/8未満	底部の調整なし
725		王墓古墳	円筒埴輪	底部	板オサエ？マメツ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ			7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	硬質土師質(良好)	粗・並											1/8未満	
726		王墓古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ・ナデ	指オサエ・ナデ			10YR6/3にぶい黄褐	10YR6/3にぶい黄褐	硬質土師質(良好)	中・少											1/8未満	底部の調整なし
727		王墓古墳	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ・ハクリ	指オサエ・ナデ			7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	硬質土師質(良好)	中・少											1/8未満	底部の調整なし
728		王墓古墳	円筒埴輪	胴部	ヨコハケ	指オサエ・ナデ			7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・少											1/8未満	Ｂｄ種ヨコハケ
731		青木1号墳	円筒埴輪	口縁部	タテ・ナナメハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後ヨコナデ	Ⅲ類		7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	硬質土師質(良好)	粗・並											1/8未満	
732		青木1号墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	ヨコハケ	Ⅲ類		5YR4/3にぶい赤褐	5YR4/3にぶい赤褐	硬質土師質(良好)	中・並	細・少										1/8未満	
733		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ・ハクリ	タテ・ナナメハケ			7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・少											1/8未満	円形透孔
734		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	ハクリ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ		3ｂ類	5YR4/3にぶい赤褐	5YR4/3にぶい赤褐	硬質土師質(良好)	中・並	細・少									0.7	1/8未満	
735		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	ハクリ	指オサエ・ナデ		3ｂ類	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・並	細・少					18.6				0.6	1/8	
736		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	指オサエ・ナデ・ハクリ	タテハケ後指オサエ・ナデ		2ｃ類	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・並										0.6	1/8未満	
737		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ヨコハケ後タテハケ・板ナデ		3ｂ類	7.5YR4/3褐	7.5YR4/3褐	硬質土師質(良好)	中・少	細・並					20.4				0.6	1/8	
738		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	板ナデ後指オサエ・ナデ		3ｂ類	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・少						17.4				0.6	2/8	
739		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	ハクリ	ハクリ		3ｂ類	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/6橙	硬質土師質(良好)	中・少										0.7	1/8未満	
740		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	タテハケ		4ｂ類	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・並	細・少									0.8	1/8未満	円形透孔
741		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	ハクリ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ		2ｂ類	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・並	細・少					23.3				0.6	1/8	円形透孔
742		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ		3ｂ類	5YR4/3褐	5YR4/3褐	硬質土師質(良好)	中・少										0.6	1/8未満	
743		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	ナデ・ハクリ	指オサエ・ナデ・ハクリ		4ｂ類	5YR4/3にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	硬質土師質(良好)	中・少	細・少									0.6	1/8未満	円形透孔
744		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ヨコハケ後ナデ		4ｂ類	7.5YR4/3褐	7.5YR4/3褐	硬質土師質(良好)	中・並	細・少					21.8				0.9	1/8	
745		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	タテハケ後ヨコハケ		3ｂ類	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/3褐	硬質土師質(良好)	中・少						20.4				1.2	1/8	円形透孔
746		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ		3ｂ類	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	硬質土師質(良好)	中・少	細・並					23.0				1.0	1/8未満	
747		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	タテ・ヨコハケ後ナデ		3ｂ類	5YR6/4にぶい橙	5YR6/4にぶい橙	硬質土師質(良好)	中・少	細・並					24.4				0.7	1/8	
748		青木1号墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	タテハケ後ヨコハケ・指オサエ		4ｂ類	7.5YR3/2黒褐	10YR4/3にぶい黄褐	硬質土師質(良好)	中・並	細・少					23.0				1.0	1/8	

第41表　県内出土円筒埴輪観察表（8）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整		口縁部形態	突帯形状	色調		焼成	胎土			計測値（cm）					残存率	備考
					外面	内面			外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高	
749		青木１号墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	タテハケ		４ｂ類	5Y5/3 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	硬質土師質（良好）	中・少						36.6				0.9	1/8	円形透孔
750		青木１号墳	円筒埴輪	底部	板オサエ？マメツ	タテ・ナナメハケ後指オサエ・ナデ			7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	硬質土師質（良好）	中・並	細・少										1/8 未満	
751		青木１号墳	円筒埴輪	底部	板オサエ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ			7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質土師質（良好）	中・並											1/8 未満	
752		青木１号墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ後板オサエ	タテハケ後指オサエ・ナデ			5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	硬質土師質（良好）	中・少	細・少										1/8 未満	
754		出土地不明資料	円筒埴輪	口縁部	タテ・ナナメハケ	ヨコハケ	Ⅲ類		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	軟質土師質	中・少			36.2								1/8	
755		出土地不明資料	円筒埴輪	口縁部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅱｂ類	４ｂ類	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	硬質土師質	中・並		細・少	36.3				11.5			0.9	1/8 未満	矩形透孔
756		出土地不明資料	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ後一部ナデ	指オサエ・ナデ		３ｂ類	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	硬質土師質	中・並						29.7				0.8	2/8	円形透孔
757		出土地不明資料	朝顔形埴輪	口縁部	ナナメハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ			10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	硬質土師質	中・並											1/8 未満	
758		出土地不明資料	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		３ｂ類	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	硬質土師質	中・少		細・少			25.8				16.9～18.6	0.7	4/8	底部外面焼成調整？
759		出土地不明資料	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		３ｂ類	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	硬質土師質	中・少										0.7	1/8 未満	円形透孔
760		出土地不明資料	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	ヨコハケ後指オサエ・ナデ		３ｃ類	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	硬質土師質	中・少										0.6	1/8 未満	縦割・円形透孔
761		出土地不明資料	円筒埴輪	底部	タテハケ後板ナデ・ナデ？マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並					21.2						3/8	底部の調整？
762		出土地不明資料	円筒埴輪	底部	タテハケ後指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/6 明黄褐	硬質土師質	中・多					26.0						2/8	黒斑・焼成調整？
763		出土地不明資料	円筒埴輪	底部	タテハケ	指オサエ・ナデ	２ｂ類		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・並					23.4				21.2～21.8	0.7	2/8	底部外面焼成調整？
764		出土地不明資料	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ後一部板オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ			10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/6 明黄褐	軟質土師質	中・並					24.4						2/8	
765		出土地不明資料	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ後ナデ	指オサエ・ナデ			10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	軟質土師質	中・少					25.2						7/8	
766		出土地不明資料	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ後指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ・マメツ			10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y7/4 浅黄	軟質土師質	中・少					25.4						2/8	底部の調整
767		出土地不明資料	円筒埴輪	底部	タテ・ナナメハケ後一部指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ			10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並		細・少			23.2						6/8	
768		住吉神社古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅲ類		10YR5/2 灰黄褐	7.5YR5/2 灰褐	須恵質	中・少											1/8 未満	
769		住吉神社古墳	円筒埴輪	口縁部	ナデ？	指オサエ・ナデ	Ⅲ類		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	硬質土師質	中・少											1/8 未満	
770		住吉神社古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅲ類		7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質土師質	中・少											1/8 未満	
772		住吉神社古墳	円筒埴輪	口縁	マメツ	ナデ？	Ⅲ類		5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	硬質土師質	中・少											1/8 未満	
773		住吉神社古墳	円筒埴輪	口縁部	ナデ？ハケリ	ナデ	Ⅱｂ類		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	硬質土師質（良好）	中・並											1/8 未満	
774		住吉神社古墳	朝顔形埴輪	口縁部	ナデ	ナデ	Ⅱｂ類		5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	硬質土師質（良好）	中・並											1/8 未満	

第 42 表　県内出土円筒埴輪観察表（9）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値（cm） 口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高	残存率	備考
775		住吉神社古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ・ヨコナデ	板ナデ？ナデ	Ⅱb類		10YR4/2 灰黄褐	7.5YR6/6 橙	硬質土師質	中・少											1/8未満	
776		住吉神社古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅲ類		2.5Y4/2 暗灰黄	7.5YR4/2 灰褐	須恵質	中・少											1/8未満	
777		住吉神社古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ナデ	Ⅱb類		7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質土師質（良好）	中・少											1/8未満	
778		住吉神社古墳	円筒埴輪	口縁部	ナデ？ハクリ	ナデ	Ⅱb類		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	硬質土師質（良好）	中・少											1/8未満	
779		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3c類	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質（良好）	中・少										0.4	1/8未満	
780		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ハクリ・マメツ	ナデ		5類	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	硬質土師質（良好）	中・少										0.3	1/8未満	
781		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR6/2 灰黄褐	須恵質	中・少										0.4	1/8未満	径4cm以上の円形透孔穿孔
782		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・少										0.4	1/8未満	
783		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		6A類	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y6/1 黄灰	硬質土師質	中・少										0.4	1/8未満	
784		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		6A類	7.5YR4/2 灰褐	5YR6/4 にぶい橙	須恵質	中・少										0.2	1/8未満	
785		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR6/6 橙	2.5Y7/3 浅黄	硬質土師質	中・少										0.5	1/8未満	
786		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/2 明褐灰	硬質土師質	中・少										0.4	1/8未満	
787		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・少										0.4	1/8未満	径6cm以上の円形透孔穿孔
788		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナデ		3c類	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質土師質（良好）	中・並										0.2	1/8未満	線刻
789		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	須恵質	中・少										0.3	1/8未満	
790		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質土師質	中・少										0.5	1/8未満	径8cm以上の円形透孔穿孔
791		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ハクリ・マメツ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3c類	5YR5/3 にぶい赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	硬質土師質（良好）	中・少										0.3	1/8未満	円形透孔
792		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	硬質土師質	中・少										0.4	1/8未満	
793		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR7/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	硬質土師質	中・少						24.6				0.5	1/8	
794		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄褐	硬質土師質	中・少						28.4				0.5	1/8	径6cm以上の円形透孔穿孔
795		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ・ハクリ	指オサエ・ナデ・ハクリ		4c類	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	硬質土師質（良好）	中・並						26.2				0.4	1/8	円形透孔
796		住吉神社古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・少						25.0				0.3	1/8	
797		住吉神社古墳	円筒埴輪	底部	ハクリ・マメツ	指オサエ・ナデ			7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質（良好）	中・並											1/8未満	
798		住吉神社古墳	円筒埴輪	底部	ハクリ・マメツ	指オサエ・ナデ			7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質（良好）	中・並					14.9						1/8未満	

第43表　県内出土円筒埴輪観察表（10）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整		口縁部形態	突帯形状	色調		焼成	胎土			計測値（cm）						残存率	備考
					外面	内面			外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高		
799		住吉神社古墳	円筒埴輪	底部	板オサエ	指オサエ・ナデ？ハケリ			7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・少											1/8	
800		住吉神社古墳	円筒埴輪	底部	ナデ	指オサエ・ナデ			5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・少											1/8 未満	
801		住吉神社古墳	円筒埴輪	底部	タテハケ後ナデ	指オサエ・ナデ		5 類	5YR6/6 橙	5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	粗・少					22.0				6.5～7.3	0.3	2/8	底部突帯断続ナデ保押圧
802		住吉神社古墳	朝顔形埴輪	口縁	ヨコナデ＝マメツ	ナデ			5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	硬質土師質	中・少											1/8 未満	
803		住吉神社古墳	朝顔形埴輪	口縁部	ナナメハケ	ヨコハケ・ナデ			10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	硬質土師質（良好）	細・少											1/8 未満	
804		住吉神社古墳	朝顔形埴輪	胴部	肩部：ナナメハケ後ナデ、胴部：ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3 c 類	5YR6/3 にぶい橙	7.5YR5/2 灰褐	硬質土師質	中・少					26.0					0.6	1/8	径 5 cm以上の円形透孔穿孔
814		若宮古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅲ類	3 c 類	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	細・少			23.9				9.1			0.4	1/8	径 4 cm以上の円形透孔穿孔
815		若宮古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3 c 類	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	硬質土師質	細・少					18.1					0.4	1/8	径 7 cm程度の円形透孔穿孔
816		若宮古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		6 A 類	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 明黄褐	硬質土師質	細・少					17.8					0.4	1/8	円形透孔
817		若宮古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3 c 類	5YR5/6 明赤褐	7.5YR6/6 橙	軟質土師質	中・少					20.1					0.4	1/8	円形透孔・線刻
818		若宮古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3 c 類	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・少										0.3	1/8 未満	径 3 cm以上の円形透孔穿孔
819		若宮古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	ナナメハケ後指オサエ・ナデ		3 c 類	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	細・少										0.3	1/8 未満	
820		若宮古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ後板オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ		5 類	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・少					13.4				8.4	0.3	1/8	
826		ひさご塚古墳	円筒埴輪	口縁部	タテハケ	ナデ	Ⅲ類		5Y6/1 灰	N4/ 灰	須恵質	中・少											1/8 未満	
827		ひさご塚古墳	円筒埴輪	口縁部	タテハケ	ヨコナデ	Ⅱb類		2.5Y3/1 黒褐	5YR3/1 黒褐	須恵質	中・並											1/8 未満	
828		ひさご塚古墳	円筒埴輪	口縁部	タテハケ	ナナメハケ後ナデ・ヨコナデ	Ⅲ類		5YR4/2 灰褐	5YR7/8 橙	硬質土師質	中・並											1/8 未満	
829		ひさご塚古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	ヨコ板ナデ	Ⅲ類		2.5Y5/1 黄灰	7.5Y6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・並											1/8 未満	
830		ひさご塚古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	Ⅱb類		10YR8/4 浅黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	硬質土師質	中・並											1/8 未満	
831		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3 c 類	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	硬質土師質	中・並										0.3	1/8 未満	
832		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3 c 類	N7/ 灰白	N7/ 灰白	須恵質	中・並										0.3	1/8 未満	径 4 cm以上の円形透孔穿孔
833		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ナデ		3 c 類	2.5YR6/8 橙	5YR7/8 橙	軟質土師質A	中・並										0.5	1/8 未満	径 5 センチ以上の円形透孔 2 孔穿孔
834		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3 c 類	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	軟質土師質A	中・並										0.3	1/8 未満	

第 44 表　県内出土円筒埴輪観察表（11）

報文番号	図版	遺跡名	器種	部位	調整 外面	調整 内面	口縁部形態	突帯形状	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土 石英・長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	計測値（cm） 口径	器高	底径	胴部径	口縁部高	突帯間隔	底部高	突帯高	残存率	備考
835		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ		6A類	5Y7/2灰白	2.5Y6/3にぶい黄	須恵質	中・並										0.5	1/8未満	断続ナデ技法A
836		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ		2c類	N6/灰	N7/灰白	須恵質	中・並										0.3	1/8未満	押圧技法？
837		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	軟質土師質B	中・並										0.5	1/8未満	
838		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ナデ		6A類	2.5YR7/6橙	5YR7/6橙	軟質土師質A	中・並										0.4	1/8未満	断続ナデA
839		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	2.5YR4/1赤灰	7.5YR4/1褐灰	硬質土師質	中・並										0.3	1/8未満	径5センチ以上の円形透孔穿孔
840		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	ナデ		3c類	N6/灰	N7/灰白	須恵質	中・並										0.5	1/8未満	
841		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ		6A類	2.5Y6/3にぶい黄	2.5Y6/3にぶい黄	須恵質	中・並										0.3	1/8未満	断続ナデ技法A
842		ひさご塚古墳	円筒埴輪	底部	板オサエ	指オサエ・ナデ			5YR6/8橙	5YR6/8橙	軟質土師質B	中・並											1/8未満	
843		ひさご塚古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ・板オサエ	指オサエ・ナデ			2.5YR4/4にぶい赤褐	2.5YR3/2暗赤褐	硬質土師質	中・並											1/8未満	
844		ひさご塚古墳	円筒埴輪	口縁部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・ナデ？マメツ	Ⅱb類	3c類	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	軟質土師質	中・並			34.0					6.3～6.8		0.4	1/8未満	
845		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	マメツ	ナデ？マメツ		3c類	7.5YR5/6明褐	7.5YR6/8橙	軟質土師質B	中・並						34.2				0.6	1/8未満	
846		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	タテハケ	指オサエ・ナデ		3c類	N6/灰	N7/灰白	須恵質	中・並						31.6				0.4	1/8未満	
847		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR3/1黒褐	7.5YR3/2黒褐	硬質土師質	中・並						27.5				0.3	1/8	
848		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		6A類	2.5YR6/8橙	7.5YR4/1褐灰	硬質土師質	中・並						29.2				0.3	1/8	
849		ひさご塚古墳	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		6A類	N7/灰白	N7/灰白	須恵質	中・並						21.6				0.3	1/8	径4cm以上の円形透孔穿孔
850		ひさご塚古墳	円筒埴輪	底部	ナナメハケ後板オサエ	指オサエ・ナデ		3c類	5YR6/8橙	7.5YR5/4にぶい褐	硬質土師質	中・並					21.1				11.5～12.5	0.3	1/8	
851		ひさご塚古墳	円筒埴輪	底部	指オサエ・ハクリ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR8/4浅黄橙	10YR7/6明黄褐	軟質土師質B	中・並					20.9				14.6	0.3	1/8	
852		長尾八幡旅山	円筒埴輪	口縁	ナナメハケ・指オサエ	ナデ	Ⅱb類		7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	硬質土師質	細・少											1/8未満	
853		長尾八幡旅山	円筒埴輪	口縁	ナナメハケ	ヨコハケ・指オサエ		3c類	7.5YR7/4にぶい橙	10YR6/3にぶい黄橙	硬質土師質	細・少							9.1				1/8未満	
854		長尾八幡旅山	円筒埴輪	口縁	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	硬質土師質	細・少			17.8				7.5	9.3～9.6			2/8	
855		長尾八幡旅山	円筒埴輪	胴部	タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/2灰褐	硬質土師質	細・少								8.6			2/8	
856		長尾八幡旅山	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR5/3にぶい褐	10YR6/2灰黄褐	硬質土師質	中・少						18.0				0.4	1/8	
857		長尾八幡旅山	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙	硬質土師質	細・少						14.8				0.3	1/8	
858		長尾八幡旅山	円筒埴輪	胴部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ		3c類	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	硬質土師質	細・少								10.9			1/8	
859		長尾八幡旅山	朝顔形埴輪	口縁	ヨコナデ・ナデ	板ナデ・ナデ			7.5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	硬質土師質	細・少											1/8未満	

第45表　県内出土円筒埴輪観察表（12）

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	調整		色調		焼成	胎土			計測値（cm）				残存	備考
					外面	内面	外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	器壁厚		
464	58	S804		壺形埴輪	縦刷・マメツ		2.5Y7/2 灰黄		硬質土師質	中・並						2.4	破片	立ち飾り部小片
465	58	SD02	下層	壺形埴輪	縦刷・マメツ		2.5Y7/2 灰黄		軟質須恵質	中・並						1.5	破片	立ち飾り部小片
466	58	S803	中層（灰層）	壺形埴輪	ナデ・縦刷		2.5YR/1 灰白		軟質須恵質	中・並							破片	立ち飾り部小片
467	58	S804		壺形埴輪	縦刷・マメツ		10YR6/4 にぶい黄橙		硬質土師質	中・並							破片	立ち飾り部小片
468		S804		壺形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙	2.5Y7/1 灰白	硬質土師質	中・並						1.6	破片	壺形埴輪笠部片か
469	58	SD02	上層	壺形埴輪	ナデ・縦刷		10YR8/3 浅黄橙		硬質土師質	中・並							破片	立ち飾り部小片
470	58	S804		壺形埴輪	縦刷・マメツ		5Y7/1 灰白		軟質須恵質	中・並						1.7	破片	立ち飾り部小片
471	58	S804		壺形埴輪	ナデ・縦刷		2.5YR/2 灰白		軟質土師質	中・並						1.8	破片	立ち飾り部小片
472	59	S804		盾形埴輪	形象部：ハケ後縦刷、円筒部：タテ・ナナメハケ	指オサエ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	硬質土師質	中・並							破片	円筒部突帯間隔12.3cm
473		包含層		盾形埴輪	縦刷・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並						0.8	破片	形象部小片
474		包含層		盾形埴輪	ハケ後縦刷	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	5YR7/6 橙	硬質土師質	中・並						1.4	破片	形象部小片
475		SD02	上層	盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	須恵質	粗・並						2.1	破片	形象部小片
476		SD02	上層	盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	2.5Y7/1 灰白	硬質土師質	中・並						1.3	破片	形象部小片
477		S804		盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	須恵質	中・並						1.8	破片	形象部小片
478		包含層		盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	軟質土師質	中・並						1.2	破片	形象部小片
479		SD02	上層	盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並						1.1	破片	形象部小片
480		S804		盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	硬質土師質	中・並						1.9	破片	形象部小片
481		S804		盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR8/4 浅黄橙	軟質土師質	中・並						1.7	破片	形象部小片
482		SK11		盾形埴輪	縦刷・マメツ	指オサエ・ナデ	2.5YR/3 浅黄	10YR8/3 浅黄橙	軟質土師質	中・並						1.1	破片	円筒部小片
483		S804		盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰	須恵質	粗・並						2.2	破片	形象部小片
484	58	S804		盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	軟質土師質	中・並						1.3	破片	形象部小片
485		S804		盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y6/1 黄灰	硬質土師質	中・並						1.2	破片	形象部小片
486		SD02	上層	盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	N6/ 灰	須恵質	中・並						1.3	破片	形象部小片
487		S804		盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	2.5Y6/1 黄灰	5Y6/1 灰	須恵質	中・並						1.2	破片	形象部小片
488	58	S804		盾形埴輪	形象部：ハケ後縦刷、円筒部：ナナメハケ・ナデ	形象部：指オサエ・ナデ、円筒部：ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/3 浅黄	軟質土師質	中・並						1.9	破片	形象部小片
489	60	SK03		石見型埴輪	ハケ・ナデ・縦刷	板ナデ後ナデ	10YR5/1 褐灰	5Y6/1 灰	硬質須恵質	粗・多							破片	形象部破片
490		S804		石見型埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y6/1 黄灰	硬質土師質	中・並						1.3	破片	形象部小片
491	61	S804		石見型埴輪	ハケ後縦刷	ハケリ	N5/ 灰		須恵質	中・並							破片	形象部小片
492		SD02	上層	石見型埴輪	ハケ後縦刷		10YR7/3 にぶい黄橙		硬質土師質	中・並							破片	形象部小片
493	61	SK04		石見型埴輪	ナナメハケ後縦刷	ナデ？	5YR6/4 にぶい橙	2.5Y7/1 灰白	硬質土師質	中・並						2.3	破片	形象部小片
494		S804		石見型埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	5YR6/3 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・多						1.5	破片	形象部小片
495	61	S803	灰層	石見型埴輪	ハケ後縦刷・方孔穿孔	ハケリ	N5/ 灰		須恵質	中・並							破片	形象部小片
496	61	S804		石見型埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	硬質土師質	中・並						1.4	破片	形象部小片
497		S804		石見型埴輪	円筒部：タテ・ナナメハケ後穿孔	指オサエ・ナデ	7.5YR8/6 浅黄橙	2.5Y6/2 灰黄	軟質土師質	中・並						2/8	破片	円筒部破片、中央部に近0.7cmの方孔穿孔
498		SD02	上層	石見型埴輪	ナデ？マメツ	指オサエ・ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	軟質土師質	中・少						1.5	破片	形象部小片
499		SK11		石見型埴輪	ハケ	ナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	軟質土師質	中・並						2.1	破片	形象部小片
500		S803	灰層	石見型埴輪	ハケ・ナデ	ハケ後ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	硬質土師質	中・並						1.6	破片	形象部小片
501		SD02	下層	石見型埴輪	ハケ？マメツ	マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	軟質土師質	粗・少						1.8	破片	形象部小片
502		SD02	上層	石見型埴輪	ハケ・マメツ	指オサエ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	軟質土師質	中・並						1.6	破片	形象部小片

第 46 表　仲戸東遺跡形象埴輪観察表（1）

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	調整		色調		地成	胎土			計測値（cm）				残存	備考
					外面	内面	外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	器厚	その他	
503		SD02	下層	石見型埴輪	ハケ	指オサエ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	硬質土師質	中・並						1.3		破片	形象部小片
504	61	SD02	下層	石見型埴輪	形象部：タテ方向ナデ、脚部：縦方向板ナデ、裏面：縦方向タズリ後縦方向ナデ		5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	硬質土師質	粗・並								破片	中央部に近辺 0.6 cmの方孔穿孔
505		SD02	上層	石見型埴輪	ハケ・マメツ	ハケ？マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/3 淡黄	軟質土師質	中・少					2.0			破片	形象部小片
506		SB04		石見型埴輪	板ナデ後ナデ	ナデ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	硬質土師質	粗・並					1.6			破片	形象部小片
507		SB03	下層	石見型埴輪	ハケ後ナデ・方孔穿孔	ハケ後ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	軟質土師質	粗・並					2.2			破片	形象部小片
508	61	SB04		石見型埴輪	ハケ後ナデ・指オサエ・マメツ	ハケ？マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	軟質土師質	中・並					2.0			破片	形象部小片
509	61	SB04		石見型埴輪	指オサエ・ナデ後ハケ	指オサエ・ナデ後ハケ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並					1.9			破片	形象部小片
510		SB04		石見型埴輪	ハケ後ナデ・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/3 にぶい橙	軟質土師質	中・並					2.2			破片	形象部小片
511	61	SB04		石見型埴輪	ナデ・マメツ	ハケ・ナデ・マメツ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	軟質土師質	中・並					1.8			破片	形象部小片
512		SB04		舟形埴輪	指オサエ・ナデ・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	軟質土師質	中・少					2.1			破片	粗製板上端
513	63	SK12		舟形埴輪	ナデ・ハケ・マメツ	指オサエ・ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	軟質土師質	中・並					1.5			破片	船体破片
514	62	SB03	中層	舟形埴輪	ナデ・ハケ	指オサエ・ナデ	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	軟質土師質	粗・並								破片	船体破片
515	63	SD02	上層	馬形埴輪	鬣面：ハケ・ナデ、端面：ナデ		2.5Y8/2 灰白		硬質土師質	中・並								破片	たて髪小片
516	63	SB04		馬形埴輪	頭部：ハケ、引手：ナデ	押圧・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	硬質土師質	中・並								破片	頭部小片
517	63	SB04		馬形埴輪	ハケ・ナデ		2.5Y7/2 灰黄		硬質土師質	中・並								破片	たて髪小片
518	63	SB03	上層	馬形埴輪	ハケ・ナデ	押圧・ナデ	7.5YR6/2 灰褐	7.5YR6/4 にぶい橙	硬質須恵質	中・並								破片	臀部破片
519	64	SB03		馬形埴輪	ハケ・ナデ	押圧・ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	硬質土師質	中・並								破片	背～臀部破片
520		SB04		基底部	ヨコナデ・マメツ	ナデ？マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄	軟質土師質	中・並								1/8 未満	基底部破片
521		SB04		基底部	マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR7/2 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並								1/8 未満	基底部破片
522		SD02	下層	基底部	ハケ？マメツ	指オサエ・ナデ？マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	軟質土師質	中・並								1/8 未満	基底部破片
523		SB04		基底部	マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ	5Y6/1 灰	5Y6/1 黄灰	須恵質	中・少								1/8 未満	基底部破片
524		SB04		基底部	マメツ	ナデ？マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	軟質土師質	中・並								1/8 未満	基底部破片
525	63	包含層		基底部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	7.5YR7/2 明褐灰	2.5Y7/1 灰白	須恵質	粗・並								1/8 未満	
526		SB04		基底部	タテハケ	指オサエ・ナデ	N7/ 灰白色	N7/ 灰白色	須恵質	中・多								1/8 未満	突帯断面M字
527	63	SB04		基底部	ナナメハケ	指オサエ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	N6/ 灰	硬質土師質	中・多								1/8 未満	突帯断面M字
528	63	SD02	下層	基底部	ナナメハケ・マメツ	ナデ？マメツ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	軟質土師質	中・並					20.1			1/8 未満	基底部破片
529	63	SD02	上層	基底部	ナナメハケ・マメツ	ヨコハケ？後ナデ・マメツ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	軟質土師質	中・並					21.6			1/8 未満	基底部破片
530		SB04		基底部	ヨコナデ・マメツ	ナデ・マメツ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	軟質土師質	中・並					23.8			1/8 未満	基底部破片
531	63	SB04		基底部	ナナメハケ・横ナデ	指オサエ後ヨコナデ	2.5Y7/2 灰黄	10YR5/2 灰黄	硬質土師質	中・並					27.4			1/8 未満	突帯断面M字
532		SB04		基底部	ナナメハケ後突帯貼付	ナデ？マメツ	5Y5/1 灰	5Y7/1 灰白	須恵質	中・並					25.8			1/8 未満	基底部破片
533		SB04		基底部	ナナメハケ・マメツ	指オサエ・ナデ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	軟質土師質	中・少								1/8 未満	円筒部破片？
534	64	SK13		基底部	板ナデ・ナデ	ナデ・板ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/2 灰白	硬質土師質	中・並					12.1			1/8	基底部片、SK12・SD02 より同一個体出土
535	63	SK12		基底部	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR8/3 浅黄橙	軟質土師質	中・並					11.0			3/8	破片

第 47 表　仲戸東遺跡形象埴輪観察表（2）

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	調整		色調		焼成	胎土			計測値（cm）					残存	備考
					外面	内面	外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	器壁厚	その他		
536	64	SR03	中層（灰層）	基底部	タテ・ナナメハケ	ケズリ後指オサエ・ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/3 浅黄	硬質土師質	中・並					18.8			7/8	基底部に2孔一対の径6.5cmの円形透孔穿孔
537		包含層		不明	ナデ		7.5YR8/3 浅黄橙		軟質土師質	中・少								破片	
538		包含層		不明	ナデ		10YR8/2 灰白		軟質土師質	細・小								破片	動物埴輪尻尾？
539		SR04		不明	ナデ		10YR8/4 浅黄橙		軟質土師質	中・少			32（長さ）	31（幅）	1.9（厚さ）			破片	形象部小片？
540		SR04		不明	ナデ		7.5YR8/3 浅黄橙		軟質土師質	中・少			18（長さ）	26（幅）	1.9（厚さ）			破片	形象部小片？
541		SR04		不明	ナデ・指オサエ		7.5YR8/4 浅黄橙		軟質土師質	細・少			29（長さ）	18（幅）	2.4（厚さ）			破片	動物埴輪尻尾？
542		SD02	上層	蓋形埴輪？	ハケ後ナデ	ヨコナデ・ナデ	2.5YR/3 淡黄	10YR8/4 浅黄橙	軟質土師質	中・多					9.6			1/8	蓋形埴輪立飾り部輪部？
543	64	SD02	下層	人物埴輪？	ナデ・指オサエ		10YR7/3 にぶい黄橙		軟質土師質	中・並			6.4（長さ）	3.3（幅）	2.3（厚さ）			破片	腕？小片
544		SD02	下層	不明	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	軟質土師質	中・並						2.2		破片	
545		SR04		不明	指オサエ・ナデ、ハケ	ハケ後ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	軟質土師質	中・並								破片	
546		SK31		不明	ナデ	マメツ	7.5YR7/6 橙	2.5YR/2 灰白	軟質土師質	粗・並								破片	
547		SR03	中層（灰層）	不明	ナデ・ハケ	ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙色	10YR6/1 褐灰色	硬質土師質	中・並								破片	

第48表　仲戸東遺跡形象埴輪観察表（3）

報告番号	図版	遺跡名	器種	調整		色調		焼成	胎土			計測値（cm）					残存	備考
				外面	内面	外面	内面		石英・長石	角閃石	雲母	口径	器高	底径	器壁厚	その他		
712		大亀古墳	不明	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	軟質土師質	中・少						1.2		破片	
713		大亀古墳	不明	縦刷・マメツ	指オサエ・ナデ・マメツ	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/6 明褐	硬質土師質	中・少						2.2		破片	
729		王墓古墳	盾形埴輪？	ハケ	ハケ・ハクリ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質土師質	中・少						1.8		破片	
753		青木１号墳	盾形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	硬質土師質	中・少						1.2		破片	
771		住吉神社古墳	蓋形埴輪	ナデ・ハクリ	指オサエ・ナデ	5YR6/4 橙	5YR6/6 橙	軟質土師質	中・少								破片	笠部小片
805		住吉神社古墳	蓋形埴輪	突帯貼付・マメツ	指オサエ・ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	硬質土師質	中・並						1.3		破片	笠部小片
806		住吉神社古墳	蓋形埴輪	ナナメハケ	ヨコハケ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR7/4 にぶい黄橙	硬質土師質	中・並						1.3		破片	笠部小片
807		住吉神社古墳	盾形埴輪？	形象部・縦刷・マメツ	ナデ	10YR6/6 橙	7.5YR5/4 にぶい褐	軟質土師質	中・少						1.4		破片	形象部小片
808		住吉神社古墳	盾形埴輪？	ハケ後縦刷	ナデ	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	硬質土師質	中・少						1.0		破片	
809		住吉神社古墳	盾形埴輪	形象部：ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	軟質土師質	中・少						1.3		破片	形象部小片
810		住吉神社古墳	家形埴輪	ハケ後ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	軟質土師質	中・少						1.9		破片	壁部小片
811		住吉神社古墳	不明	形象部：方形刺突・縦刷・ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	軟質土師質	中・少						1.3		破片	形象部小片
812		住吉神社古墳	不明	ナデ・ナナメハケ？	指オサエ・ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	軟質土師質	中・少								破片	
813		住吉神社古墳	不明	ナデ・指オサエ	ハクリ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	軟質土師質	中・少						1.1		破片	
821		若宮古墳	馬形埴輪	ハケ後縦刷	指オサエ・ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/2 灰褐	硬質土師質	細・少						1.5		破片	脚尾部小片
860		長尾八幡築山	盾形埴輪？	ハケ後ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	硬質土師質	細・少						0.7		破片	形象部小片？

第49表　県内出土形象埴輪観察表

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	調整			色調		焼成	胎土			計測値（cm）			残存	備考
					凸面	凹面	側面	凸面	凹面		石英・長石	角閃石	雲母	現存幅	最大厚	その他		
349		SR04		丸瓦	縄目タタキ後ナデ	布目		7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	須恵質	中・多			8.1	5.3	1.6	破片	
350		SR04		平瓦	縄目タタキ	布目		N5/ 灰	N6/ 灰	須恵質	中・多			7.0	8.4	2.3	破片	
351		SR04		平瓦	格子タタキ後横ナデ	布目		10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y6/1 黄灰	硬質土師質	中・並			7.7	10.4	2.9	破片	

第 50 表　仲戸東遺跡瓦類観察表

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	計測値（cm・g）				石材	残存	備考
					現存長	最大幅	最大厚	重量			
7	65	SK03		打製石鏃丁	7.9	3.9	1.1	47.00	サヌカイト	図右半折損	
14	65	SK06		石鏃	2.8	1.2	0.5	1.40	サヌカイト	完存	凸基式
15	65	SK09		石鏃	3.2	1.7	0.45	2.36	サヌカイト	先端折損	凸基式
19	65	SK11		打製石鏃丁	10.5	5.3	0.9	76.67	珪質片岩	一部折損	
27	65	SK24		石鏃	2.0	1.0	0.3	0.53	サヌカイト	完存	凸基式
28	65	SK24		石鏃	4.2	3.3	0.5	4.55	サヌカイト	完存	凸基式
33	66	SK28		楔形石器	5.9	5.9	1.6	57.94	サヌカイト	完存	
41	65	SK30		スクレイパー	2.3	3.9	0.65	8.35	サヌカイト	一部折損	
47	66	SK33		楔形石器	3.1	2.7	0.8	9.87	サヌカイト		
48	66	SK33		楔形石器砕片	5.3	7.6	0.6	24.29	サヌカイト		
73	66	SR02	下層	柱状片刃石斧	10.3	3.8	1.7	115.56	緑簾石青色片岩	折損	
97	65	SR03	下層	石鏃	2.8	1.3	0.4	1.52	サヌカイト	完存	平基式
98	65	SR03	下層	石鏃	3.4	2.0	0.4	2.43	サヌカイト	完存	凹基式
99	67	SR03	上層	砥石	7.5	6.4	7.2	386.47	砂岩	折損	
100	67	SR03	下層	台石	24.3	20.1	8.1	5360.00	砂岩	一部欠損	
221	65	SD02	下層	石鏃未成品	4.5	2.05	0.45	3.88	サヌカイト	ほぼ完存	凸基式
222	65	SD02	上層	石鏃	4.5	2.0	0.5	4.51	サヌカイト	ほぼ完存	凹基式
223	66	SD02	下層	楔形石器	4.4	2.9	0.7	12.23	サヌカイト		
224	65	SD02	下層	スクレイパー	6.3	4.5	0.9	32.57	サヌカイト	左右端折損	
225	65	SD02	下層	打製石鏃丁	9.6	3.3	0.75	36.33	紅簾石石英片岩	一部折損	

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	計測値（cm・g）				石材	残存	備考
					現存長	最大幅	最大厚	重量			
226	66	SD02	下層	磨石	8.6	5.6	5.1	351.70	流紋岩ないしはデイサイト	完存	
352	65	SR04		石鏃	2.1	1.9	0.35	1.28	サヌカイト	一部折損	凹基式
353	65	SR04		石鏃	1.8	1.0	0.35	0.60	サヌカイト	折損	
354	65	SR04		石鏃	1.9	0.9	0.3	0.71	サヌカイト	完存	平基式
355	65	SR04		石鏃	4.1	2.7	0.6	5.90	サヌカイト	一部折損	平基式
356	65	SR04		石鏃	4.3	1.8	0.7	4.29	サヌカイト	完存	凸基式
357	66	SR04		楔形石器	3.5	1.7	0.9	5.86	サヌカイト		上下端に潰れ
358	66	SR04		楔形石器	6.0	5.9	0.7	35.82	サヌカイト		
359	65	SR04		スクレイパー	9.1	5.2	1.2	62.54	サヌカイト	完存	
360	67	SR04		砥石	15.5	9.5	5.3	1304.13	砂岩	折損	被熱
361	67	SR04		砥石	13.4	6.8	7.7	828.27	砂岩	折損	一部被熱
362	67	SR04		台石	14.0	13.3	5.15	1278.17	砂岩	折損	風化顕著
363	67	SR04		砥石	12.0	10.6	7.5	1052.00	花崗岩	折損	被熱
364	67	SR04		叩石	13.9	12.3	7.2	1396.50	砂岩	折損	
365	66	SR04		磨石	5.7	4.9	4.5	165.50	流紋岩ないしはデイサイト	完存	
380	65	撹乱		スクレイパー				21.16	サヌカイト	下半折損	
381	65	包含層		石鏃	2.3	1.7	0.4	1.40	サヌカイト	下半折損	

第 51 表　仲戸東遺跡石器観察表

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	計測値（cm・g）					色調	材質	残存	備考
					現存長	最大幅	最大厚	孔の最大径	孔の最小径	重量			
40		SK39		勾玉	1.3	1.15	0.6	0.3	0.25	1.31	含クロム白雲母岩	一部欠損	

第 52 表　仲戸東遺跡玉類観察表

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	計測値（cm）			樹種	木取り	残存	備考
					現存長	現存幅	最大厚				
2		SB01（SP17）		柱材	22.1	9.7	3.3	ヒノキ属類似	芯持ち材	一部残存	
8		SK03		板材	26.6	7.5	2.1	モミ属	板目	上端欠損	
12		SK04		杭	8.0	2.5	2.3	コナラ属コナラ節亜属	芯持ち	上端折損	
13		SK04		杭	33.7	3.6	2.7	コナラ属アカガシ亜属	芯持ち	上端折損	
30		SK27		板材	69.0	10.4	2.7	ヒノキ属	板目	一部折損	
49		SK33		杭	6.3	3.9	3.7	コナラ属コナラ節	芯持ち	上端折損	
50		SK33		加工木	19.3	6.2	5.8	サワグルミ	芯持ち	上下端折損	
51		SK33		加工木	17.7	9.7	6.5	サワグルミ	芯持ち	上下端折損	
101	68	SI03	下層	編み錘	20.7	6.3	5.6	サカキ	芯持ち	一部欠損	
102	68	SI03	下層	柄状	13.9	2.5	2.4	コナラ属アカガシ亜属	－	ほぼ完存	
103		SI03	下層	加工木	11.8	8.0	2.0	モミ属	板目	一部折損	
104		SI03	下層	板材	14.2	5.5	1.2	モミ属	板目	一部欠損	
105		SI03	下層	板材	14.5	2.9	1.1	マツ属（複維管束亜属）	板目	左右端折損	
106		SI03	下層	板材	13.8	4.0	1.3	モミ属	板目	一部折損	
107		SI03	下層	加工木	15.6	2.2	2.0		板目	上下端折損	
108		SI03	下層	板材	16.2	5.0	1.5	モミ属	板目	一部折損	
109		SI03	下層	板材	20.0	3.2	0.3	マツ属（複維管束亜属）	板目	一部残存	
110		SI03	下層	板材	20.7	3.3	1.2	ヒノキ属	板目	一部残存	
111		SI03	下層	加工木	20.2	3.5	3.7	コナラ属アカガシ亜属	芯持ち	上下端折損	
112		SI03	上層	加工木	24.3	1.7	1.3	ヒノキ属類似	板目	上下端折損	
113		SI03	上層	棒状	28.6	2.7	2.1	ヒノキ属類似	－	上下端欠損	4～5mm角の柄孔穿孔
114		SI03	下層	板材	39.5	4.2	1.3	ヒノキ属類似	板目	上下端折損	
115		SI03	下層	角材	35.0	2.9	2.4	ヒノキ属類似	－	上下端折損	上端部一部炭化
116		SI03	下層	加工木	20.6	8.6	5.4	サクラ属	板目	右半欠損	
117		SI03	下層	板材	26.2	6.1	2.2	ヒノキ属類似	板目	一部折損	
118		SI03	下層	杭	6.6	3.0	2.2	サカキ	芯持ち	上半部折損	
119		SI03	下層	杭	9.3	3.1	2.3	クリ	芯持ち	上端折損	
120		SI03	下層	杭	14.0	6.0	5.2	コナラ属コナラ節	芯持ち	上端部折損	上端炭化
121		SI03	下層	杭	17.1	5.2	4.3	クリ	芯持ち	上下端折損	
122	69	SI03	下層	杭	19.5	6.1	6.3	コナラ属クヌギ節	芯持ち	上端折損	
123	68	SI03	下層	杭	8.5	2.9	2.7	コナラ属クヌギ節	芯持ち	上端折損	上端炭化
124		SI03		杭	17.1	6.0	3.4	トチノキ	芯持ち	上端折損	
125		SI03	下層	杭	21.4	4.8	4.1	コナラ属アカガシ亜属	芯持ち	上端折損	
126	69	SI03	下層	杭	20.3	5.9	4.0	モミ属	芯持ち	上端折損	
127		SI03	下層	杭	12.8	3.8	3.9	マツ属（複維管束亜属）	芯持ち	上端折損	

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	計測値（cm）			樹種	木取り	残存	備考
					現存長	現存幅	最大厚				
128		SI03	下層	杭	17.9	3.3	2.1	ヒノキ属	芯持ち	上下端折損	
129		SI03	下層	杭	13.5	4.6	4.3	コナラ属アカガシ亜属	芯持ち	上端折損	
130		SI03	下層	杭	20.1	5.3	2.8	ヒノキ属類似	芯持ち	上端折損	
131	69	SI03		杭	32.1	5.5	5.8	ヒノキ属類似	芯持ち	上端折損	
132		SI03	下層	杭	25.5	8.0	5.2	ヒノキ属類似	芯持ち	上端折損	上端炭化
133		SI03	下層	杭	22.3	4.7	4.4	ヒノキ属類似	芯持ち	上端折損	
134		SI03	下層	杭	25.5	5.9	5.3	サクラ属	芯持ち	上端折損	
135		SI03	下層	杭	27.8	5.9	4.2	ヒノキ属類似	芯持ち	上端折損	上端炭化
136		SI03	下層	杭	49.1	5.2	5.2	サカキ	芯持ち	上端欠損	
137		SI03	下層	杭	52.6	5.7	4.9	クリ	芯持ち	上端部折損？	
138		SI03	下層	杭	68.0	5.6	4.9	コナラ属コナラ節	芯持ち	上端折損	
139		SI03	下層	杭	38.6	3.6	3.8	クリ	芯持ち	上端折損	
140		SI03	下層	杭	40.2	5.7	5.2	コナラ属クヌギ節	芯持ち	上端折損	
141		SI03	下層	杭	27.2	3.0	3.0	コナラ属クヌギ節	芯持ち	上下端折損	
227	68	SI02	下層	編み錘	16.5	6.5	4.9	ヒサカキ	芯持ち	ほぼ完存	
228	68	SI02	下層	編み錘	15.1	5.5	5.3	ヒサカキ類似	芯持ち	2つに折損	
229	68	SI02	下層	編み錘	15.7	6.7	3.95	サカキ	芯持ち	ほぼ完存	
230	68	SI02	下層	柄状	16.6	3.9	3.7	コナラ属アカガシ亜属	－	上端折損	
231	68	SI02	下層	容器蓋板	18.7	16.5	0.8	ヒノキ属類似	板目	一部欠損	
232		SI02	下層	板材	9.3	4.0	0.8	マツ属（複維管束亜属）	板目	上下端折損	上端炭化
233		SI02	下層	板材	9.1	4.1	1.6	ヒノキ属	板目	ほぼ完存	
234		SI02	下層	加工木	8.6	3.2	2.6	ヒノキ属	－	上下端折損	
235	69	SI02	下層	槽				ヒノキ属	板目	一部残存	
236	68	SI02	下層	柄	12.5	12.8	2.5		芯持ち	一部残存	内面一部炭化
237		SI02	下層	角材	22.5	2.3	1.9	マツ属（複維管束亜属）	－	上下端折損	炭化顕著
238		SI02	下層	板材	25.3	3.2	0.7	カヤ	板目	上下端折損	原形穿孔？
239		SI02	下層	板材	20.2	3.0	0.9	ヒノキ属	板目	上下端折損	
240		SI02	下層	板材	16.1	3.3	0.8	ヒノキ属類似	柾目	上下端折損	
241		SI02	下層	角材	9.7	5.7	4.1	ヒノキ属	板目	下半欠損	
242		SI02	下層	角材	12.1	2.4	1.9	ヒノキ属	－	一部欠損	
243		SI02	下層	板材	10.8	4.0	1.2	ヒノキ属	板目	一部残存	上面に刃痕
244		SI02	下層	板材	8.1	7.6	2.3	ヒノキ属	板目	上下端欠損	
245		SI02	下層	板材	18.5	3.0	0.5	マツ属（複維管束亜属）	柾目	下端折損	
246		SI02	下層	板材	12.9	10.0	2.2	ヒノキ属	板目	ほぼ完存	
247		SI02	下層	板材	14.7	6.7	2.5	ヒノキ属類似	板目	ほぼ完存	
248		SI02	下層	建築部材？	15.9	7.5	4.0	モミ属	芯持ち	上下端折損	
249		SI02	下層	板材	24.0	10.6	1.5	ヒノキ属	板目	上下端欠損	
250		SI02	下層	建築部材	13.0	13.9	5.4	モミ属	板目	ほぼ完存	

第 53 表　仲戸東遺跡木器観察表（1）

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	計測値（cm）			樹種	木取り	残存	備考
					現存長	現存幅	最大厚				
251	68	SD02	下層	板材	34.5	7.0	2.2	ヒノキ属類似	板目	一部折損	炭化
252		SD02	下層	板材	12.0	2.0	1.0		板目	一部折損	
253		SD02	下層	加工木	11.8	1.3	0.8		板目	上下端欠損	
254		SD02	下層	炭化材	13.1	1.6	1.3		板目	上下端折損	炭化顕著
255		SD02	下層	炭化材	15.0	1.8	0.9		板目	一部残存	炭化顕著
256		SD02	下層	炭化材	14.0	4.6	1.4		板目	一部残存	炭化顕著
257		SD02	下層	炭化材	13.7	4.7	1.4		板目	一部残存	炭化顕著
258		SD02	下層	板材	25.0	2.8	0.8	ヒノキ属	板目	上下端折損	
259		SD02	下層	板材	23.6	3.3	1.6	マツ属（複維管束亜属）	板目	右半部欠損	下半炭化
260		SD02	下層	炭化材	22.2	3.8	1.9		板目		図上半部を中心に炭化
261		SD02	下層	板材	22.8	3.8	1.2	マツ属（複維管束亜属）	板目	一部残存	下端炭化
262		SD02	下層	加工木	18.0	9.6	3.7	ヒノキ属類似	板目	一部残存	
263		SD02	下層	炭化材	30.1	4.6	1.8		板目		破損部以外炭化
264		SD02	下層	板材	31.1	6.4	1.2	ヒノキ属	板目	右半部欠損	
265		SD02	下層	板材	45.7	4.2	1.2	ヒノキ属類似	板目	上下端及び図右半部欠損	
266		SD02	下層	角材	30.8	2.0	1.5	ヒノキ属類似	－	一部残存	
267		SD02	下層	板材	32.0	6.8	3.1	モミ属	板目	上下端折損	
268		SD02	下層	板材	23.0	3.0	0.7	マツ属（複維管束亜属）	柾目	下端折損	
269		SD02	下層	板材	39.2	10.1	2.4	モミ属	板目	左右端折損	
270		SD02	下層	加工木	10.8	8.4	3.9	ヒノキ属	板目	はぼ完存	
271		SD02	下層	加工木	15.9	10.1	6.7	モミ属	芯持ち	先端折損	

報告番号	図版	遺構名	層位	器種	計測値（cm）			樹種	木取り	残存	備考
					現存長	現存幅	最大厚				
272		SD02	下層	加工木	14.8	14.2	7.8	クスノキ科類似	芯持ち	一部折損	
273		SD02	下層	加工木	27.7	7.8	2.4	ヒノキ属	板目	上端折損	
274		SD02	下層	杭	25.6	3.2	2.5	サカキ類似	芯持ち	上端折損	
275		SD02	下層	杭	19.2	2.6	2.4	コナラ属コナラ節	芯持ち	上端折損	
276		SD02	下層	杭	19.5	3.3	3.4	サカキ類似	芯持ち	上下端折損	
277		SD02	下層	杭	28.9	3.7	3.6	クスノキ科類似	芯持ち	上端折損	
278		SD02	下層	杭	27.3	4.7	3.9	コナラ属クヌギ節	芯持ち	上端折損	
279		SD02	下層	杭	11.3	3.9	4.1	クスノキ科類似	芯持ち	上端折損	
280		SD02	下層	杭	16.5	3.1	2.3	ヒサカキ	芯持ち	上端欠損	
281		SD02	下層	杭	17.4	3.5	2.9	ヒサカキ	芯持ち	上端折損	
282	69	SD02	下層	杭	20.6	3.6	2.9	サカキ	芯持ち	上端折損	
283		SD02	下層	杭	16.1	6.6	5.9	コナラ属クヌギ節	芯持ち	上端折損	
284		SD02	下層	杭	36.1	4.2	4.5	コナラ属クヌギ節	芯持ち	上端欠損	
285		SD02	下層	杭	17.8	4.5	3.6	サカキ	芯持ち	上端折損	
286		SD02	下層	杭	27.0	3.5	3.6	ヒサカキ	芯持ち	上端折損	
287		SD02	下層	杭	41.5	5.0	5.4	スダジイ	芯持ち	上端折損	
288		SD02	下層	杭	63.3	4.0	3.3	サカキ類似	芯持ち	上端折損	
289		SD02	下層	杭	50.4	5.3	4.8	コナラ属クヌギ節	芯持ち	上端折損	
366		SB04		板材	12.1	2.7	1.4	マツ属（複維管束亜属）	柾目	上端折損	
367		SB04		角材	(43.5)	2.2	1.5	ヒノキ属類似	－	中央部折損	

第 54 表　仲戸東遺跡木器観察表（2）

写真図版

図版 13　仲戸遺跡

調査前風景（東より）

調査前風景（西より）

Ⅰ・Ⅱ区 SR05 土層断面
（南より）

Ⅰ・Ⅱ区 SR06 土層断面
（北より）

Ⅰ・Ⅱ区 SR06 土層断面
（北より）

Ⅰ・Ⅱ区 SR06 全景
（北より）

図版 15　仲戸遺跡

Ⅰ・Ⅱ区 SR04 土層断面
（北より）

Ⅰ・Ⅱ区 SR04 南半全景
（北より）

Ⅰ・Ⅱ区 SR04 北半全景
（北より）

Ⅰ・Ⅱ区 SR04 立木出土状況　（南より）

Ⅰ・Ⅱ区 SR04 立木周辺縄文土器出土状況（南より）

Ⅰ・Ⅱ区 SD05 全景（北より）

図版 17　仲戸遺跡

Ⅰ区 SR04 遺物出土状況（東より）

Ⅰ・Ⅱ区 SR04 下層遺物出土状況（北より）

Ⅰ・Ⅱ区 SD05 土層断面（西より）

Ⅰ・Ⅱ区 SD06 土層断面（南より）

Ⅰ・Ⅱ区 SD06 下層遺物出土状況（西より）

Ⅰ・Ⅱ区 SD07 土層断面（南より）

Ⅰ・Ⅱ区 SD07 全景（北より）

Ⅰ・Ⅱ区 SD07 最下層遺物出土状況（東より）

Ⅰ区 SK04 土層断面（南より）

Ⅰ区 SK04 全景（南より）

Ⅱ区 SK03 土層断面（南より）

Ⅱ区 SK03 全景（南より）

Ⅱ区 SK02 土層断面（南より）

Ⅱ区 SK02 全景（南より）

Ⅰ区 SX01 南北土層断面（東より）

Ⅰ区 SX01 炭層検出状況（北より）

図版 19　仲戸遺跡

Ⅰ区全景（東より）

Ⅱ区全景（東より）

Ⅰ区全景（西より）

Ⅰ区遠景（南より）

Ⅲ区 SR03 全景（西より）

Ⅲ区 SR03 全景（北より）

図版 21　仲戸遺跡

Ⅳ区 SR02 全景（南より）

Ⅳ区 SR02 最下層遺物出土状況　（南より）

Ⅳ区 SR01 全景（北より）

Ⅳ区 SR02 下層遺物出土状況（北より）

Ⅳ区 SR01 中層遺物出土状況（南より）

Ⅳ区 SR01 下層遺物出土状況（南より）

Ⅳ区 SD02 土層断面（南より）

Ⅳ区 SD03 土層断面（西より）

Ⅳ区 SD04 土層断面（西より）

Ⅳ区 SD04 下層遺物出土状況（南より）

Ⅳ区 SD01 土層断面（南より）

図版 23　仲戸遺跡

Ⅳ区 SD02 全景（北より）

Ⅳ区 SD02 全景（南より）

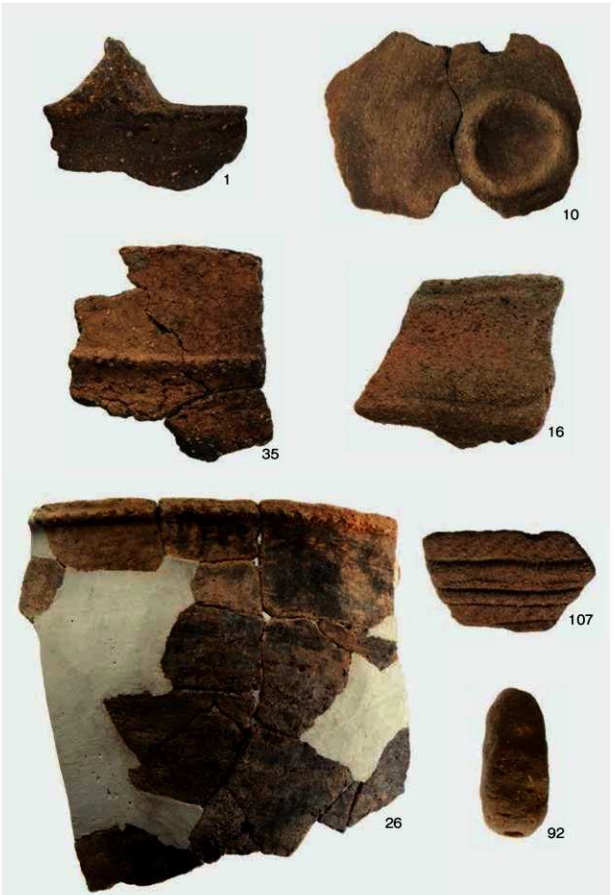
Ⅳ区 SD01 全景（北より）

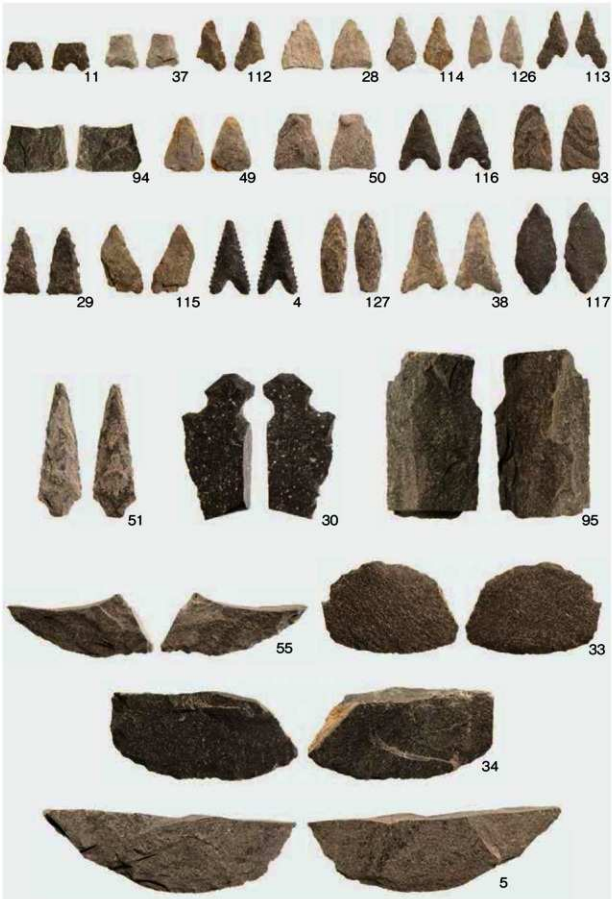
Ⅳ区全景（西より）

Ⅳ区遠景（北より）

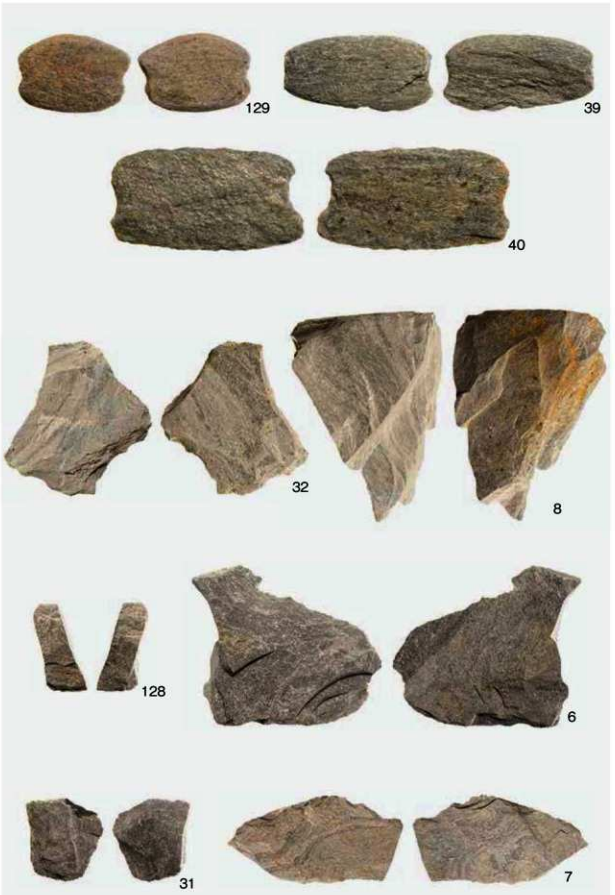
Ⅳ区調査区南壁土層断面
（南より）

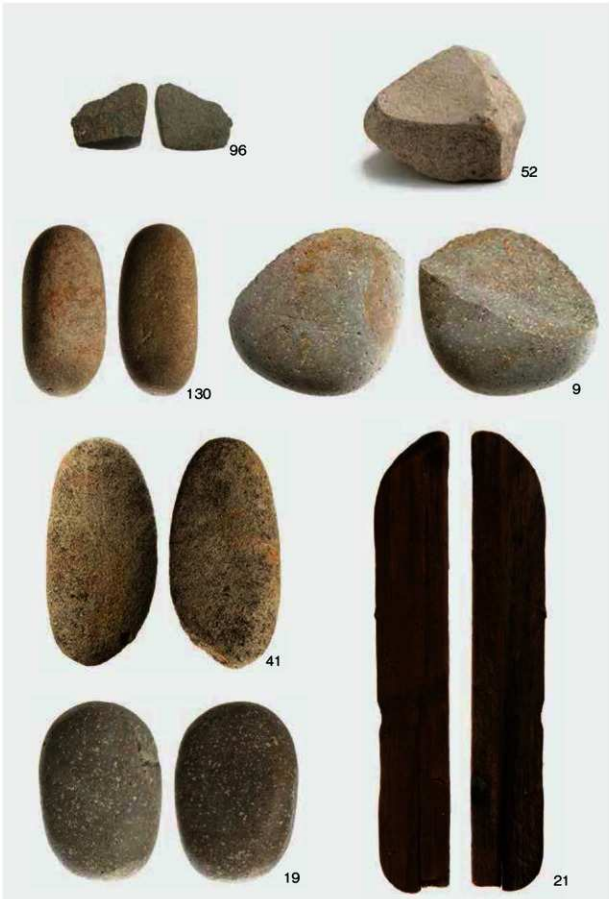
図版 25　仲戸遺跡




11
37
112
28
114
126
113
94
49
50
116
93
29
115
4
127
38
117
51
30
95
55
33
34
5

図版 27　仲戸遺跡




96
52
130
9
41
19
21

図版 29　仲戸東遺跡

調査前風景（東より）

調査前風景（西より）

Ⅰ区 SK01 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK24 遺物出土状況
（南より）

Ⅰ区 SK24 遺物出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK23 土層断面
（西より）

図版 31　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SK19 土層断面
（西より）

Ⅰ区 SK20 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK20 遺物出土状況
（西より）

Ⅰ区 SK20 遺物出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK20 遺物出土状況
（南より）

Ⅰ区 SK26 土層断面
（南東より）

図版 33　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SK29 土層断面
（北より）

Ⅰ区 SK29 板材出土状況
（南より）

Ⅰ区 SK29 遺物出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK28 土層断面
（北より）

Ⅰ区 SK30 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK30 遺物出土状況
（北より）

図版 35　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SK30 遺物出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK30 遺物出土状況
（南より）

Ⅰ区 SK30 遺物出土状況
（東より）

Ⅰ区 SK31 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK31 遺物出土状況
（南より）

Ⅰ区 SK32 土層断面
（南より）

図版 37　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SK21 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK27 土層断面
（東より）

Ⅰ区 SK27 遺物出土状況
（西より）

Ⅰ区 SK27 板材出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK27 板材出土状況
（東より）

Ⅰ区 SK13 土層断面
（北東より）

図版 39　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SK13 遺物出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK16 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK04 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK14 土層断面
（西より）

Ⅰ区 SK11 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK11 土層断面細部
（南より）

図版 41　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SK11 遺物出土状況
（西より）

Ⅰ区 SK12 遺物出土状況
（西より）

Ⅰ区 SK12 遺物出土状況
（西より）

Ⅰ区 SK12 板材出土状況
（西より）

Ⅰ区 SK09 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK09 遺物出土状況
（東より）

図版 43　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SK10 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK03 遺物出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK03 遺物出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK03 遺物出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK03 木製品出土状況
（北より）

Ⅰ区 SK03 遺物出土状況
（東より）

図版 45　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SK06 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK08 土層断面
（南より）

Ⅰ区 SK07 土層断面
（南東より）

Ⅰ区 SK33 土層断面
（西より）

Ⅰ区 SK33 遺物出土状況
（南より）

Ⅰ区 SK33 遺物出土状況
（北より）

図版 47　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SD02 土層断面（西より）

Ⅰ区 SD02 土層断面（西より）

Ⅰ区 SD02 遺物出土状況層遺物出土状況（東より）

Ⅰ区 SD02 遺物出土状況（南より）

Ⅰ区 SD02 遺物出土状況（西より）

Ⅰ区 SD02 遺物出土状況（南より）

Ⅰ区 SD02 下層遺物出土状況（南より）

Ⅰ区 SD02 下層遺物出土状況（南より）

Ⅰ区 SD02 下層遺物出土状況（北より）

Ⅰ区 SR03 遺物出土状況（南より）

Ⅰ区 SR03 遺物出土状況（西より）

Ⅰ区 SR03 遺物出土状況（南より）

Ⅰ区 SR03 灰層検出状況（西より）

Ⅰ区 SR03 全景（南より）

Ⅰ区 SR03（調査区北壁）土層断面（南より）

Ⅰ区東半部全景（西より）

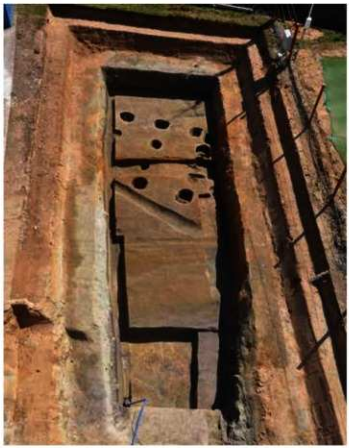
図版 49　仲戸東遺跡

Ⅰ区 SR03 土層断面
（西より）

Ⅰ区 SR03 遺物出土状況
（東より）

Ⅰ区東半部全景
（東より）

Ⅰ区全景（西より）



Ⅱ区全景（西より）

図版 51　仲戸東遺跡

Ⅱ区 SP04 根石出土状況
（東より）

Ⅱ区 SP12 根石出土状況
（北より）

Ⅱ区 SB01 全景
（北より）

Ⅱ区 SD01 遺物出土状況
（南西より）

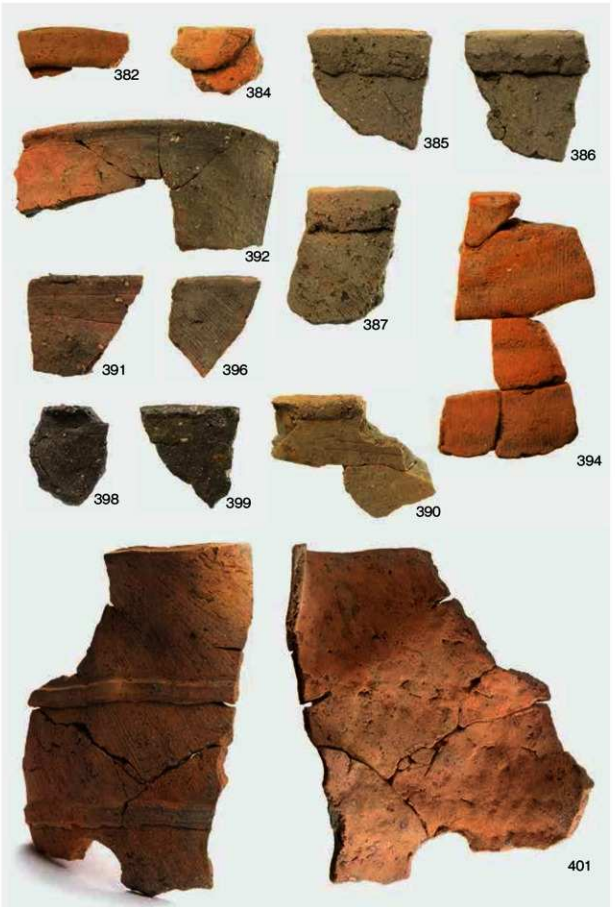
Ⅱ区 SR01 全景
（南西より）

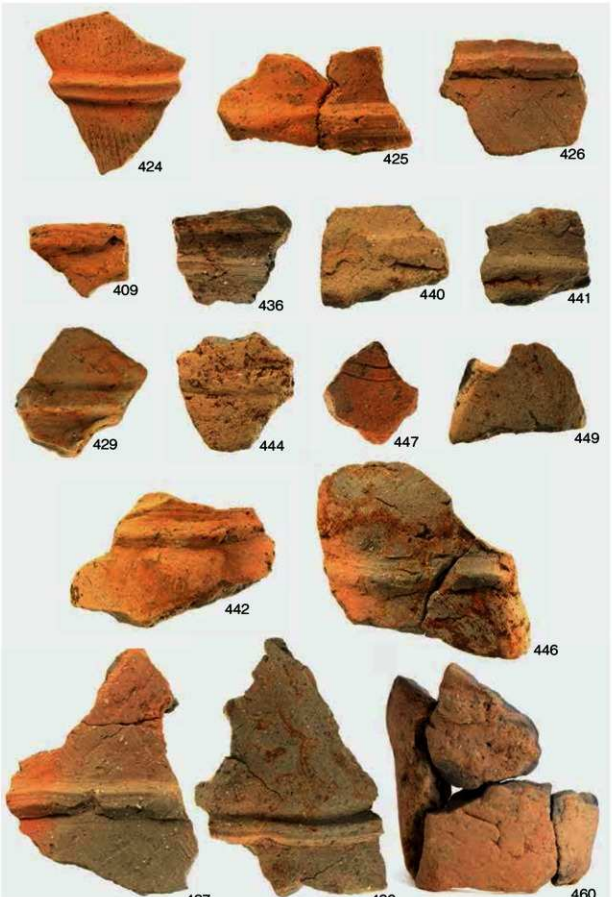
Ⅱ区調査区北壁土層断面
（南西より）

図版 53　仲戸東遺跡

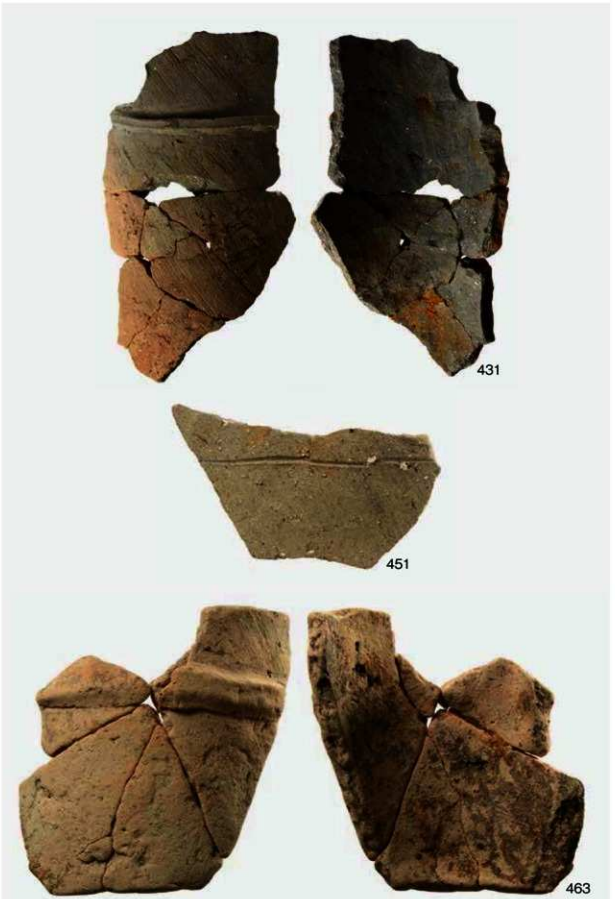
84
177
179
87
88
191
192
193
219
220
348
346
347
344
343
345
342
340
341
218
217
303
67
72
39

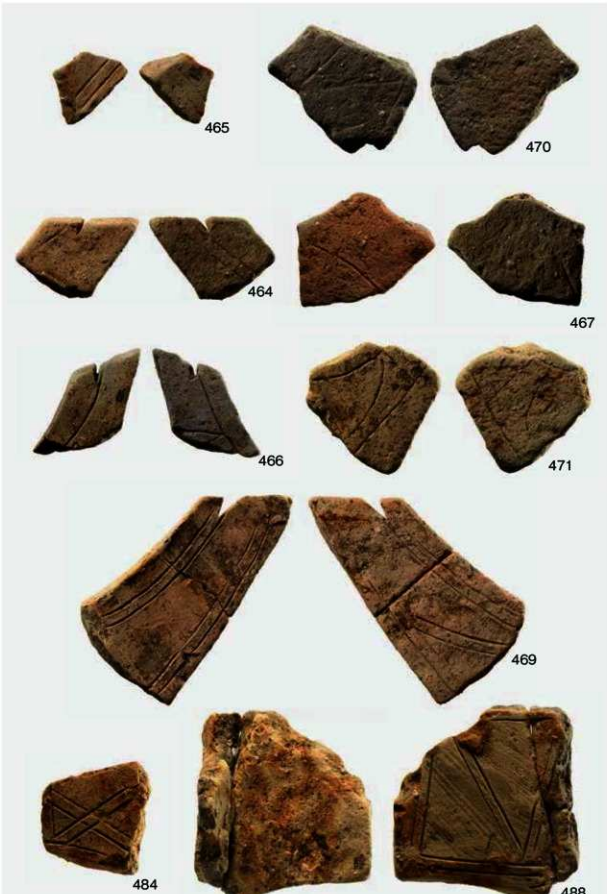
図版 55　仲戸東遺跡




424
425
426
409
436
440
441
429
444
447
449
442
446
427
430
460

図版 57　仲戸東遺跡




465
470
464
467
466
471
469
484
488

図版 59　仲戸東遺跡

472

472 拡大

489 断面

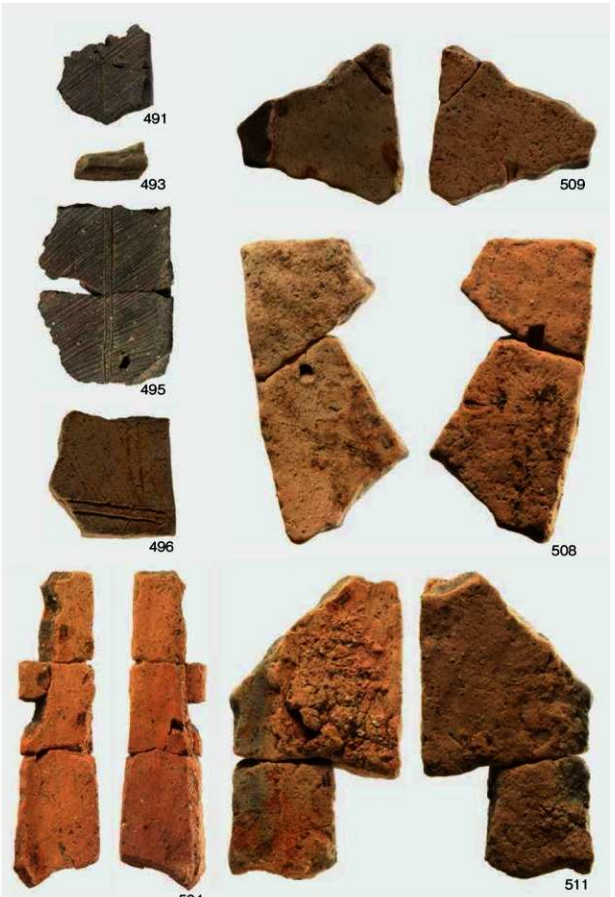
489 形象部外面

489 拡大

489 円筒部内面

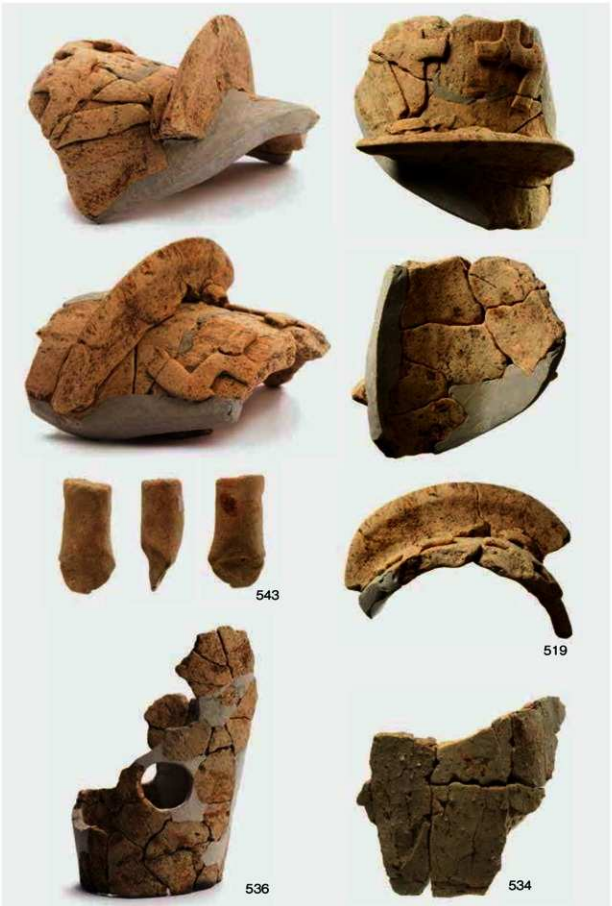
489 円筒部外面

図版 61　仲戸東遺跡

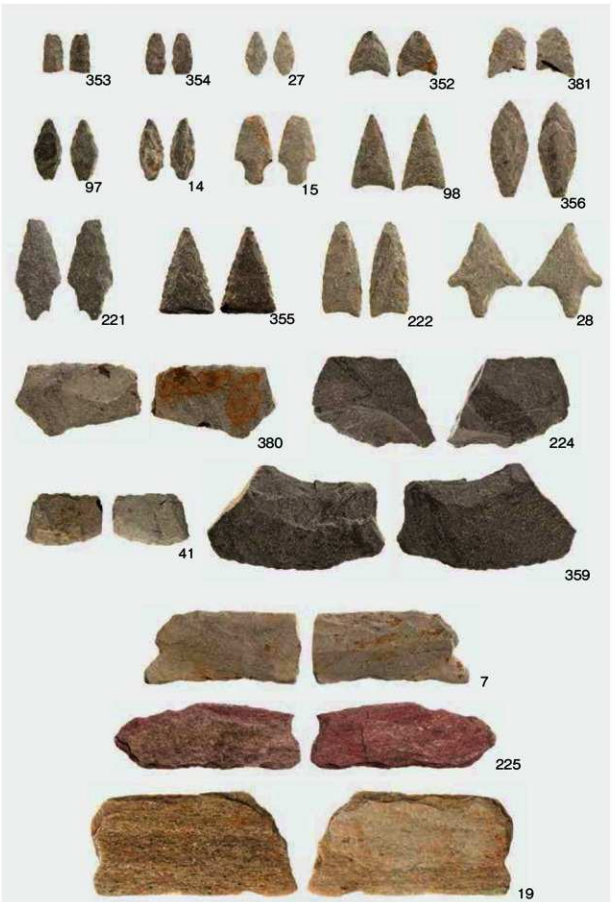


514

図版 63　仲戸東遺跡


543
519
536
534

図版 65　仲戸東遺跡


353
354
27
352
381
97
14
15
98
356
221
355
222
28
380
224
41
359
7
225
19

357

47

223

358

33

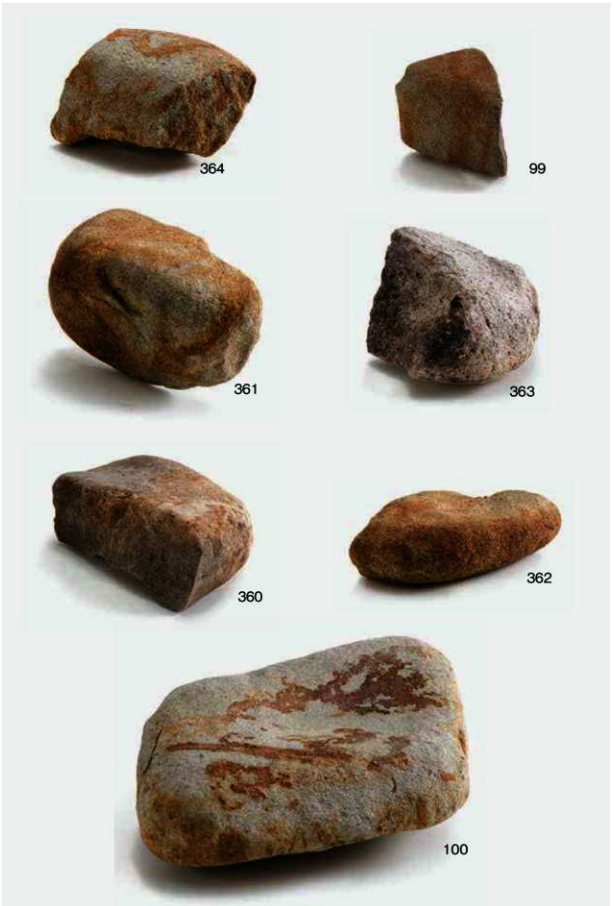
48

73

365

226

図版 67　仲戸東遺跡



101
227
228
229
236
123
102
230
236 拡大
231
251

282
122
126
131
235

報告書抄録

ふりがな	なかといせき　なかとひがしいせき
書名	仲戸遺跡　仲戸東遺跡
副書名	国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	第 1 冊
編著者名	藏本晋司（編）、文化財調査コンサルタント（株）、（株）加速器分析研究所、藤根久、竹原弘展、パリノ・サーヴェイ（株）、石丸恵理子
編集機関	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒 762-0024　香川県坂出市府中町字南谷 5001-4 ℡、0877-48-2191　Mail　maibun@pref.kagawa.lg.jp
発行機関名	香川県教育委員会・国土交通省四国地方整備局
発行年月日	2016 年 3 月 25 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
仲戸遺跡（なかといせき）	香川県東かがわ市川東（かがわけん ひがしかがわしかわひがし）	37207		34°14′34″	134°19′43″	2008 年 11 月 1 日～2011 年 1 月 30 日	3,695㎡	国道 11 号大内白鳥バイパス改築
仲戸東遺跡（なかとひがしいせき）	香川県東かがわ市川東（かがわけん ひがしかがわしかわひがし）	37207		34°14′32″	134°19′54″	2008 年 7 月 1 日～10 月 30 日（1 次調査） 2013 年 3 月 1 日～3 月 29 日（2 次調査）	1,251㎡	国道 11 号大内白鳥バイパス改築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仲戸遺跡	集落	縄文後期／縄文晩期／弥生終末期～古墳前期／中世	土坑 4 ／溝 7 ／自然河川 6	縄文土器／弥生土器／須恵器／土師器／石器	
仲戸東遺跡	集落・生産	弥生時代後期／古墳時代中～後期／中世	掘立柱建物 2 ／溝 2 ／土坑 33 ／自然河川 1	弥生土器／須恵器／土師器／円筒埴輪／形象埴輪／石器／木製品	形象埴輪は、蓋・盾・石見型・船・馬・人物？が出土している。

要約

仲戸遺跡

遺跡は、与田川右岸の微高地上に立地する。縄文時代後期～弥生時代後期の自然河川 5 条以上を検出した。また、弥生時代後期～古墳時代前期初頭には、遺跡東半部を中心に、複数の灌漑水路を検出し、周辺での耕地開発の進展が認められた。中世初頭 12 世紀には、遺跡周辺の条里型地割の方向に合致する水路が開削され、遺跡周辺での同地割の形成時期を考える資料が得られた。

仲戸東遺跡

遺跡は、古川と秋葉山丘陵との間の狭小な平地上に立地する。調査区北端部で、秋葉山丘陵より古川へ流下する谷状地形を検出し、弥生時代から古代初頭にかけての遺物が出土した。その南の微高地上では、33 基以上の粘土採掘土坑群、丘陵裾部で 2 棟の掘立柱建物が調査された。土坑等からは多数の円筒・形象埴輪が出土し、谷部からは灰原層とみられる堆積層も確認されたことから、調査地周辺での埴輪窯の存在が推定され、古墳時代後期の埴輪生産にかかわる遺跡と評価した。

また、8 ～ 10 世紀には谷部上面に排水路が開削され、多数の木製品のほか、木屑や板材等が出土し、周辺での木製品の製作工房の存在が推定された。

国道11号大内白鳥バイパス改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告　第1冊

仲戸遺跡・仲戸東遺跡

2016年3月25日
編集　香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4
Tel 0877-48-2191
E-Mail　maibun@pref.kagawa.lg.jp
発行　香川県教育委員会
国土交通省四国地方整備局
印刷　ワールド印刷株式会社